鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（32）

― 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅲ ―

（伊集院ＩＣ～市来ＩＣ）

池之頭（いけのかしら）遺跡

２００２年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　文

これは南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に先立って，平成10・12年度に実施した池之頭遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査では，旧石器時代の遺物を初め，中世までの遺物が多数発見されました。

なかでも，古墳時代の遺物出土状況は，本県における貴重な資料として注目されます。

本書は，地域の縄文時代，古墳時代の解明に貴重な手掛かりを提供するものであり，文化財保護や研究のために活用していただければ幸いです。

終わりに，発掘調査に御協力くださった関係各位の皆様をはじめ，発掘調査に参加された地元の皆様に対して心から感謝いたします。

平成14年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　井上明文

報告書抄録

ふりがな	いけのかしらいせき
書名	池之頭遺跡
副書名	南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	Ⅲ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第32集
編集者名	宮田洋一
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-5652 鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地　TEL0995－65－8787
発行年月日	西暦2002年3月1日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いけのかしらいせき 池之頭遺跡	かごしまけんひおきぐん 鹿児島県日置郡 ひがしいちきちょう　みやま 東市来町 美山 あざいけのかしら 字池之頭	463621	29－92	31度 38分 18秒	130度 21分 22秒	確認調査 1997 810 ～ 1997 812 全面調査 1998 824 ～ 1999 310	28 7,500	南九州西回り自動車道鹿児島道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池之頭遺跡	包含地	旧石器時代 縄文時代 早期 中期 晩期 古墳時代 中世	集石8基・石皿集積1	ナイフ形石器・台形石器・石核・スクレイパー 細石刃・細石刃核・ブランク 前平式土器・吉田式土器 石坂式土器 春日式土器・並木式土器 阿高式土器・南福寺式土器 入佐式土器・黒川式土器 成川式土器 土師器	

第１図　遺跡位置図

例　言

1　この報告書は，南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に伴う池之頭遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は，国土交通省鹿児島国道工事事務所の受託事業として，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

3　本書で用いたレベル数値は，すべて海抜高である。

4　本書で用いた挿図中の通し番号は，図版中の番号と同一である。

5　発掘調査においては，東市来町教育委員会の協力・援助を得た。

6　現地調査に関する実測及び写真撮影は，調査担当者（宮田洋一・寺原　徹）で行った。

7　本書の執筆は宮田が行った。

8　遺物写真の撮影及びプリントは，横手浩二郎が行った。

9　本書の編集は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い，宮田がこれを担当した。

10　石器実測は，(株)文化財環境整備研究所に委託した。

11　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用を計画中である。

目　次

序　文
報告書抄録
遺跡位置図
例　言
目　次

第Ⅰ章　はじめに……12
　第1節　調査に至るまでの経緯と経過……12
　第2節　確認調査の経過と概要……12

第Ⅱ章　調査の経緯と組織……16
　第1節　調査に至る経緯……16
　第2節　調査の組織……16
　第3節　調査の経過……18

第Ⅲ章　遺跡の位置と環境……21
　第1節　遺跡の環境……21
　第2節　周辺の遺跡……21

第Ⅳ章　遺跡の層位……24

第Ⅴ章　調査の概要……27
　第1節　調査の概要……27

　第2節　旧石器時代の遺物……29

　第3節　縄文時代……33
　　(1)遺構……33
　　(2)遺物……39
　第4節　弥生時代～古墳時代の遺物…… 100

　第5節　中世の遺物…… 141

第Ⅵ章　まとめにかえて…… 142

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図
第２図　南九州西回り自動車道鹿児島道路(伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間)遺跡位置図… 11
第３図　周辺遺跡位置図……22
第４図　土層模式図……24
第５図　土層断面図……25
第６図　グリッド配置図……28
第７図　旧石器時代出土遺物（１）…… 29
第８図　旧石器時代出土遺物（２）…… 30
第９図　旧石器時代遺物出土状況……31
第10図　集石（１）…… 33
第11図　集石（２）…… 34
第12図　集石（３）…… 35
第13図　集石（４）…… 35
第14図　集石（５）…… 36
第15図　集石（６）…… 36
第16図　集石（７）…… 37
第17図　集石（８）…… 37
第18図　石皿集積……38
第19図　縄文土器出土状況……40
第20図　縄文土器接合図……41
第21図　縄文土器（１）…… 42
第22図　縄文土器（２）…… 43
第23図　縄文土器（３）…… 45
第24図　縄文土器（４）…… 46
第25図　縄文土器（５）…… 47
第26図　縄文土器（６）…… 48
第27図　縄文土器（７）…… 49
第28図　縄文土器（８）…… 50
第29図　縄文土器（９）…… 51
第30図　縄文土器（10）…… 52
第31図　縄文土器（11）…… 53
第32図　縄文土器（12）…… 54
第33図　縄文土器（13）…… 57
第34図　縄文土器（14）…… 58
第35図　縄文土器（15）…… 59
第36図　縄文土器（16）…… 60
第37図　縄文土器（17）…… 61

第38図　縄文土器（18）…… 62
第39図　縄文土器（19）…… 63
第40図　縄文土器（20）…… 64
第41図　縄文土器（21）…… 65
第42図　縄文土器（22）…… 66
第43図　縄文土器（23）…… 67
第44図　縄文土器（24）…… 69
第45図　縄文土器（25）…… 70
第46図　縄文土器（26）…… 71
第47図　縄文土器（27）…… 72
第48図　縄文土器（28）…… 74
第49図　縄文土器（29）…… 75
第50図　縄文土器（30）…… 76
第51図　縄文土器（31）…… 77
第52図　縄文時代出土石器（1）…… 86
第53図　縄文時代石器出土状況……88
第54図　縄文時代出土石器（2）…… 89
第55図　縄文時代出土石器（3）…… 90
第56図　縄文時代出土石器（4）…… 91
第57図　縄文時代出土石器（5）…… 92
第58図　縄文時代出土石器（6）…… 93
第59図　縄文時代出土石器（7）…… 94
第60図　縄文時代出土石器（8）…… 95
第61図　縄文時代出土石器（9）…… 96
第62図　縄文時代出土石器（10）…… 97
第63図　弥生～古墳時代土器出土状況…… 101
第64図　弥生～古墳時代土器出土状況（掲載分）……102
第65図　土器接合図（1）……103
第66図　土器接合図（2）……104
第67図　甕形土器（1）……105
第68図　甕形土器（2）……106
第69図　甕形土器（3）……107
第70図　甕形土器（4）……108
第71図　甕形土器（5）……110
第72図　甕形土器（6）……111
第73図　甕形土器（7）……112
第74図　甕形土器（8）……113
第75図　甕形土器（9）……114
第76図　甕形土器脚部（1）……115
第77図　甕形土器脚部（2）……116

第78図　壷形土器（1）……117
第79図　壷形土器（2）……119
第80図　壷形土器（3）……120
第81図　壷形土器（4）……121
第82図　壷形土器（5）……122
第83図　壷形土器（6）……123
第84図　壷形土器（7）……125
第85図　壷形土器底部……126
第86図　鉢形土器……128
第87図　高坏形土器……130
第88図　高坏形土器脚部……131
第89図　坩形土器・手捏ね土器……133
第90図　弥生～古代石器（1）……139
第91図　弥生～古代石器（2）……140
第92図　中世出土遺物……141

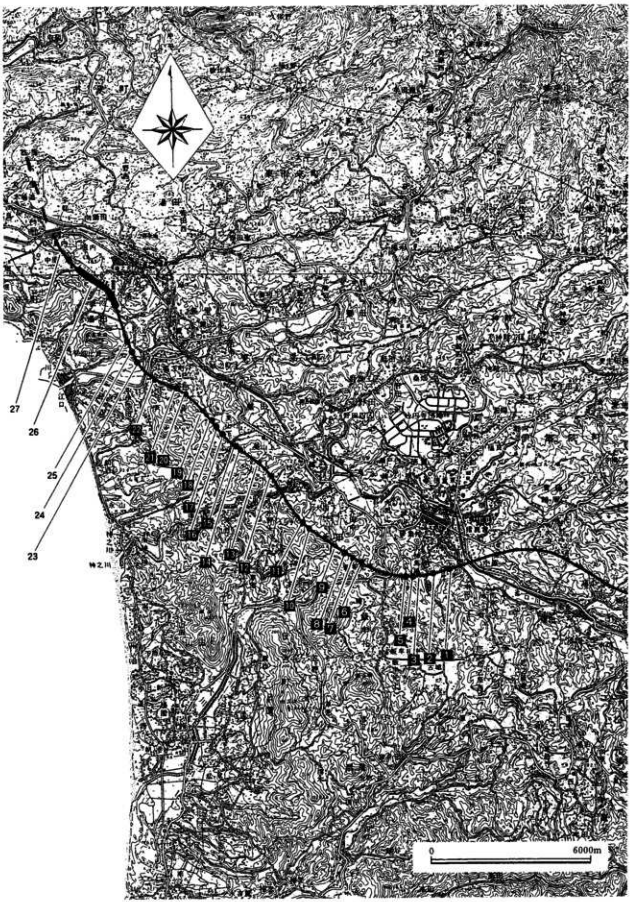
表　目　次

第1表　西回り自動車道鹿児島道路(伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表……15
第2表　周辺の遺跡地名表……23
第3表　旧石器石器分類表……32
第4表　縄文土器観察表（1）……78
第5表　縄文土器観察表（2）……79
第6表　縄文土器観察表（3）……80
第7表　縄文土器観察表（4）……81
第8表　縄文土器観察表（5）……82
第9表　縄文土器観察表（6）……83
第10表　縄文土器観察表（7）……84
第11表　縄文土器観察表（8）……85
第12表　縄文石器分類表（1）……98
第13表　縄文石器分類表（2）……99
第14表　土器観察表　（1）……134
第15表　土器観察表　（2）……135
第16表　土器観察表　（3）……136
第17表　土器観察表　（4）……137
第18表　土器観察表　（5）……138
第19表　弥生～古代石器分類表……140
第20表　中世遺物観察表……141

第21表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（1）……145
第22表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（2）……146
第23表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（3）……147
第24表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（4）……148
第25表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（5）……149

図版目次

図版1　遺跡遠景・土層断面……151
図版2　作業風景（1）（2）……152
図版3　集石1，6……153
図版4　石皿集積・遺物出土状況（1）……154
図版5　遺物出土状況（2），（3）……155
図版6　旧石器……156
図版7　縄文土器（1）……157
図版8　縄文土器（2）……158
図版9　縄文土器（3）……159
図版10　縄文土器（4）……160
図版11　縄文土器（5）……161
図版12　縄文土器（6）……162
図版13　縄文土器（7）……163
図版14　縄文土器（8）……164
図版15　縄文土器（9）……165
図版16　縄文土器（10）……166
図版17　縄文土器（11）……167
図版18　縄文土器（12）……168
図版19　縄文土器（13）……169
図版20　出土石器（1）……170
図版21　出土石器（2）……171
図版22　磨石・敲石……172
図版23　石皿……173
図版24　甕形土器（1）……174
図版25　甕形土器（2）……175
図版26　壺形土器……176
図版27　壺・鉢・高坏形土器……177
図版28　高坏脚部・坩形土器・手捏ね土器……178
図版29　出土石器（3）……179



第２図　南九州西回り自動車道鹿児島道路（伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間）遺跡位置図

第Ⅰ章　はじめに

第1節 調査に至るまでの経緯と経過 （鹿児島道路伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間）

建設省九州地方建設局（中央省庁再編により平成13年１月より国土交通省九州地方整備局に改称）は，鹿児島～市来間に南九州西回り自動車道鹿児島道路の建設を計画し，事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（組織改革により平成８年度より文化財課に改称）に照会した。この計画に伴い，鹿児島県立埋蔵文化財センターが平成３年６月に伊集院ＩＣと市来ＩＣ間の埋蔵文化財の分布調査を実施したところ，当事業区間内には，27か所の遺物散布地および確認調査の必要な地点が存在することが判明した。

事業区間内の埋蔵文化財の取り扱いについては，建設省鹿児島国道工事事務所と文化課との協議に基づき，鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で委託契約が結ばれ，埋蔵文化財の確認調査・緊急発掘調査が実施されることになった。

これを受けて，平成８年から平成12年にかけて，各年度計画的かつ継続して各遺跡の確認調査および緊急発掘調査を実施し，埋蔵文化財の記録保存を図ることになった。発掘調査は鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

なお，事業区間内の確認調査の経過と概要については，以下のとおりである。

第2節 確認調査の経過と概要

1　一ノ谷　鹿児島道路実施計画図のセンターラインSTA 535 とSTA 540 を結ぶ線を基準に，1.5 × 1.5m，３×６m，３×40mのトレンチを各１か所ずつ設定して確認調査を実施した。その結果，近世から近代にかけての掘立柱建物跡などの遺構や遺物が検出された。調査面積は1,250 ㎡，標高は約90～95mである。

2　永迫平　STA 510 とSTA 520 を結ぶ線を基準に，台地上に２×３mのトレンチ16か所を設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代ナイフ形石器文化期，縄文時代早期･後期･晩期，平安時代，中世，近世の遺物が出土した。調査面積は14,000 ㎡，標高は約150 mである。

3　下永迫Ｂ　両側を谷に挟まれた舌状の台地に位置し，標高は約120 ～130 mである。１×10 mのトレンチを１か所設定して確認調査を実施した。その結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存しておらず，遺構も検出されなかった。

4　下永迫Ａ　２つのやせ尾根に挟まれた谷地に位置し，標高は約85～110 mである。STA 495とSTA 500 を結ぶ線を基準に37×２mのトレンチを１か所，２×１mのトレンチを１か所設定して確認調査を実施した。その結果，古代から中世にかけての遺物が出土し，溝状遺構・焼土城等が検出された。調査面積は2,000 ㎡である。

5　柳　原　棚田状の傾斜地に位置し，標高は約90～110 mである。地形等を考慮して19×２mのトレンチを１か所，13×２mのトレンチを１か所，７×２mのトレンチを２か所，１×１mのトレンチを６か所設定して確認調査を実施した。その結果，古代から中世にかけての遺物が出土した。調査面積は6,000 ㎡である。

6　道祖瀬戸　標高約110～115 mの台地端の傾斜面に位置する。地形等を考慮して1×2 mのトレンチを2か所，1×1 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存せず，遺構も検出されなかった。

7　狩待迫　台地から谷に向かう標高約110～115 mの迫状の地形に位置する。地形等を考慮して1×1 mのトレンチを2か所，1×2 mのトレンチを3か所設定して確認調査を実施した。その結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存せず，遺構も検出されなかった。

8　上山路山　標高約125～133 mの台地端の緩傾斜地に位置する。2×3 mを基本とするトレンチを9か所設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代細石刃文化期・縄文時代早期・後期，弥生時代中期の遺物が出土した。調査面積は6,000 ㎡である。

9　木場田　標高約95～105 mのやせ尾根状の台地先端部に位置する。確認調査の結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存せず，遺構も検出されなかった。

10　敷田尾　台地から西側へ延びる標高約80～110 mの緩傾斜面に位置する。2×3 mのトレンチを13か所設定して確認調査を実施した。その結果，遺物包含層は残存していなかったが，大正年間まで利用されていたと思われる古道が検出された。

11　大田城　標高約120 mの台地上に位置する。地形などを考慮して2×3 mを基本とするトレンチを7か所設定して確認調査を実施した。その結果，中世の山城跡に関連する遺構や遺物は検出されなかったが，下層から縄文時代早期と旧石器時代細石刃文化期等の遺物が出土した。調査面積は4,000 ㎡である。

12　堂ノ上　詳細分布および試掘調査の結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存しておらず，遺構も検出されなかった。

13　枦ケ丸　詳細分布および試掘調査の結果，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存しておらず，遺構も検出されなかった。

14　小谷口　標高約50～80mの擂鉢状の谷地形に位置する。堂平窯跡に隣接することから，新たな窯の存在が予想されたが，詳細分布および試掘調査の結果，遺物包含層は残存せず，遺構も検出されなかった。

15　堂平窯　標高約70～90mの台地端の傾斜面に位置する。2×1 mのトレンチを1か所，1×1 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。その結果，物原と思われる陶器類の堆積層が確認され，窯の存在が明らかとなった。調査面積は3,500 ㎡である。

16　池之頭　尾根状の台地および隣接する平坦部からなり，標高は約80～100 mである。2×4 mのトレンチを3か所，2×2 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。その結果，古墳時代の遺物が出土した。調査面積は約7,500 ㎡である。

17　雪山　STA 245とSTA 250を結ぶ線を基準に，2×10mのトレンチを1か所，2×16mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代・縄文時代早期・中期・後期の遺物と近世から近代にかけてのものと思われる遺構や遺

物が発見された。標高は約95m，調査面積は2,700㎡である。

18 猿　引　標高約110～115 mの馬の背状の尾根に位置する。地形を考慮して2.4×24m・2.4×18m・2.4 ×11m・1.5 ×11mのトレンチを1か所ずつ設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代ナイフ形石器文化期の礫群や遺物，同細石刃文化期の遺物等が出土した。調査面積は800㎡である。

19 前山ノ口　山地から北側へ延びる標高約60～80mの傾斜面に位置する。地形などを考慮し，2×3 mのトレンチを3か所設定して確認調査を実施したが，表層下はシラスであり，遺物包含層は残存せず，遺構も検出されなかった。

20 日ノ出落シ　標高約60～70mの舌状台地の先端部に位置する。地形等を考慮し，2×3 mのトレンチを4か所，2×2 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施したが遺物包含層は削平されており，遺構も検出されなかった。

21 犬ケ原　標高約66mの独立丘陵に位置する。谷部に2×3 mのトレンチを3か所，台地上に1×1 mのトレンチを2か所，2×3 mのトレンチを3か所設定して確認調査を実施した。その結果，古代から中世にかけての遺物が出土した。調査面積は2,000㎡である。

22 赤　平　台地から南へ延びるやせ尾根に位置し，標高は約50mである。2×10mのトレンチを2か所，1×3 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。その結果，遺物包含層は削平されていたが，シラス上面でピット22基を検出した。調査面積は250㎡である。

23 向椿城　標高約50mの独立台地上に位置する。2×5 mのトレンチを4か所，2×10mのトレンチを1か所，2×30mのトレンチを2か所設定して確認調査を実施した。その結果，縄文時代早期・後期・平安時代・中世等の遺物や中世の建物跡，溝状遺構・鍛冶炉などが検出された。調査面積は14,000㎡である。

24 堂園平　舌状台地の平坦部に位置し，標高は約53mである。2×5 mのトレンチを6か所設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代，縄文時代早期・前期・後期，平安時代，中世の遺物が出土した。調査面積は2,000㎡である。

25 今　里　標高約65mの台地端の傾斜地に位置する。地形等を考慮して2×5 mのトレンチを11か所，2×4 mのトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。その結果，縄文時代早期・晩期，古墳時代などの遺物が出土した。調査面積は14,000㎡である。

26 市ノ原　標高約40～65mの台地西側に位置する。遺跡範囲が広く，長距離におよぶため，2×4 mのトレンチを64か所設定して確認調査を実施した。その結果，旧石器時代，縄文時代早期・前期・中期，弥生時代，古墳時代，平安時代，中世，近世など各時代の遺物が多量に出土した。調査面積は62,000㎡である。

27 上ノ原　標高約40mの台地上の平坦面に位置する。地形などを考慮し，2×4 mのトレンチを4か所設定して確認調査を実施した。その結果，縄文時代早期，古墳時代，古代，中世の遺物が出土した。調査面積は2,000㎡である。

第１表　南九州西回り自動車道鹿児島道路(伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間) 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	備考
1	一ノ谷	伊集院町下谷口	確認 H10 全面 H8.10～11	1,250㎡	三垣・桑波田	中世・近世	県埋文センター報告書(31)
2	永迫平	伊集院町下谷口	確認 H8.10～12 全面 H8.12～H9.3 H9.4～H10.3 H10.5～7	14,000㎡	三垣・桑波田 三垣・桑波田 繁昌・藤崎 繁昌・中原・川口・大窪	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石刃文化期 縄文時代早期・後期・晩期 古代～近世	
3	下永迫B	伊集院町下谷口	確認 H9.10	10㎡	三垣・元田		
4	下永迫A	伊集院町下谷口	確認 H9.10 全面 H10.5～7	2,600㎡	池畑・三垣・元田 上之園・栗林	古代：中世	
5	柳原	伊集院町下谷口	確認 H9.11 全面 H10.7～10	6,000㎡	池畑・三垣・元田 繁昌・中原・川口・大窪	古代～中世 中世～近代	
6	道祖瀬戸	伊集院町大田	確認 H9.2	5㎡	三垣・桑波田		
7	狩侍迫	伊集院町大田	確認 H9.1	8㎡	三垣・桑波田		
8	上山路山	伊集院町大田	確認 H9.2 全面 H9.5～8 H9.12～H10.3	6,000㎡	三垣・桑波田 寺原・桑波田 寺原・桑波田	旧石器時代 縄文時代早期・晩期 弥生・古墳時代	
9	木場田	伊集院町大田	確認 H10.5	12.5㎡	繁昌		
10	敷田尾	伊集院町大田	確認 H10.6～7	76㎡	繁昌		
11	大田城	伊集院町大田	確認 H8.12 H9.1 全面 H9.12～H10.3	4,000㎡	三垣・桑波田 三垣・桑波田 湯之前・橋口（勝）	旧石器時代 縄文時代早期	
12	堂ノ上	東市来町寺脇	詳細分布		牛ノ濵		
13	桁ケ丸	東市来町寺脇	詳細分布		牛ノ濵		
14	小谷口	東市来町美山	詳細分布		池畑・繁昌		
15	堂平窯	東市来町美山	確認 H10.2 全面 H10.8～12	3,500㎡	池畑 池畑・繁昌・宮田(栄)・寺師 森田・元田・川口・大窪	江戸時代	
16	池之頭	東市来町美山	確認 H9.8 全面 H10.8～H11.3 H12.7～8	7,500㎡	湯之前・橋口（勝） 宮田（洋）・寺原 宮田（洋）・三垣	旧石器時代細石刃文化期 縄文時代早期・後期・晩期 古墳時代	本報告書
17	雪山	東市来町美山	確認 H12.6 全面 H12.6～8	2,700㎡	宮田（洋）・三垣 宮田（洋）・三垣	縄文時代早期 近世～近代	
18	猿引	東市来町長里	確認 H12.5 全面 H12.5～6	800㎡	宮田（洋）・三垣 宮田（洋）・三垣	旧石器時代ナイフ形石器文化期 縄文時代前期	
19	前山ノ口	東市来町伊作田	確認 H9.7	18㎡	前野・西村		
20	日ノ出落シ	東市来町伊作田	確認 H9.2	28㎡	池畑		
21	犬ケ原	東市来町伊作田	確認 H9.2 H10.6 全面 H11.12～H12.2	2,000㎡	池畑 三垣 牛ノ濵・橋口（勝）	古代・中世	
22	赤平	東市来町伊作田	確認・全面 H11.7	250㎡	前野・三垣	古代～中世	
23	向椿城	東市来町伊作田	確認 H8.11～12 全面 H9.4～H10.3 H10.10～H11.3	14,000㎡	池畑・西園 鶴田・勇 八木澤・横手	縄文時代草創期・早期・後期 古墳時代 中世・近世	
24	堂園平	東市来町伊作田	確認 H8.11～12 全面 H10.5～11	2,000㎡	池畑・西園 八木澤・横手	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石刃文化期 縄文時代早期,前期,後期・古代	
25	今里	東市来町伊作田	確認 H8.11 全面 H9.4～11	14,000㎡	池畑・西園 湯之前・橋口	旧石器時代 縄文時代早・前・後・晩期 古墳時代	
26	市ノ原	東市来町湯田 市来町大里	確認 H8.10～12 全面 H8.12～H9.3 H9.4～H10.3 H10.5～H11.3 H11.5～7	62,000㎡	繁昌・西園・宮田(茂) 池畑・繁昌・西園・宮田(茂) 池畑・寺師・前野・森田 八木澤・中原・藤野・三垣 元田・西村・松村・松崎 宮田(洋)・前野・寺原・三垣・松村 前野・三垣	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石刃文化期 縄文時代早・前・中・後・晩期 弥生時代 古墳時代 古代～中世	
27	上ノ原	東市来町大里	確認 H8.11 全面 H10.7～9	2,000㎡	繁昌・宮田（茂） 上之園・栗林	縄文時代早期 古墳時代 古代～中世	

第Ⅱ章 調査の経過と組織

第1節 調査に至る経緯

国土交通省九州地方整備局は，鹿児島～市来間に南九州西回り自動車道鹿児島道路の建設を計画し，平成13年度現在，工事が進められている。

工事区間内の埋蔵文化財の取り扱いについては，鹿児島県教育委員会と国土交通省鹿児島国道工事事務所との協議に基づき，鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で発掘調査に拘わる委託契約が結ばれ，埋蔵文化財の確認調査・緊急発掘調査が進められている。

池之頭遺跡については，平成３年６月に分布調査が行われ遺物の散布が認められたため，平成９年８月に３日間に渡り確認調査を行った。２ｍ×４ｍのトレンチを３本，２ｍ×２ｍのトレンチを１本設定し掘り下げ，遺跡の範囲・性格，遺物包含層の数や深さ等を確認した。その結果,全面調査の必要有との判断から平成10年度に８月24日から３月10日にかけて発掘調査を行った。(実働120日間）また，未買収地約200㎡については，用地買収が終了した平成12年８月に調査を行った。

第2節 調査の組織

発掘調査

事業主体者	国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所		
調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉永　和人
調査企画者	〃	次長兼総務課長	尾崎　進
	〃	主任文化財主事兼	
		調査課長	戸崎　勝洋
	〃	課長補佐兼	
		第一調査係長	新東　晃一
	〃	主任文化財主事兼	
		第三調査係長	池畑　耕一
調査担当者	〃	文化財主事	宮田　洋一
	〃	文化財研究員	寺原　徹
調査事務担当者	〃	主査	政倉　孝弘
	〃	主事	溜池　佳子
調査指導	鹿児島国際大学国際文化学部	教授	上村　俊雄

なお，鹿児島県考古学会会長河口貞徳氏，ラ・サール学園教諭永山修一氏，鹿児島大学法文学部助教授渡辺芳郎氏にも，御指導をいただきました。記して感謝申し上げます。

報告書作成（平成11～13年度）

事業主体者	国土交通省九州地方整備局鹿児島国道工事事務所		
調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉永　和人（11年度）
			井上　明文（12･13年度）
調査企画者	〃	次長兼総務課長	黒木　友幸
	〃	主任文化財主事兼	
		調査課長	戸崎　勝洋（11年度）
			新東　晃一（12･13年度）
	〃	課長補佐兼	
		第一調査係長	新東　晃一（11年度）
		課長補佐	立神　次郎（12･13年度）
		主任文化財主事	池畑　耕一（13年度）
	〃	主任文化財主事兼	
		第三調査係長	青崎　和憲（11年度）
			牛ノ濱　修（12･13年度）
執筆担当者	〃	文化財主事	宮田　洋一
事務担当者	〃	総務係長	有村　貢（11･12年度）
			前田　昭信（13年度）
	〃	主査	今村　孝一郎
調査指導	鹿児島大学法文学部	助教授	本田　道輝
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	助手	中村　直子

報告書作成に当たっては多くの方々に，御指導・御助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

池畑耕一，青崎和憲，牛ノ濱　修，繁昌正幸，前迫亮一，寺原　徹，三垣恵一

（県立埋蔵文化財センター）

第３節　調査の経過

確認調査を平成９年８月に行い，その結果に基づき平成10年（平成10年８月24日～平成11年３月10日）に全面調査を行った。未買収地約200㎡については，用地買収が終了した平成11年８月に調査を行った。

以下，日誌抄により，平成10年度の発掘調査の経過を略述する。

○平成10年８月24日（月）～８月27日（木）

池之頭遺跡発掘開始。環境整備，１トレンチをＤ－３，４，５，６区に設定。Ⅶ層掘り下げ。黒曜石出土。

○９月１日（火）～９月４日（金）

Ｃ・Ｄ－４，５，６区表土剥ぎ。１トレンチⅦ層掘り下げ。黒曜石製の細石刃出土。２トレンチをＤ－７区に設定。掘り下げる。３トレンチをＥ・Ｆ－７区に設定し，掘り下げる。４トレンチをＢ・Ｃ－９区に設定掘り下げる。縄文土器出土。

○９月７日（月）～９月11日（金）

Ｃ・Ｄ－４，５，６区Ⅶ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。４トレンチ掘り下げ。縄文土器出土多数。Ⅶ層黒曜石１点。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。５トレンチをＦ－９区に設定し，掘り下げる。６トレンチをＢ・Ｃ－10区に設定し掘り下げる。

○９月16日（水）～９月18日（金）

Ｃ・Ｄ－４，５，６区Ⅶ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。６トレンチⅢ・Ⅳ層掘り下げ。黒曜石出土。遺物平板・レベル実測及び取り上げ。Ｄ－５区北西及び北東壁土層断面図作成。

○９月21日（月）～９月25日（金）

Ｃ・Ｄ－４，５，６区Ⅶ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。同区完掘状況写真撮影及びⅦ層上面コンタ図作成。東市来町教育長，役場職員遺跡見学に来跡。

○10月１日（木）～10月２日（金）

Ｅ・Ｆ－10，11区表土剥ぎ。Ⅲ層掘り下げ。環境整備。遺跡の最上部への階段作り。休憩所設置。最上部地形測量図作成。

○10月５日（月）～10月９日（金）

Ｅ・Ｆ－10，11区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。Ｆ－10区土器集中区写真撮影。

○10月12日（月）～10月15日（木）

Ｅ・Ｆ－10，11区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。台風接近のため，土砂流失防止等の台風対策を行う。埋蔵文化財センター所長現場視察。

○10月19日（月）～10月22日（木）

Ｅ・Ｆ－10，11区Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。同区北壁トレンチ掘り下げ。同区土層断面図作成及び土層断面写真撮影。Ｅ－10・11区西壁トレンチ掘り下げ及び写真撮影。Ｄ－９，10区表土剥ぎ。

○10月27日（火）～10月30日（金）

D－9，10区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。遺物出土状況（成川式土器）写真撮影。同区Ⅲ層下面コンタ図作成。B・C－9，10区表土剥ぎ。

○11月2日（月）～11月6日（金）

B・C－9，10区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。B－11区土坑？検出及び掘り下げ。土坑実測及び写真撮影。B・C・D－11区表土剥ぎ。

○11月9日（月）～11月13日（金）

B・C・D－11区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。B－9・10区土層断面及び下層確認用トレンチ掘り下げ及び断面図作成終了。同区南西壁土層断面写真撮影。

○11月16日（月）～11月20日（金）

B・C・D－11区北側，B－11西側トレンチ掘り。B・C－11区Ⅶ層上面コンタ図作成。B・C－11区ピット？実測。C・D－11区北西壁土層断面図作成。B・C・D－12区Ⅲ層掘り下げ。B－11区北西壁及び南西調査区境壁土層断面図作成。

○11月24日（火）～11月26日（木）

B・C・D－12区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。

○12月1日（火）～12月4日（金）

B・C・D－12区Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。D－12区集石検出。B－12区集石検出。

○12月7日（月）～12月11日（金）

B・C・D－12区Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。C－12区土坑？検出。写真撮影。C－12区集石，B－12区石皿？石材？デポ？検出及び写真撮影。B－12区調査区境下層確認トレンチ掘り下げ。土層断面図作成。B・C・D－13区表土剥ぎ及びⅢ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。

○12月14日（月）～12月18日（金）

B・C・D－13区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。B－12区板石状の集石実測終了。C－13区堆出土状況写真撮影。B－13区土坑？検出（シラス面に薄茶褐色土が埋土）。B・C・D－13区北壁，B－13区西壁土層断面図用トレンチ掘り。

○12月21日（月）～12月24日（木）

B・C・D－13区北壁，B－13区西壁土層断面図用トレンチ掘り。写真撮影。E・F－12，13区表土剥ぎ及びⅢ層掘り下げ。B・C・D－13区北壁，B－13区西壁土層断面図作成。

○平成11年1月5日（火）～1月8日（金）

E・F－12，13区Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。E－12・13区西壁及びE・F－13区北壁土層断面用トレンチ掘り。

○1月11日（月）～1月14日（木）

E－12，13区西壁及びE・F－13区北壁土層断面図作成，写真撮影。E・F－13，14区表土剥ぎ及びⅢ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。F－13区集石検出。E－13，14区西壁土層断面図用深堀り。

○1月18日（月）～1月22日（金）

F－13区集石写真撮影及び実測。E－14区西壁土層断面写真撮影及び土層断面図作成。B・C・D－14区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。

○1月26日（火）～1月29日（金）

B・C・D－14，15区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。B－14，15区西側調査区境トレンチ掘り及び写真撮影。

○2月1日（月）～2月5日（金）

B・C－10区表土剥ぎ。Ⅱ層掘り下げ。雪のため作業中止日あり。

○2月8日（月）～2月10日（水）

B・C－10区Ⅱ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。Ⅱ層遺物出土状況写真撮影。C・D－15区Ⅲ層掘り下げ。B・C－8，9区Ⅱ層下面コンタ図作成。

○2月15日（月）～2月19日（金）

B・C－8，9区Ⅲ，Ⅳ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。C－15区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。B－12，13区西側調査区境Ⅲ層掘り下げ。

○2月23日（火）～2月26日（金）

B・C－8，9区Ⅳ層掘り下げ。E－10Ⅲ層掘り下げ。B－12，13区Ⅲ層掘り下げ。出土遺物平板・レベル実測及び取り上げ。G－12，13区Ⅲ層掘り下げ。

○3月1日（月）～3月5日（金）

B・C－8，9区Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ層掘り下げ終了。G－12，13区Ⅲ層掘り下げ終了。G－12区土坑？検出及び実測，写真撮影。G－13区集石検出。写真撮影。C－8，9区西壁土層断面図作成。

○3月8日（月）～3月10日（水）

用具洗い。プレハブ回り清掃。B・C－8，9区重機による埋めもどし。撤収準備。

日置教育事務所及び東市来町社会教育課，美山公民館長等への発掘調査終了の挨拶回り。

平成11年4月より埋蔵文化財センターにおいて整理作業を行う。

第Ⅲ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の環境

池之頭遺跡は，鹿児島県日置郡東市来町美山に所在する。

遺跡の所在する東市来町は，薩摩半島及び日置郡の北西部にあって，薩摩半島の基部に位置している。北は市来町，東は樋脇町，南は伊集院町と日吉町に接する。西は東シナ海に面し，海岸線は約６km あり，総延長約30km におよぶ吹上砂丘の一部となっている。東西約16km，南北約９km 総面積70.87 ㎢の町である。

町内は山地が多く，北西部の重平山（標高523 m）を最高峰に北部の中岳・矢岳（標高約400 m）等があり，西の東シナ海に向かっていくに従い漸次低くなっていく。これらの山地を町のほぼ中央を流れる大里川，中央南部を流れる江口川が開析しつつ西流しており，この両河川の谷底平野とそれの形成する河岸段丘面とが町内に見られる平地である。また，伊集院町との町境を流れる神之川も東シナ海へと西流している。この三河川の流域は平坦部となり水田が開けている。

また，これらの河川の形成する谷により，台地が分断されるところもある。

池之頭遺跡は，美山池の北西部の標高80～100 mのシラス台地の尾根状部分に立地しており，町全体の中では南西部にあたり，江口川と神之川のほぼ中央部にあり，東シナ海の海岸線までは直線距離にして約２．５ km のところに位置している。

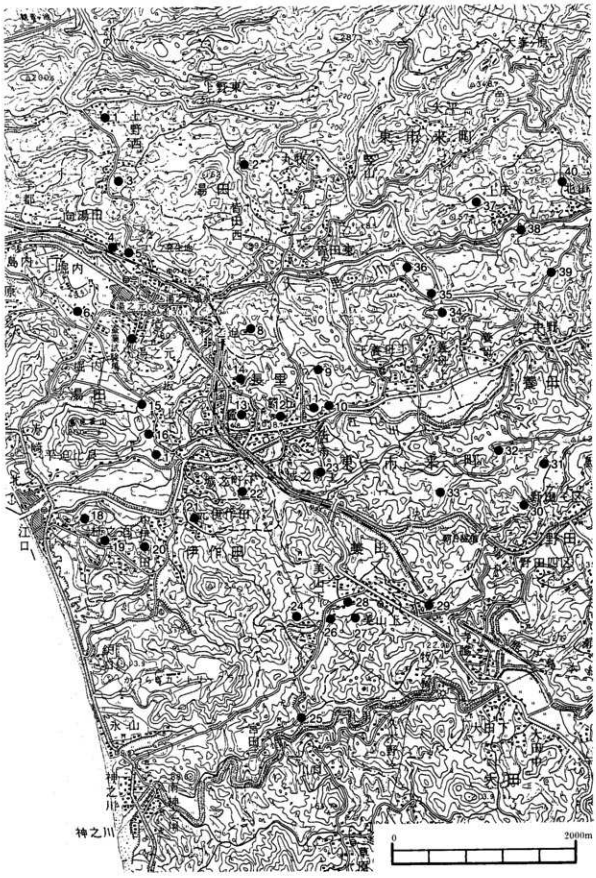
遺跡は大きく分けると，尾根を挟んで南側と北側の斜面と，南斜面の裾にあたる平坦部の三か所から成り立っている。高地と平坦部の比高差は約20mであり，地層の残存状況から推して，当時の地形は現在と大きく変化がないと考えられる。遺跡の立地している地形は東西の幅が約60m ほどしかない狭い尾根上である。東西へは北あるいは南へ延びる谷へ向かって急傾斜で下りており，尾根は南へ続いているが，遺跡の中央部は北端に近い。

第２節　周辺の遺跡

東市来町内には中近世の寺院跡・山城跡・古窯跡・古石塔等が数多く残っている。特に薩摩焼の窯跡は，近世初期以降窯業集落となった美山地区にある。池之頭遺跡の周辺には五本松窯跡，南京皿山窯跡，御定式窯跡が隣接するように所在する。また，池之頭遺跡と同年に発掘調査が行われた堂平窯は陶遊館近くに移設保存され，薩摩焼の成立契機とその後の薩摩焼の発展を考える上で貴重な遺跡であるといえる。

また，南九州西回り自動車道鹿児島道路（伊集院ＩＣ～市来ＩＣ間）の建設に伴い，平成８年度から平成12年度にかけて，計９遺跡の緊急発掘調査が行われている。池之頭遺跡の北西部約３～４km には，旧石器時代から縄文・弥生・古墳・中世の複合遺跡である市ノ原遺跡や今里遺跡，堂園平遺跡，向椿城遺跡等が所在し，東市来町の先史・古代を解明する上で貴重な資料を提供している。

池之頭遺跡の周辺にも旧石器時代から江戸まで，各時代の遺跡が多数存在するがその概要については次に挙げる地名表のとおりである。



第３図　周辺遺跡位置図

第２表　周辺の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等
1	平波江	東市来町湯田平波江	丘陵	古墳	土器
2	西丸牧	東市来町湯田西丸牧ほか	丘陵	古墳・中世	土器・土師器・青磁
3	麻畑	東市来町湯田麻畑ほか	丘陵	弥生・古墳	土器・土師器
4	鉦大像2体・仁王像2体	東市来町湯田3955～1	稲荷神社境内	江戸(元禄時代)	
5	ヤッコ草発生地	東市来町向湯田（稲荷神社境内）			
6	市ノ原	東市来町湯田上市ノ原ほか	台地	旧石器・縄文・弥生・古墳・中世	土器・土師器・染付・磁器
7	湯之元田の神	東市来町湯田中央小田1821	畦		
8	古城	東市来町長里字古城原	山頂平地		石塁
9	得仏城	東市来町長里字得仏城	平地		
10	島津立石公墓地	東市来町長里3281	墓地	江戸時代	
11	竜雲寺跡	東市来町長里小字前田	山麓	室町(前)	歴代住職の墓地・手洗鉢等
12	大日寺跡	東市来町長里本寺	山麓	鎌倉	仁王像・墓塔外
13	平之城	東市来町長里字平之城	丘陵・平地	南北朝～室町	
14	番屋城	東市来町長里字番屋城	平地	南北朝～室町	
15	今里	東市来町伊作田今里ほか	台地	旧石器・縄文・古墳	細石刃・細石刃核・土器・磨石
16	堂園平	東市来町伊作田堂園平	丘陵	中世・近世	土師器・染付
17	向椿城	東市来町伊作田字上椿	丘陵・平地	旧石器・縄文・古墳・古代・中世・近世	細石刃・土器・土師器・青磁
18	伊作田城	東市来町伊作田字浜之丸	丘陵・平地	南北町～室町	
19	柿之迫	東市来町伊作田柿之迫	台地	弥生土器片	
20	椿城	東市来町伊作田字椿原	山頂・平地		
21	伊作田氏墓大天道柿の墓地	東市来町伊作田北園2535	丘	鎌倉	宝塔・五輪塔木片(木像)
22	犬ケ原	東市来町伊作田犬ケ原ほか	丘陵	中世・近世	土師器・陶器
23	総陣之尾	東市来町長里字陣之尾	山頂・平地		
24	五本松窯跡	東市来町美山500,498-2	山麓	江戸	
25	中宮田	東市来町宮田字中宮田		古墳	土器片
26	堂平窯跡2号窯	東市来町美山堂平	丘陵・斜面	近世	陶器
27	南京皿山窯跡	東市来町美山975	山麓	江戸	
28	御定式窯跡	東市来町美山973,974	山麓	江戸	
29	太田原墓跡	東市来町美山右谷山	丘	室町(後)	五輪塔五基
30	陣ケ原	東市来町養母陣ケ原	台地	古墳	土器片
31	桜原	東市来町養母桜原	台地	縄文・古墳	土器片
32	前迫	東市来町養母前迫ほか	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器
33	馬場ケ原	東市来町長里下馬場ケ原	台地	弥生・古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器
34	半ケ原	東市来町養母半ケ原	丘陵	弥生・古墳・中世	土器・土師器・陶器
35	麦田	東市来町湯田麦田ほか	丘陵	古墳・近世	土器・土師器・陶器
36	岩平	東市来町湯田岩平	丘陵	弥生・古墳	土器・土師器
37	中ノ段	東市来町養母字中ノ段	谷	縄文	土器片・黒曜石片
38	下西原	東市来町養母字下西原	谷	縄文	土器片
39	椿ケ原	東市来町養母椿ケ原	丘陵	弥生・古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器
40	仮牧段	東市来町養母字仮牧段	台地	縄文・古墳	土器片

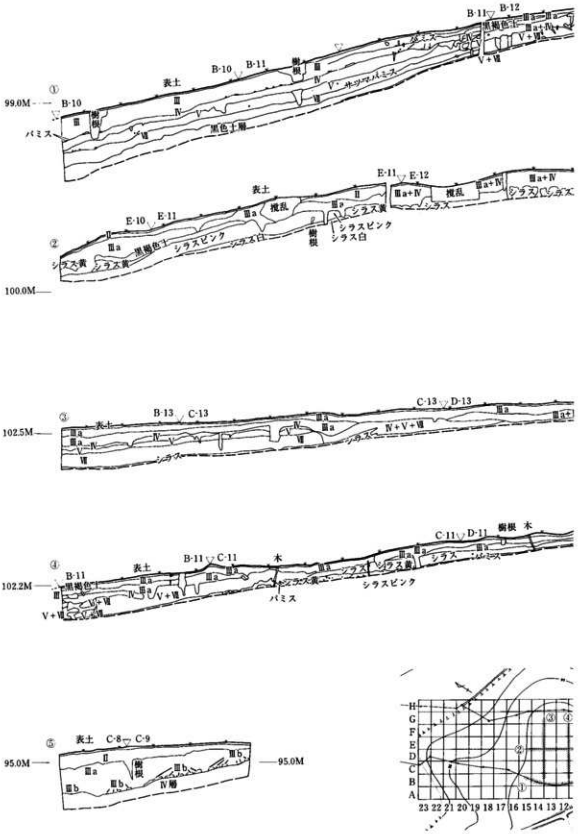
参考文献
東市来町教育委員会「陣ケ原遺跡・桜原遺跡」1992年３月

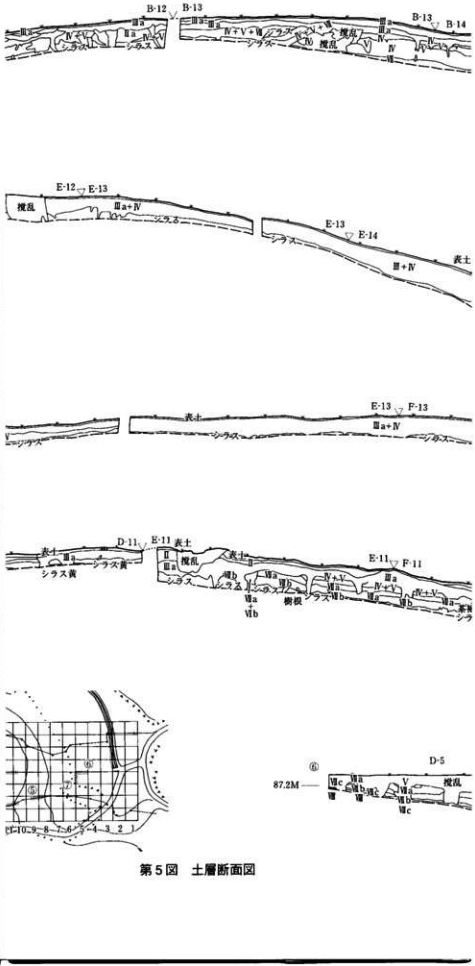
第Ⅳ章　遺跡の層位

遺跡内の地層は遺跡の範囲が約200mに及び，さらに遺跡が南平坦部，南斜面，北斜面からなるため，場所により層位にかなりの相違が見られる（B．C－3～9区ではⅦ層が見られるが，他の区ではみられない。）が，基本的に以下のように区分できる。

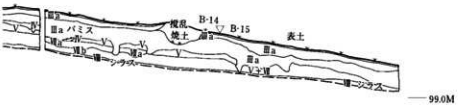
Ⅰ層	表土	褐色土の表土。南斜面・北斜面においては，特に腐植質に富む。厚さは約5cm。
Ⅱ層	茶褐色土	茶褐色の火山灰土で，粘質は弱い。
Ⅲa層	暗茶褐色土	暗茶褐色の火山灰土で粘質は弱い。古墳時代・縄文時代後・晩期の遺物包含層。
Ⅲb層	黄橙色パミス	アカホヤ(約6300年前・鬼界カルデラ起源)。径5mm前後の軽石。
Ⅳ層	青灰色土	やや灰色を帯びた硬質の火山灰で，比較的細粒である。縄文時代早期の遺物包含層。
Ⅴ層	黒褐色土	濃い黒色でやや粘質が強い。
Ⅵ層	黄色パミス	薩摩火山灰(約11,500年前・桜島起源)。径5mm～1cm前後の軽石。
Ⅶa層	茶褐色土	極めて微粒で粘質が強い。旧石器時代の遺物包含層。
Ⅶb層	暗茶褐色強粘質土	濃い茶褐色で極めて微粒であり，粘質が極めて強い。
Ⅶc層	茶褐色粘質土	Ⅶb層に比べやや褐色が淡い。極めて微粒で粘質が強い。旧石器時代の遺物包含層。
Ⅷ層	黄茶褐色土	シラス（約24，000年前・姶良カルデラ起源）の二次体積層と考えられる。
Ⅸ層	黄褐色土	黄褐色シラス層。

第4図土層模式図


①
99.0M
B-10
B-10
B-11
B-11
B-12
表土
黒色土層
パミス
②
100.0M
E-10
E-11
E-11
E-12
表土
撹乱
シラス黄
シラス白
シラスピンク
③
102.5M
B-13
C-13
C-13
D-13
④
102.2M
B-11
B-11
C-11
C-11
D-11
表土
黒褐色土
パミス
シラスピンク
⑤
95.0M
95.0M
C-8
C-9
表土
A
B
C
D
E
F
G
H
23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12

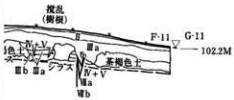


第５図　土層断面図

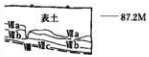

B-14
B-15
99.0M

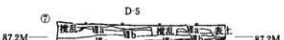
E-14
E-15
100.0M

F-13
G-13
102.5M


F-11
G-11
102.2M

0
5 m


87.2M


D-5
87.2M
87.2M

第Ⅴ章 調査の概要

第1節 調査の概要

発掘調査は調査区域内に10m×10mのグリッドを設定しておこなった。グリッドはおおむね調査区の中心を通るように任意に設定したラインを基準軸にして，10m間隔の区画を設定した。グリッドは東西方向にA，B，C・・・，南北方向に1，2，3・・・と呼称している。遺跡は大きく分けると，南平坦部・南斜面・北斜面の3区から成る。南斜面・北斜面の間の尾根部分に若干の平坦部がみられる。

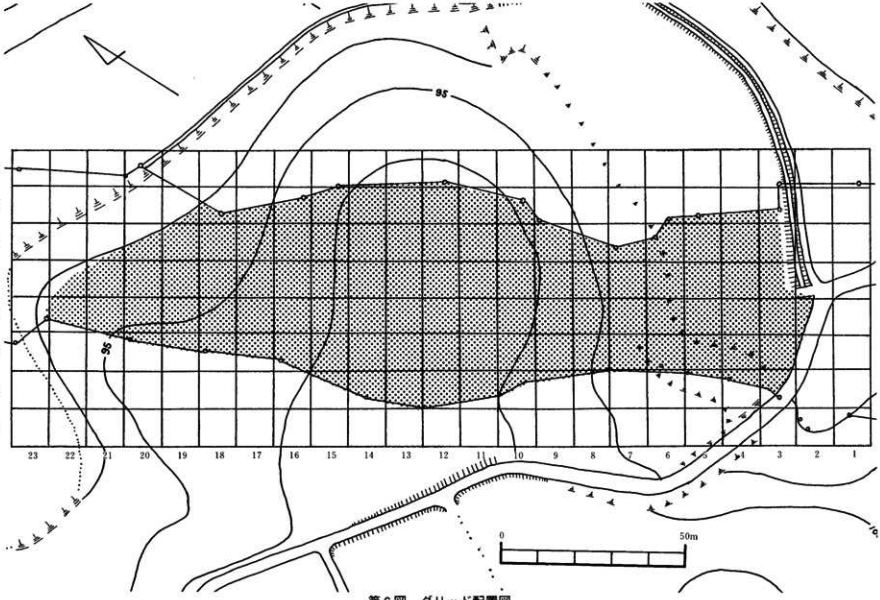
発掘調査は，南平坦部D－3，4，5，6区に2m幅のトレンチを設定し，下層確認をすることから始めた。その結果，Ⅶ層より黒曜石が多数出土したため，D－3，4，5，6区を拡張するとともにC－3，4，5，6区にも拡張部を設定した。Ⅶ層より上部は遺物包含層が見られなかったため重機で表土を剥ぎ取った後，Ⅶ層の掘り下げをおこなった。その結果，旧石器時代の遺物がC・D－5区を中心とした1ブロックに集中して出土した。

縄文時代の調査は表土を除去し，わずかに残るⅡ層の調査終了後，調査区の全域にわたりⅢ～Ⅴ層の各層ごとに調査をおこなった。調査は該当層の掘り下げを順次おこない，遺物・遺構の検出，写真撮影，実測，遺物取り上げ等の作業を進めた。表土が約5cmと薄いため，重機の使用をさけ人力による掘り下げをおこなったが，伐採後に残された樹根の処理を進めながらの掘り下げであった。その結果，6，8，9区の一部と，10～15区の全面にほぼ散布するような形で早期～晩期の土器，石器等が出土した。12, 13区にやや平坦部があるものの，北斜面，南斜面が遺物包含層の大部分を占めているため層位が安定せず，また伐採後の樹根の処理をしながらの調査であったため出土遺物の時期別の層位的分離は困難であった。

遺構としては，D－12区，F－13区，G－13区，B－12区，C－12区，D－11区，C－9区，D－6区において集石が検出された。また，B－12区においては石皿集積が一か所検出されている。調査区の南側にあたる2～9区においては，縄文時代の遺物包含層は削平されており遺物の出土は一部にかぎられていた。また調査区北側にあたる16区以北も急な傾斜地であり，遺物包含層は削られていた。

弥生～古代・中世の調査は表土を除去した後，調査区の全域にわたりⅡ層以下の掘り下げをおこなった。住居跡等の遺構は検出されなかったが，10～15区のほぼ全域にわたり散布するような状態で遺物が出土した。特にC－13区，F－11区を中心とした地点に遺物の集中か所がみられたが，遺構が検出されていないため，その詳細は不明である。土器には甕形土器，壺形土器，鉢形土器，高坏形土器，坩形土器，手捏ね土器がみられた。

この時代の調査においても2～9区の遺物包含層は削平されており，遺物の出土は一部に限られた。また，16区以北においても急な傾斜面となるため包含層は削平されており，遺物は確認できなかった。


95
95
H
G
F
E
D
C
B
A
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
50m

第6図　グリッド配置図

第２節 旧石器時代の遺物

Ⅶａ層・Ⅶｃ層及び撹乱の中より，総数536点が出土した。その中で細石刃核２点，ブランク１点，細石刃22点，調整剥片８点，台形石器１点，使用痕のある剥片１点，ナイフ形石器１点，石核１点及びスクレイパー１点の計38点が出土した。石材は，黒曜石，瑪瑙等であり，黒曜石は肉眼観察により，県内の三船，上牛鼻，桑ノ木津留産があり，また，県外の腰岳産もみられる。

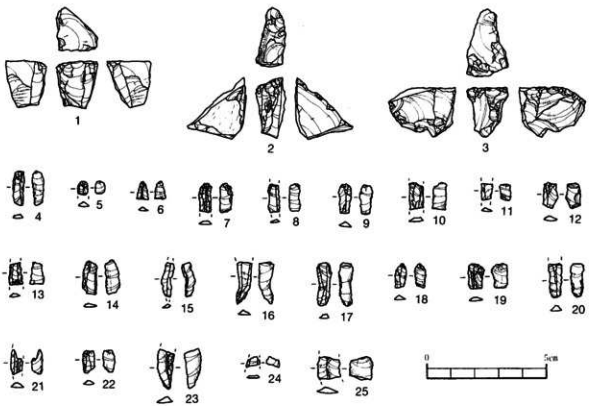
第９図のようにＣ・Ｄ－５区にほぼ集中して出土しており，３か所に細分されそうであったが遺物に差異がなく１ブロックとみなした。

細石刃核・ブランク（第７図１～３）

１は細石刃核で黒曜石を用いている。厚みのある剥片を素材にし，打面から簡単な調整を施している。下縁部から剥出面に成形がなされている。打面は調整されていない。二面に細石刃剥出がみられる。

２も細石刃核で気泡の少ない良質な偏平の角礫黒曜石を用いている。打面は調整しながら側面は平坦面を基調にし，下縁は片面からの調整剥離により成形されている。側辺部からの打面調整がみられる。側辺部には自然面を残している。

３はブランクで厚みのある黒曜石を用いている。打面部と下縁部からの調整により側辺部の成形をおこなっている。打面調整はみられず，細石刃剥出もおこなわれていない。



第７図　旧石器時代出土遺物（１）

細石刃（第７図4～25）

4～25は細石刃で黒曜石（腰岳14点，桑ノ木津留６点，上牛鼻１点，三船１点）を用いている。完形品１点，頭部３点，頭・中間部６点，中間部８点，中・尾部４点である。刃部に刃こぼれがみられるものもある。

その他の石器（第８図26～38）

26～33は細石刃再生調整剥片である。良質の黒曜石を用いている。

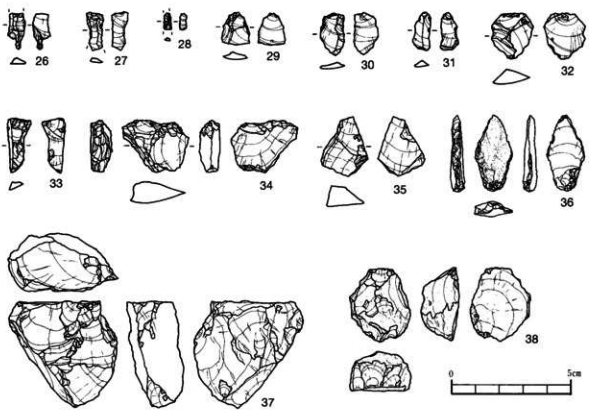
34は上牛鼻産の黒曜石を素材にした台形石器である。剥片を横位に利用し，両側辺部は入念なプランティングにより成形されており刃部の一部が欠損している。

35は三船産の黒曜石を用いた使用痕のある剥片である。両側縁に使用による刃こぼれが観察される。

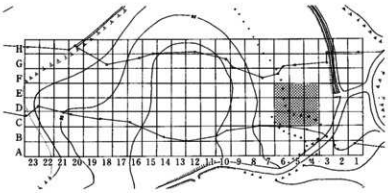
36は瑪瑙を用いたナイフ形石器である。縦長剥片を利用し，素材の末端部を先端としている。折断によって打瘤をとり去り，二側縁に急斜な調整剥離で基部調整を行っている。調整剥離は，右側縁の基部は腹面（主剥離面）より背面に向かって施し，左側縁の基部及び背面加工は両側から施している。刃部には使用痕が認められる。

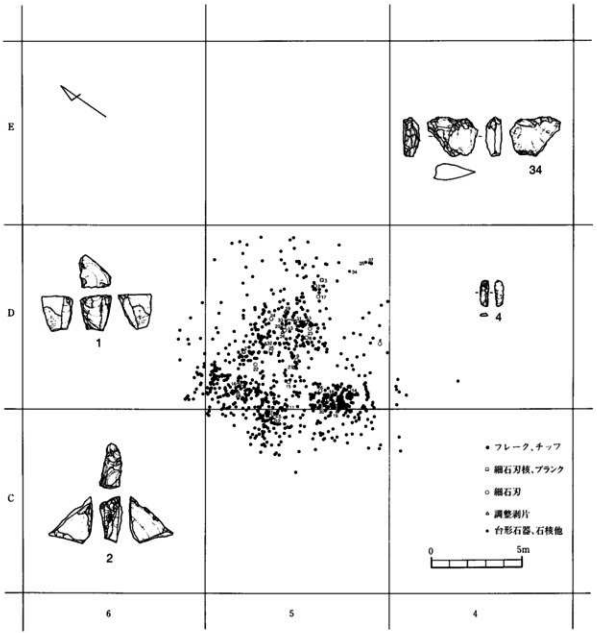
37は三船産黒曜石の石核である。角礫を使用している。打面からの剥出面がみられる。

38は厚みのある上牛鼻原産の黒曜石を利用したラウンドスクレイパーである。腹面(主剥離面)から背面への剥離を周縁に巡らし，刃部を形成している。



第８図　旧石器時代出土遺物（２）





第９図　旧石器時代遺物出土状況

第３表　旧石器 石器分類表

挿図	番号	器種	石材	出土区	層	遺物番号	標高(m)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
第	1	細石刃核	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	281	89.96	1.9	1.8	1.7	5.2	
	2	細石刃核	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	344	87.28	2.5	2.4	1.2	5.0	
	3	ブランク	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	139	86.81	2.8	2.1	1.7	7.5	
	4	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	137	86.59	1.4	0.5	0.2	0.1	完形品
	5	細石刃	黒曜石 腰岳	C-5	Ⅶa	204	87.60	0.5	0.4	0.2	0.03	頭部
	6	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	374	87.08	1.3	0.4	0.2	0.03	頭部
	7	細石刃	黒曜石 腰岳	C-5	Ⅶa	110	87.71	1.2	0.6	0.2	0.1	頭，中間部
	8	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	279	87.12	1.2	0.5	0.2	0.1	頭，中間部
	9	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	39	87.10	1.2	0.5	0.2	0.1	頭，中間部
	10	細石刃	黒曜石 腰岳	D-11	Ⅳa	4701	103.15	1.1	0.6	0.2	0.1	頭，中間部
	11	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	367	87.54	0.7	0.5	0.2	0.04	中間部
	12	細石刃	黒曜石 腰岳	C-5	Ⅶa	205	87.65	1.1	0.6	0.2	0.01	中間部
7	13	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	339	86.00	1.0	0.6	0.2	0.07	中間部
	14	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	216	87.22	1.4	0.6	0.2	0.1	中間部
	15	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	37	87.02	1.4	0.4	0.2	0.1	中，尾部
	16	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	100	87.61	1.7	0.6	0.2	0.2	中，尾部
	17	細石刃	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	235	86.76	1.8	0.6	0.2	0.2	中，尾部
図	18	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	151	87.29	1.0	0.5	0.2	0.1	頭，中間部
	19	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	318	87.19	1.0	0.6	0.2	0.1	頭，中間部
	20	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	553	86.00	1.4	0.6	0.2	0.2	中間部
	21	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	232	86.84	1.0	0.5	0.2	0.1	中間部
	22	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	27	87.33	1.0	0.5	0.2	0.1	中間部
	23	細石刃	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	241	87.01	1.7	0.7	0.3	0.3	中，尾部
	24	細石刃	黒曜石 上牛鼻	D-5	Ⅶa	485	87.04	0.6	0.4	0.2	0.01	頭部
	25	細石刃	黒曜石 三船	D-5	Ⅶa	484	87.0	1.0	1.0	0.3	0.2	中間部
	26	調整剥片	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	244	87.1	1.5	0.7	0.3	0.3	
	27	調整剥片	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	41	87.23	1.6	0.7	0.2	0.2	
	28	調整剥片	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	121	87.60	0.7	0.3	0.2	0.03	
第	29	調整剥片	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	236	87.05	1.2	1.1	0.3	0.3	
	30	調整剥片	黒曜石 腰岳	D-5	Ⅶa	213	87.26	1.8	1.0	0.2	0.2	
	31	調整剥片	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	297	86.95	1.6	0.7	0.3	0.3	
8	32	調整剥片	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	245	87.09	1.9	1.7	0.6	1.6	
	33	調整剥片	黒曜石 桑ノ木津留	D-5	Ⅶa	237	87.08	2.3	1.0	0.4	0.7	
	34	台形石器	黒曜石 上牛鼻	D-5	Ⅶc	489	85.98	2.8	2.2	0.9	4.8	
図	35	使用痕のある剥片	黒曜石 三船	D-5	Ⅶa	138	86.28	2.4	2.0	0.9	2.8	
	36	ナイフ形石器	瑪瑙	C-13	Ⅲa	5922	103.75	3.1	1.6	0.6	2.5	
	37	石核	黒曜石 三船	D-5	Ⅶa	224	86.28	4.5	4.4	1.9	36.7	
	38	スクレイパー	黒曜石 上牛鼻	F-11	攪乱	3117	101.39	3.0	2.5	1.7	12.3	

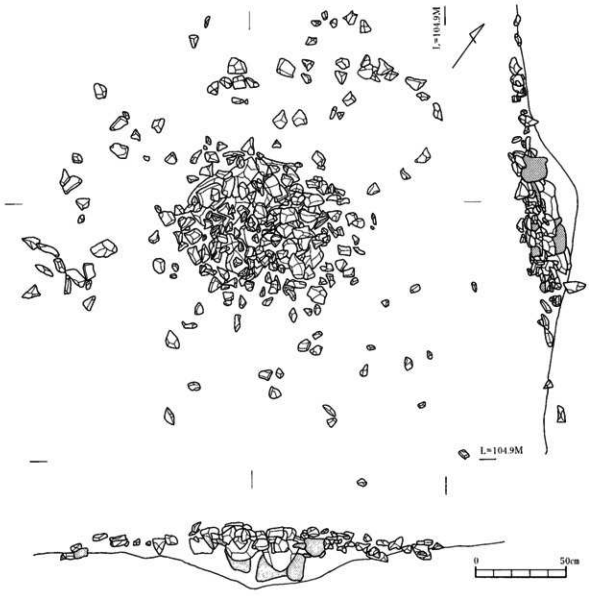
第３節　縄文時代

遺構

本遺跡のⅢ層からⅤ層にかけて，集石８基と石皿集積が一カ所検出された。３，５，７では縄文早期の遺物が周辺から出土している。

集石遺構１（第10図）

集石遺構１は南に向かって緩やかに下るD－12区のⅢ＋Ⅳ層から検出された。中心部に数個約20cm 程度の比較的大きな礫を使用している。石材はほとんどが砂岩である。火熱による赤化がみられ熱破砕を受けている礫もみられる。下部に深さ約20cm の掘り込みをもつ。礫の総数は318 個である。230 個ほどの礫が中心部に集中するように集まり，80個ほどの礫はそのまわりに散在している。集石内において焼土及び炭化物等の痕跡はみられなかった。また，この集石に伴う土器等の遺物は出土していない。

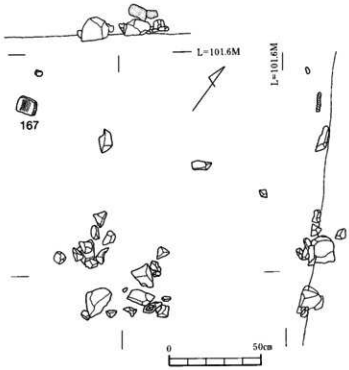


第10図　集石（１）

集石遺構２（第11図）

集石遺構２は北に向かい緩やかに下るＦ－13区のⅢ＋Ⅳ層から検出された。集石の周辺は地層が安定せず，Ⅲ＋Ⅳ層を剥ぐとシラスであった。礫は60㎝×110㎝の範囲にほとんどが集中している。集中区より東側に約30個程度の礫が散布している。10㎝～15㎝のわりと大きめの礫が数個みられる。大きいものは約25㎝を超える長方形の角礫もみられる。石材はほとんどが砂岩である。火熱による赤化がみられるものもある。熱破砕を受けていると思われる礫もみられた。深さ約20㎝の掘り込みをもつ。埋土は黒褐色土である。集石内において焼土及び炭化物等の痕跡はみられなかった。礫は158個から成っている。この集石に伴う土器等の遺物は出土していない。

第11図　集石（２）

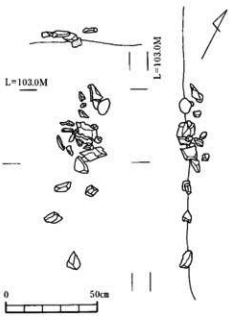


第12図　集石（3）

集石遺構3（第12図）

集石遺構3は北へ若干下り気味となるG－13区のⅢ＋Ⅳ層から検出された。16cm大の礫から小礫まで30の礫からなる小規模な集石である。火熱による赤化を受けたものもみられる。熱による破砕を受けた礫も一部ある。中心部に空間があり，散布した感じで検出された。人工的な掘り込みや炭化物等はみられなかった。土器が2点中心部より離れた北西側に出土した。

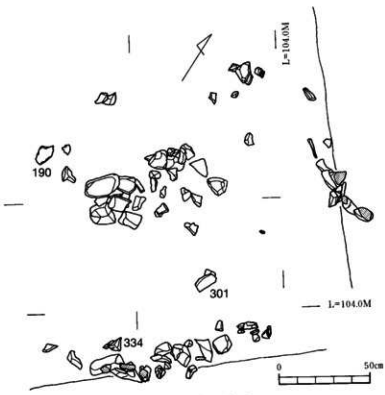
この土器は167の土器の一部として接合されたものである。貝殻条痕を横位に施した土器である。



第13図　集石（4）

集石遺構4（第13図）

集石遺構4はB－12区のほぼ平坦な場所のⅢ＋Ⅳ層より検出された。礫は30cm×50cmの範囲にほぼ集中しており，礫数は25個からなる小規模な集石である。集中区の南側に4個の礫が散在している。礫は大きいもので10cm程度のものが数個ある。火熱による赤化や熱破砕は明確にはみられなかった。集石の下に人工的な掘り込みは確認できなかった。集石内において焼土及び炭化物等はみられなかった。また，この集石に伴う土器等の遺物は出土していない。

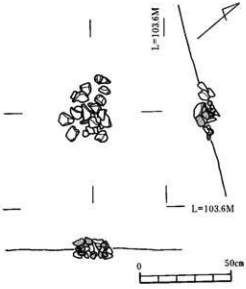


第14図　集石（5）

集石遺構5（第14図）

集石遺構5は緩やかに西に下るC－12区のⅢ＋Ⅳ層で検出された。20cm大の礫を含む39個の礫からなる。火熱による赤化がみられるものもある。熱破砕を受けているものもみられる。人工的な掘り込みや炭化物等はみられなかった。

土器が6点出土しているが，そのうちの3点を図化している。1点は190の器面全体に貝殻条痕を横位に施した土器片であり，内面はていねいな調整がなされている。1点は301の底部片である。外底部にヘラ状の施文具により鋸歯状の沈線が施され，底は磨かれたようにていねいなナデによる調整がみられる。1点は334である。器面にナデによる整形がなされ，内側に貝殻条痕がみられる。

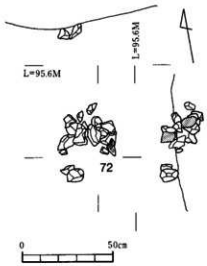


第15図　集石（6）

集石遺構6（第15図）

集石遺構6は南に緩やかに下るD－11区のⅢ＋Ⅳ層で検出された。礫は30cm×40cmの範囲に集中している。礫の大きさもほとんどが拳大とそろっている。火熱による赤化がみられるものもある。

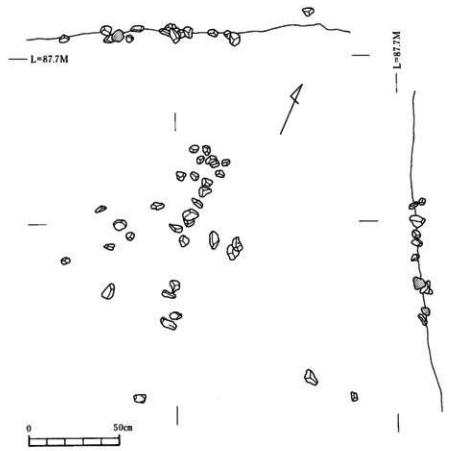
集石の下部において人工的な掘り込みは確認できなかった。集石内において焼土及び炭化物等はみられなかった。また，この集石に伴う土器等の遺物は出土していない。



第16図　集石（7）

集石遺構7（第16図）

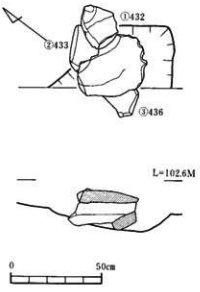
集石遺構7は，C－9区のⅣ層で検出された。礫は21個と小規模な集石である。火熱による赤化がみられる礫も一部みられた。熱破砕を受けたものは明確には確認できなかった。拳大の礫がほとんどであり，2つの礫を除き，集中して検出された。集石の下部に人工的な掘り込みは確認できなかった。集石内において焼土及び炭化物等はみられなかった。この集石内からは土器が1点出土している。72の土器片で，口縁部が外反し口縁部は平坦となる。口唇部にヘラによる刻み目を施し口縁直下に貝殻腹縁により4列の刺突文を廻す。胴部には貝殻腹縁による縦位の刺突文を施している。



第17図　集石（8）

集石遺構８（第17図）

集石遺構８はほぼ平坦面であるＤ－６区のＶ層上面で検出された。礫は33個からなり，小ぶりな礫がほとんどである。全体に散布したような感じで出土している。火熱による赤化をうけたものも一部みられたが，熱破砕をうけたものは明確にはみられなかった。人工的な掘り込みや炭化物は検出されなかった。また，この集石に伴う土器等の遺物はみられなかった。



第18図　石皿集積

石皿集積（第18図）

Ｂ－12区のⅢ＋Ⅳ層で検出された遺構である。幅約70cm，深さ約20cmの掘り込みの中から石皿３点と礫１点が積み重なる状態で検出された。掘り込みは浅いすり鉢状を呈している。この遺構から土器等は出土していない。炭化物や焼土等も検出されていない。この遺構の性格は不明である。

石皿の３点を図化してある。①は432，②は433，③は436である。①は砂岩製で片面を使用している。使用による顕著な凹みは観察されず平坦である。欠損しており全体の大きさは不明である。②は安山岩製で片面のみを使用している。使用面は平坦である。③は砂岩製で片面のみを使用している。礫の面の一部を使用しており，わずかに凹みが観察される。

遺物（土器）

縄文土器は，南九州特有の貝殻文系を主体とした縄文時代早期の円筒土器・角筒土器や中期の春日式土器，後・晩期と思われる土器など総数1,287点が出土した。それらを器形や文様等から15種類に分類し，332点を図示した。その出土状況は第19図のとおりである。遺物の出土がみられない区は傾斜地であり，包含層が削られていたため出土はなかった。その他の地区はほぼ全域に散布して出土がみられる。

Ⅰ類土器（第21図39・40）

Ⅰ類土器は口縁部に貝殻腹縁による刺突文を有する円筒形土器である。

39はほぼ直行する口縁部で口唇部は丸みをもつ。口縁直下に貝殻腹縁による縦位の刺突文を密に施している。内外面ともにていねいなナデ調整を行っている。40は口縁部がやや外傾し，口唇部は丸みをもつ土器である。口縁部直下に貝殻腹縁による刺突文を斜位に施している。

Ⅱ類土器（第21図41～46）

Ⅱ類土器は貝殻条痕を器面に施した後，貝殻やヘラ状工具による文様を施す円（角）筒形土器である。

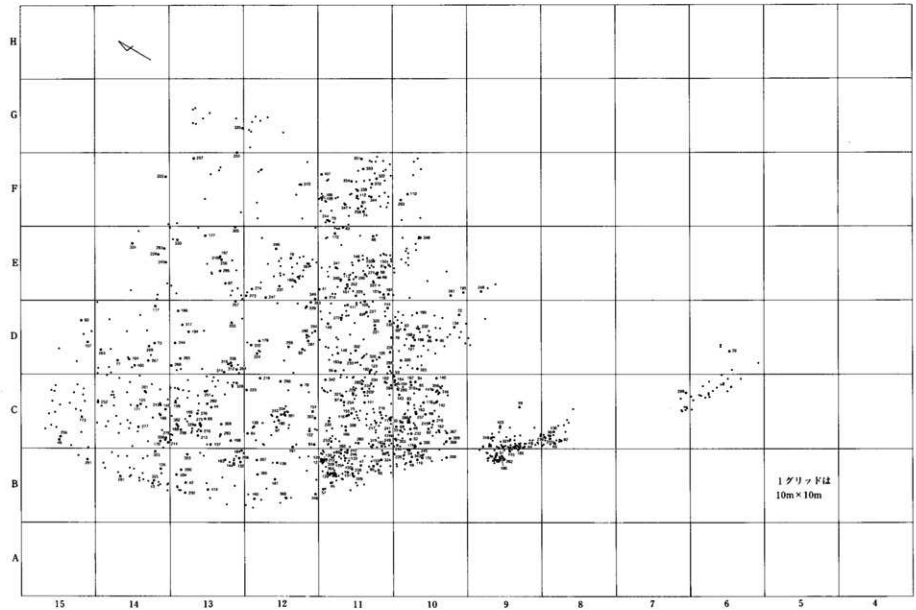
41は直行する口縁部をもち，口唇部は平坦で文様はみられない。口縁部に突帯を有し，突帯は貝殻腹縁で掻き上げるようにして作られている。突帯直下に貝殻腹縁による刺突文を横位に1列施している。胴部は貝殻条痕を斜位に施している。器壁は薄手で，焼成は良好である。42は円筒形土器の胴部である。直線的で胴張りはない。口縁部及び底部は欠損しているため全体は不明である。器面全体に貝殻条痕を斜位に施し，その後ヘラ状工具により斜位及び波状の文様を施している。内面はていねいなナデ整形がなされている。焼成は良好である。43は円筒形土器の胴部である。器面全体に貝殻条痕を斜位に施し，その後ヘラ状工具により斜位に文様を施す。

44は42と同様の文様をもつ土器片である。他の土器と比較すると器壁はやや厚い。45は貝殻条痕を斜位に施した後，貝殻腹縁による刺突文を施した角筒形土器である。46は貝殻条痕が極めて薄く施され，その後，貝殻腹縁により刺突文及びヘラ状工具による波状の文様を斜位に施している。内面は剥落が見られる。

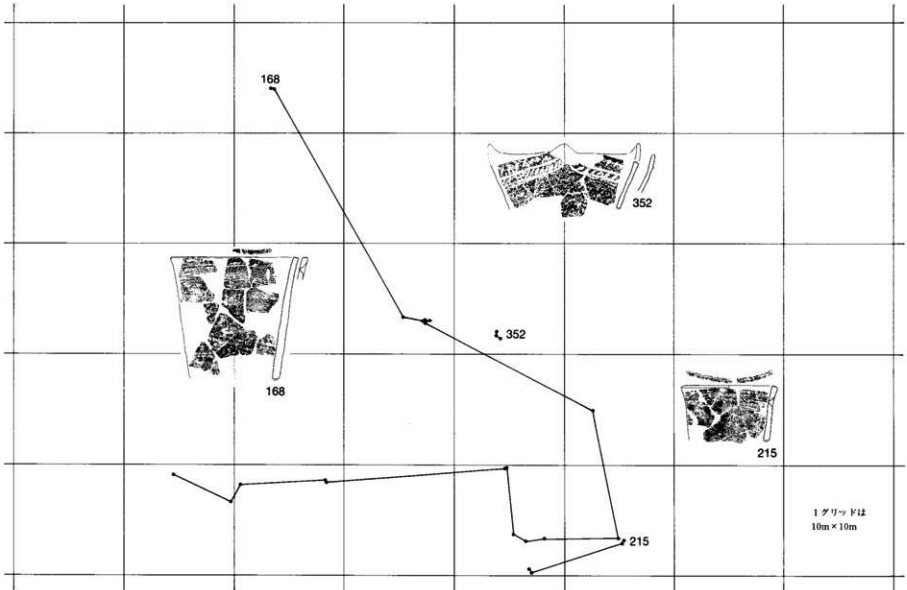
Ⅲ類土器（第21図47・48，第22図49～56）

Ⅲ類土器は貝殻条痕を器面に施した後，貝殻腹縁による文様を施す円（角）筒形土器である。

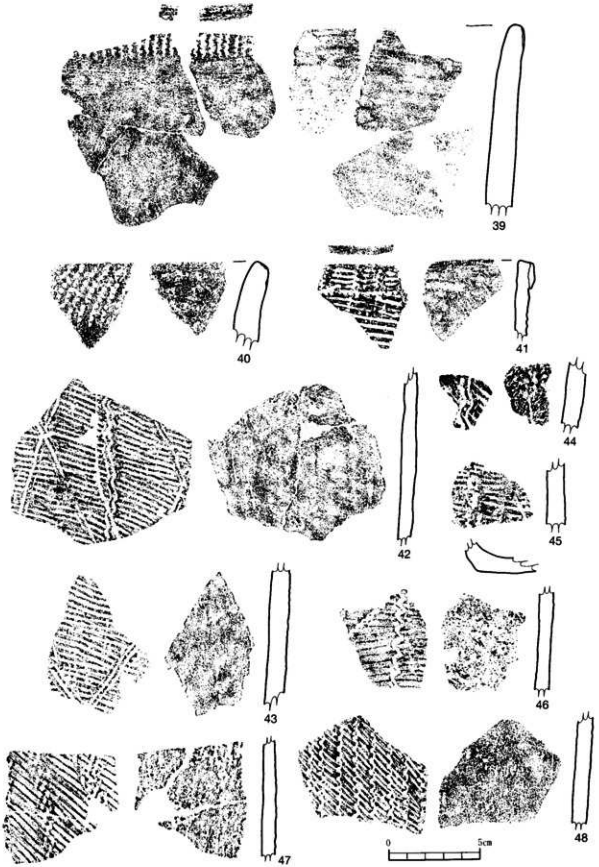
47は貝殻条痕を斜位に施した後，貝殻腹縁による刺突文を施す。器壁の厚さは極めて薄い。内面は粗いナデ調整を行っている。48は円筒形土器の胴部である。文様は貝殻条痕を斜位に施した後，貝殻腹縁による刺突文を縦位に施している。焼成は良好である。49も円筒形土器の胴部である。器面全体に貝殻条痕を斜位に施した後，貝殻腹縁による縦位の刺突文を施している。50～54も，49と同様の文様を有する土器片である。50の内面はていねいにナデ調整が行われている。焼成は極めて良好である。55は角筒形土器の胴部及び底部である。胴部には貝殻腹縁による刺突文を施す。底部の立ち上がり部分には縦位の細沈線を密に施している。56は角筒形土器の底部である。55と同様，底部の立ち上がり部分には，縦位の細沈線を密に施している。



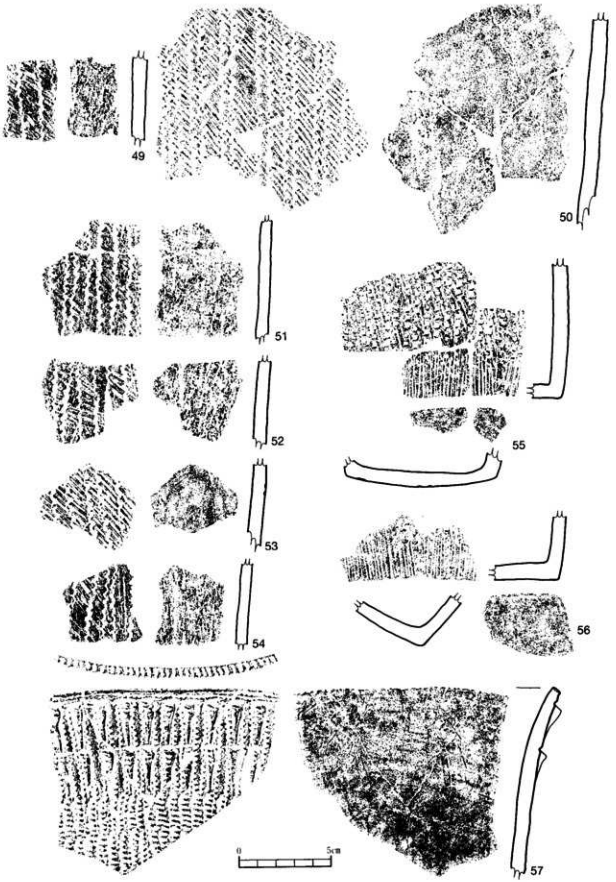
第19図　縄文土器出土状況



第20図　縄文土器接合図



第21図　縄文土器（1）



第22図　縄文土器（2）

Ⅳ類土器（第22図～27図57～111）

Ⅳ類土器はやや外傾する口縁部をもつ円筒形土器で，胴部に密な貝殻刺突文を連続して施すものである。細かな特徴からさらにａ～ｃの３つに分類した。

Ⅳａ類（57～68），口縁部下にクサビ形突帯を貼りつける土器の一群である。

57はやや外傾する口縁部で，平坦な口唇部に刻みが連続して施されている。口縁直下には，貝殻腹縁による横位２段の刺突文がめぐり，その下位にはクサビ形突帯が貼付されている。胴部には縦位の貝殻刺突文を密に施している。58～67も57と同様の特徴をもつ土器である。68は角筒形土器の口縁部である。円筒と同様の文様が施されている。

Ⅳｂ類（69～105），口縁部下にクサビ形突帯をもたない土器の一群である。口縁直下に貝殻腹縁による横位の刺突文を２～４段施し，その下位に縦位の貝殻刺突文を密に施すものである。口縁直下の文様は81のように斜位の貝殻刺突文となるものもある。また，胴部の文様も85，86や102～103，105のように斜位の貝殻刺突文を施すものも見られる。

Ⅳｃ類（106～111），口縁部下にヘラ状工具による刺突文をもち，胴部に横位の貝殻刺突文をめぐらす土器である。これらはすべて同一個体と考えられる。

Ⅴ類土器（第27図～32図112～176）

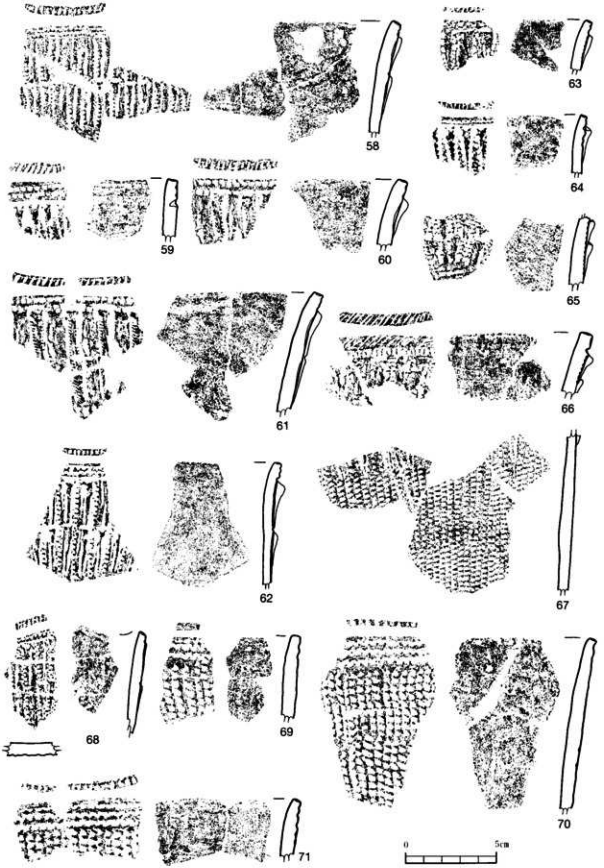
Ⅴ類土器はやや外傾する口縁部をもつ円筒形土器で，器面に貝殻腹縁による押引文を施す土器である。

112の口縁部は直行し口唇部は平坦である。口唇部にはヘラ状工具による刻み目を施し，口縁直下には貝殻腹縁により，横位２段の刺突文をめぐらす。胴部には貝殻腹縁による押引文を施す。115も口縁部は直行し口唇部は平坦である。口唇部にはヘラ状工具による刻み目を施す。口縁直下には貝殻腹縁による，横位２段の連続刺突文を施している。胴部は貝殻腹縁による押引文が施されている。116～120は貝殻腹縁による押引文が施されている胴部片である。

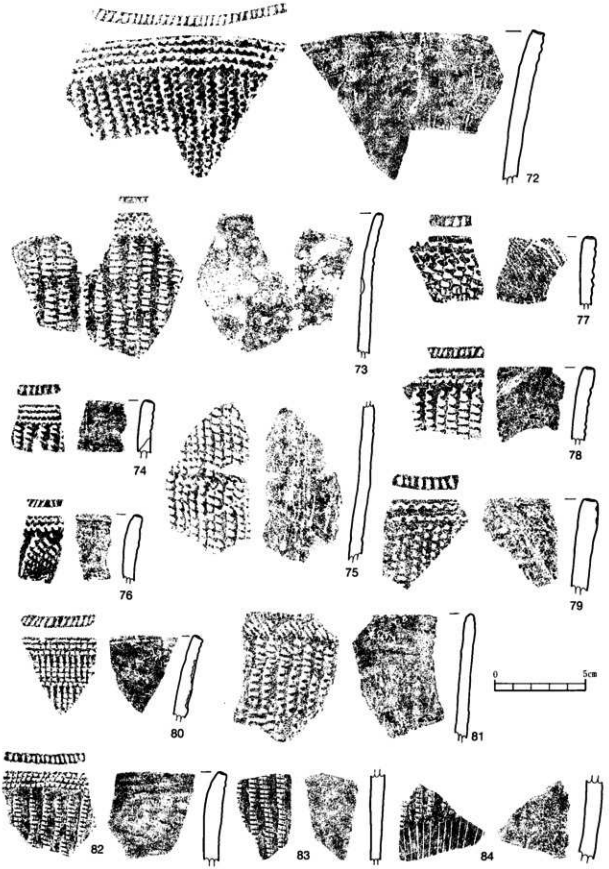
121～146，149～154，157～165は貝殻腹縁による押引文が施された胴部片である。133は貝殻腹縁による押引き文であるが，極めて浅く施文されている。内面はナデ調整がなされている。焼成は良好である。147，148，155，156は胴部から底部にかけての資料である。底部の立ち上がり部には，ヘラ状工具による縦位の刻みが施されている。内面はナデ整形がなされており，焼成は良好である。156は先端の鋭利な工具により下からかき上げるように施文されている。

166は胴部に貝殻腹縁による押引文を斜位に施し，底部外面にはヘラ状工具による刻み目を縦位に施している。内面はナデ整形がなされており，焼成は良好である。底面は磨かれたようにていねいに仕上げられている。167は胴部に横位，斜位に貝殻腹縁による押引文が施され，底部外面はヘラ状工具で縦位に刻み目を施している。

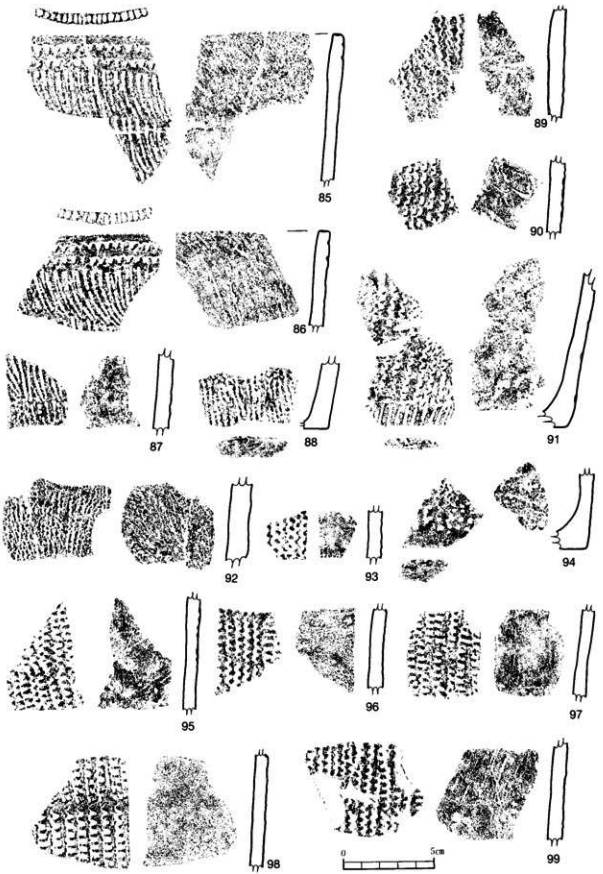
168は外傾する口縁部をもつ円筒土器で，平坦な口唇部にはヘラ状工具による浅い刻み目が施されている。口縁部下には貝殻腹縁による１段の押引文をめぐらし，その上位と下位には貝殻腹縁による横位の連続刺突文をそれぞれ１段ずつ施している。胴部には横方向を基本とする浅い貝殻条痕が見られる。縦長の補修孔が施されている。169，170，173も同一個体と考えられる。



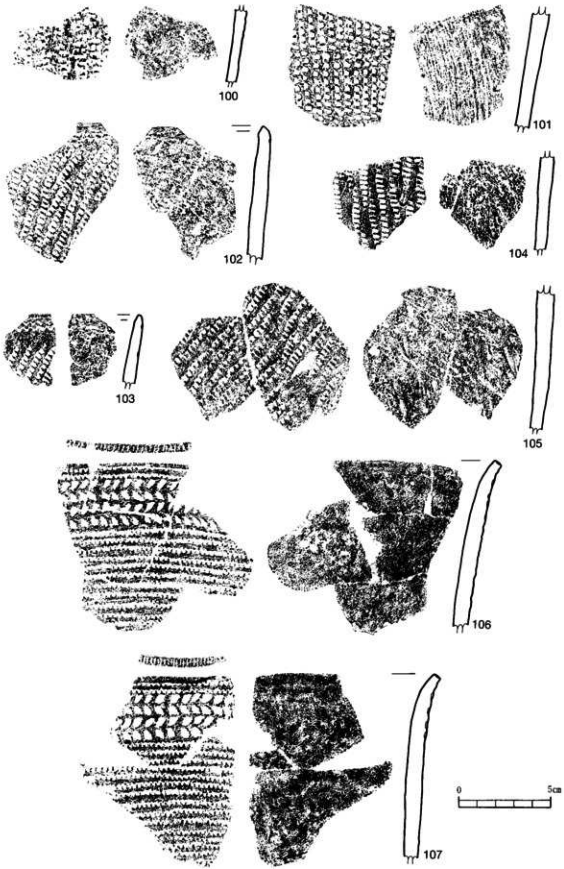
第23図　縄文土器（3）



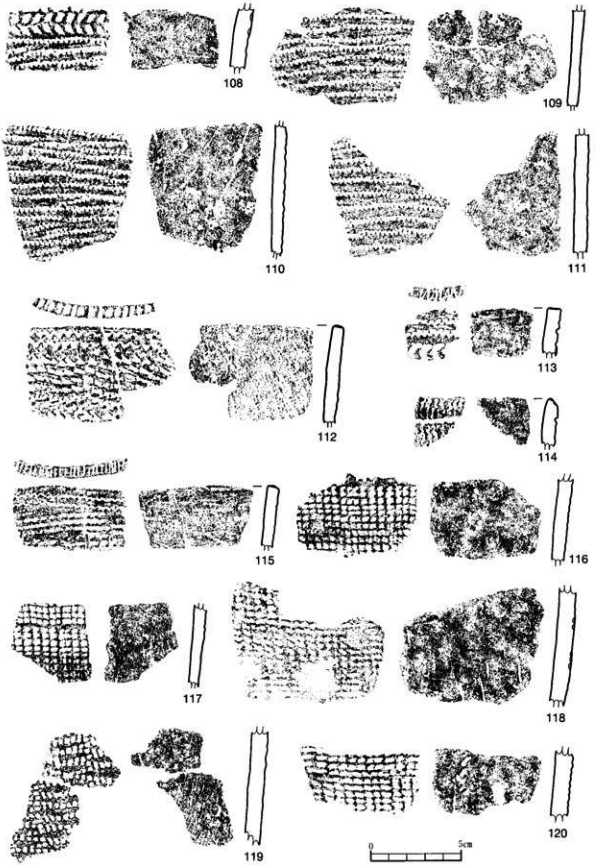
第24図　縄文土器（4）



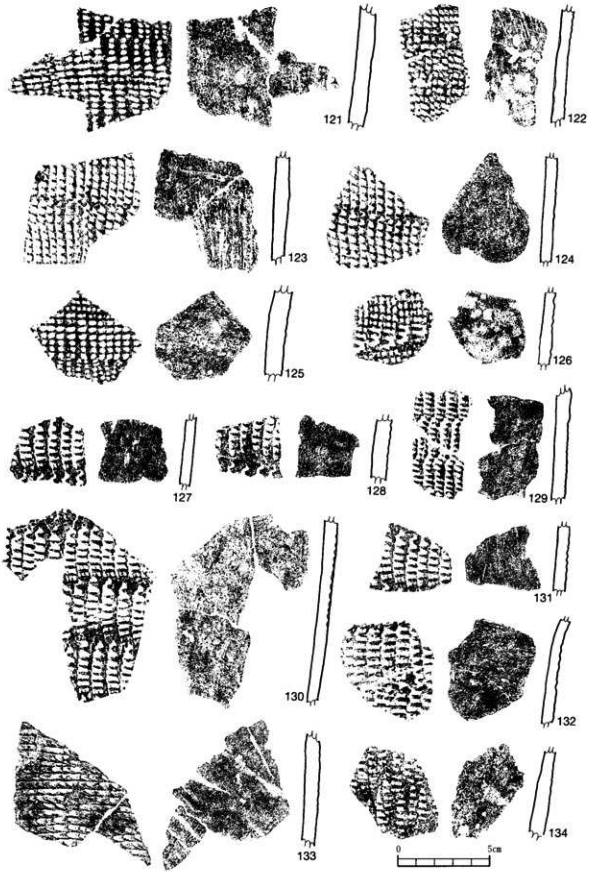
第25図　縄文土器（5）



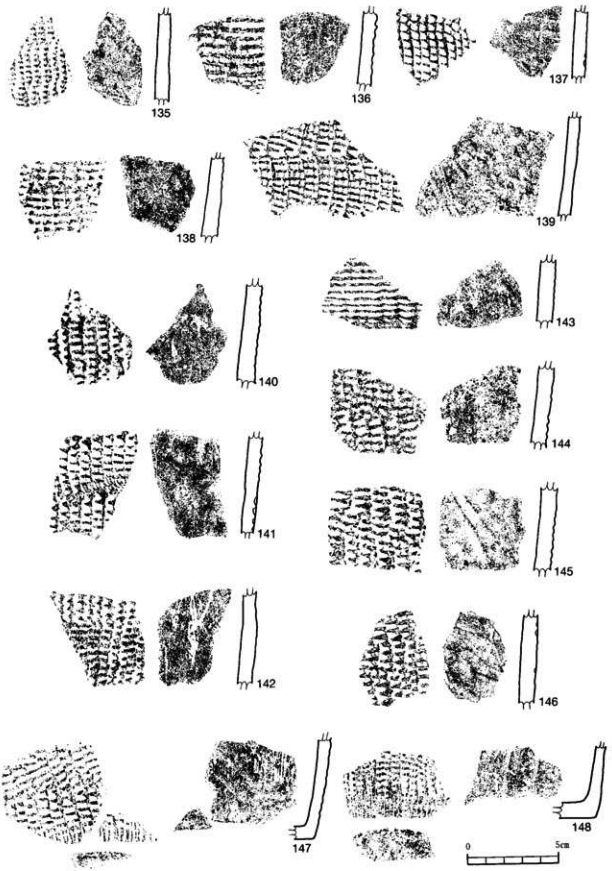
第26図　縄文土器（6）



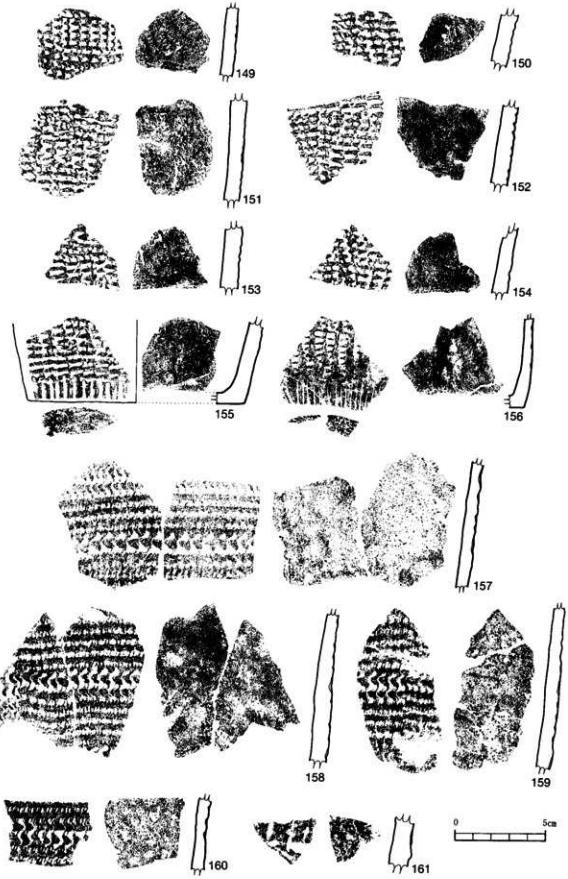
第27図　縄文土器（7）



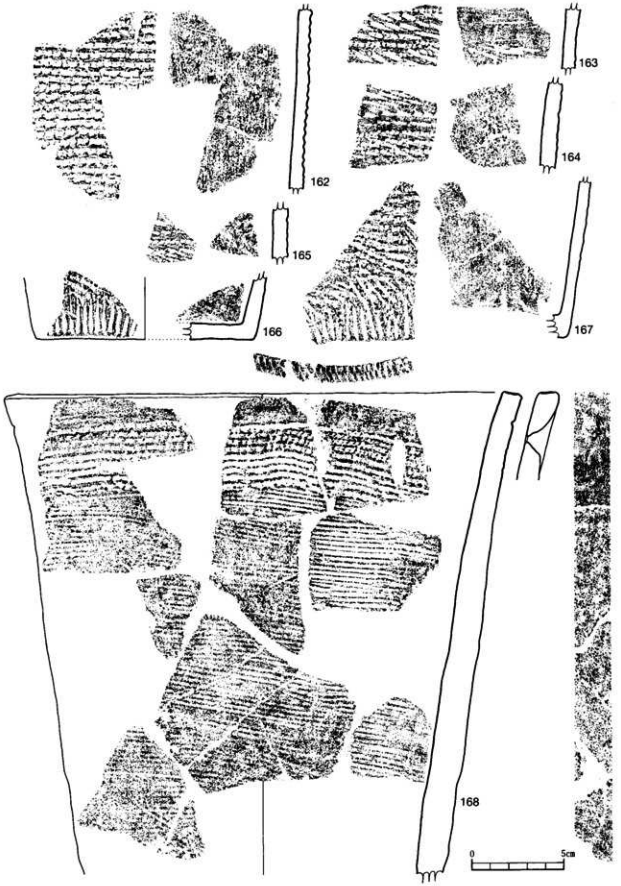
第28図　縄文土器（8）



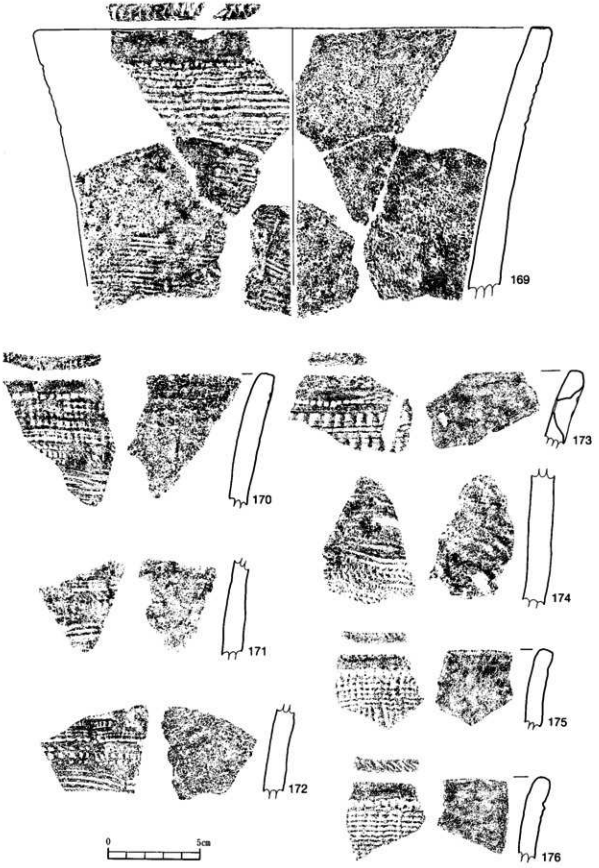
第29図　縄文土器（9）



第30図　縄文土器（10）



第31図　縄文土器（11）



第32図　縄文土器（12）

Ⅵ類土器（第33図～35図177～214）

Ⅵ類土器はやや外傾する円筒形土器で，口縁部下に貝殻刺突文，胴部に貝殻条痕を施した土器である。口唇部は平坦でヘラ状工具や貝殻腹縁による浅い刻み目をもつものが多い。口縁部下には177のように縦位の貝殻刺突文をめぐらすものもあるが，多くは横位の貝殻刺突文を1～2段めぐらしている。胴部には横位を基本とする貝殻条痕が施されている。条痕は比較的浅いものが多い。

Ⅶ類土器（第36図～42図215～284）

Ⅶ類土器はやや外反する口縁部をもつ円筒形土器で，器面に貝殻刺突文と綾杉状を基本とする貝殻条痕を施す土器である。

215は口縁部が外反し，口唇部は平坦である。口唇部はヘラ状工具による刻み目を施し，口縁直下には貝殻腹縁による横位2段の連続刺突文を施す。さらにその下位には，ヘラ状工具による斜位の連続する刺突文を施す。器面全体には貝殻条痕文を縦位，斜位に施している。内面はていねいなナデによる調整が施されている。216は器面全体に綾杉状の貝殻条痕文を施した胴部片である。内面はていねいなナデ整形がなされている。焼成は良好である。217は胴部に斜位の貝殻条痕文が施されている。底部からの立ち上がりには，ヘラ状工具による縦位の刻み目が施されている。内面はていねいなナデ整形が施されている。底部は磨かれたようにていねいな調整がなされている。218は斜位に貝殻条痕文を施す土器片である。底部は磨かれたようにていねいな整形がなされている。219は器面全体に綾杉状に貝殻条痕文を施した土器片である。内面はていねいにナデによる調整が施されている。220は斜位に貝殻条痕文を施した土器片である。焼成は良好で，内面はていねいなナデ整形がなされている。

221～224は外反する口縁部で，平坦な口唇部をもつ。口唇部にヘラ状工具による米粒状の浅い刻み目を施す。口縁直下には，貝殻腹縁による横位2段の連続刺突文を施している。その下位にヘラ状工具による連続する斜位の刺突文を横位に1段施している。胴部には貝殻条痕文を縦位，斜位に施している。焼成は良好である。225～227は貝殻条痕文を斜位，縦位に施した胴部片である。228の口縁部は外反し，平坦な口唇部にヘラ状工具による刻み目を施す。口縁直下には，貝殻腹縁による横位の刺突文を1段施す。その下位に貝殻腹縁による縦位の刺突文を施している。

229～234は外反する口縁部で，平坦な口唇部をもつ。口唇部にヘラ状工具による刻み目を施し，口縁直下には，貝殻腹縁による横位2段の連続刺突文を施している。器面全体には貝殻条痕文を縦位，斜位に施している。内面はていねいにナデによる調整が施される。焼成は良好である。

232の内面はナデによるていねいな調整がみられる。235，236はやや外傾する口縁部である。口唇部は平坦で，刻み目はみられず，ナデによるていねいな調整がなされている。口縁直下には貝殻腹縁による横位の刺突文を1段施している。その下にヘラ状工具による2列の斜位で平行な刺突文を施している。器面には貝殻条痕文を斜位，縦位に施している。237はやや外傾する口縁部で平坦な口唇部をもつ。口唇部にはヘラ状工具による刻み目が施される。口縁直下には，貝殻腹縁様の施文具による刺突または押圧文が横位に平行に2段施されている。内面はナデによりていねいに調整されている。

238～270 はⅦ類土器の胴部片と考えられるもので，器面に綾杉状，斜位，横位の貝殻条痕を施すものである。それぞれの条痕を重ね合わせて文様効果を高めているものもある。内面はていねいなナデ調整がなされているものが多い。

256，257，263～265 はいずれもやや外傾する口縁部で器面に綾杉状，斜位，横位に貝殻条痕が施されたものである。263 は山形口縁を呈し，やや丸みを帯びる口唇部に文様は見られない。

275 は口縁部がやや外へ開きながら直行するものである。平坦な口唇部には文様は見られない。口縁部直下には貝殻腹縁による連続刺突文を羽状に施している。器面全体は，浅い貝殻条痕文を横位に施している。内面はナデにより調整されている。276～283 は同一個体と考えられる土器片である。284 は器面に横位の貝殻腹縁による刺突文を施した土器片である。内面はナデによる調整がみられる。焼成は良好である。Ⅴ類の可能性もある。

Ⅷ類土器（第43図285～289）

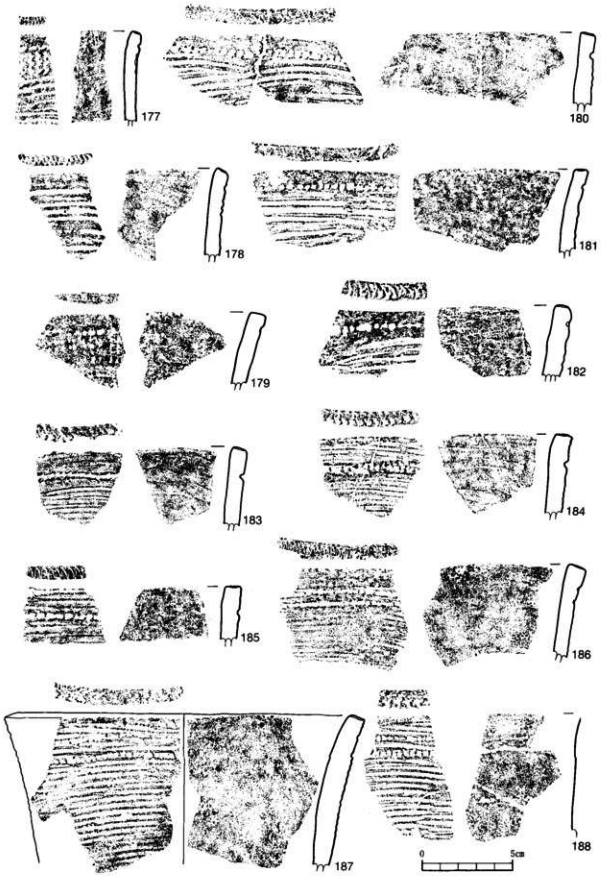
Ⅷ類土器は口縁部下に貝殻条痕を施す円筒形土器である。胴部はナデ仕上げで文様はもたない。

285 は口縁部がやや外傾し，口唇部は丸みをおびている。口唇部及び口縁部直下に文様は見られない。器面には横位に貝殻条痕文を施している。内面はていねいなナデによる調整が施されて磨かれたようになっている。286 ～289 は横位の貝殻条痕を有する土器片で口縁部付近と考えられる。

Ⅸ類土器（第43図290～299）

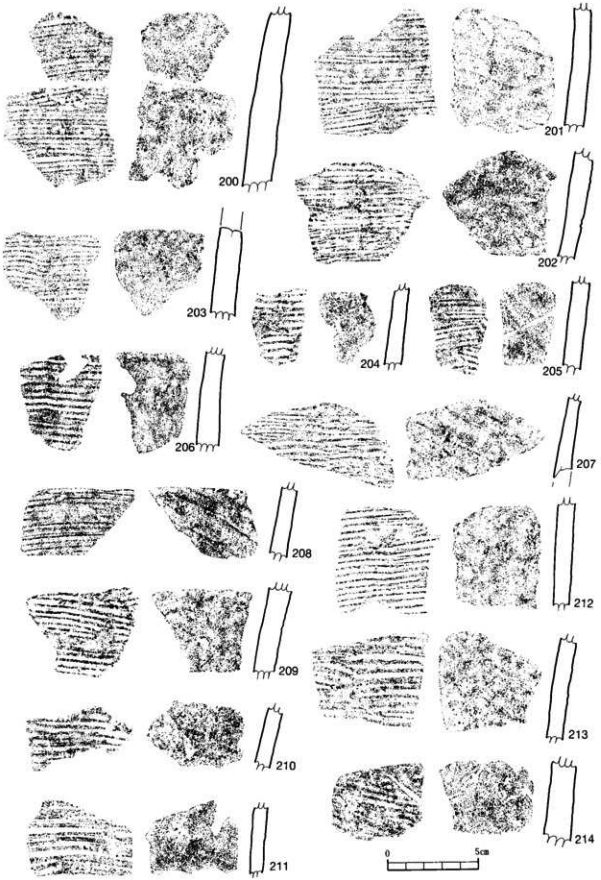
Ⅸ類土器は縄文時代早期該当の土器で型式不明土器をまとめた。

290 は直行する口縁部で，口縁の一部に稜をもつ。稜の頂部から外側に瘤状突起を有する。ヘラ状の工具による沈線が数条みられる。291 は口縁部近くの土器片である。瘤状突起を有し，ヘラ状工具によると思われる数条の沈線を施している。292 は貝殻条痕を縦位に施している。293は貝殻条痕を底部まで縦位に施している。内面はナデにより調整されており，焼成は良好である。294 は口縁部が直行し，口唇部はほぼ平坦となる。口唇部には文様は見られない。器面全体に貝殻条痕文を縦位に施している。内面はナデによりていねいに調整がなされている。焼成は良好である。295 は口縁部が直行し，口唇部はほぼ平坦となる。口唇部に文様は見られない。器面全体に貝殻条痕を縦位に施している。内面はナデにより調整されており，焼成は良好である。縦長の補修孔が見られる。296，297 は縦位に貝殻条痕を施した土器片である。298 は口縁部が外反し，口唇部は平坦である。口唇部に文様はみられない。器面全体に貝殻条痕を横位に施している。内面はナデによりていねいに調整されているが，数箇所剥落が見られる。焼成は良好である。299は口縁部が直行し，口唇部はやや丸みを帯びる。口縁直下に貝殻腹縁による縦位の刺突文を施す。その下位にヘラ状工具による，2段の平行沈線を施す。胴部は貝殻腹縁により縦位の刺突文を施している。焼成は良好である。

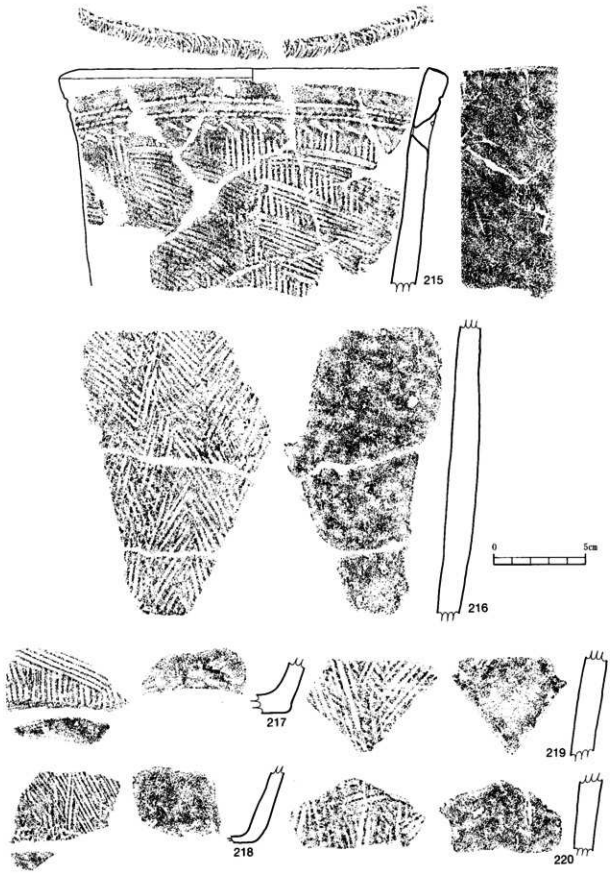


第33図　縄文土器（13）

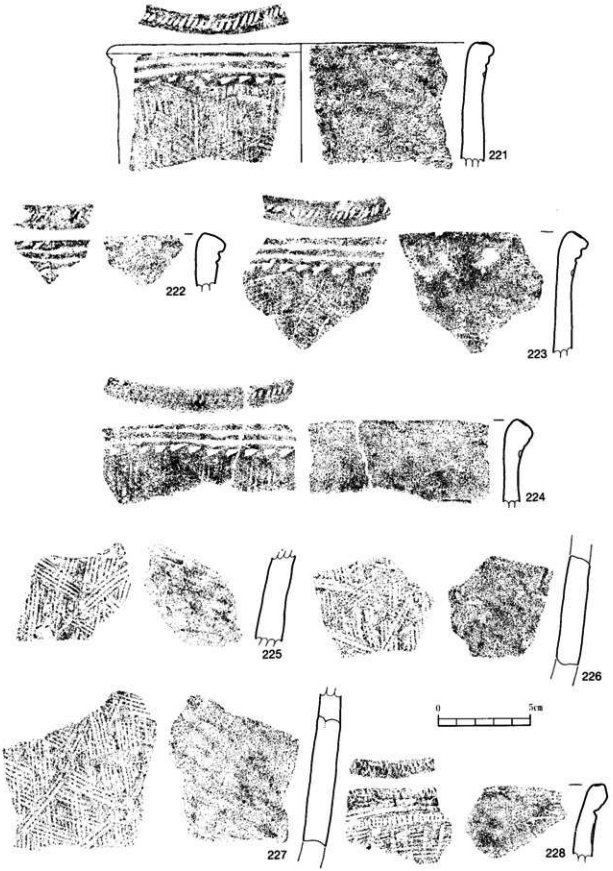
第34図　縄文土器（14）



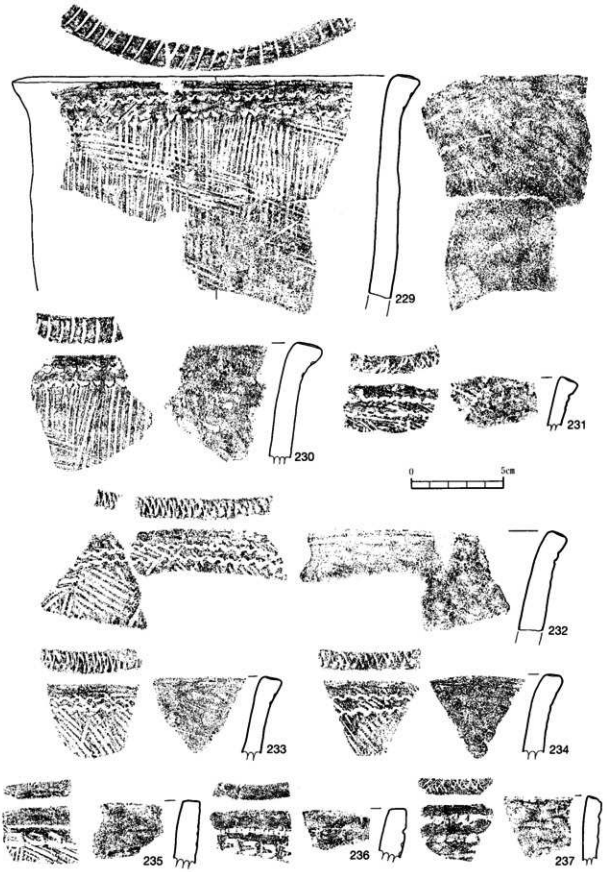
第35図　縄文土器（15）



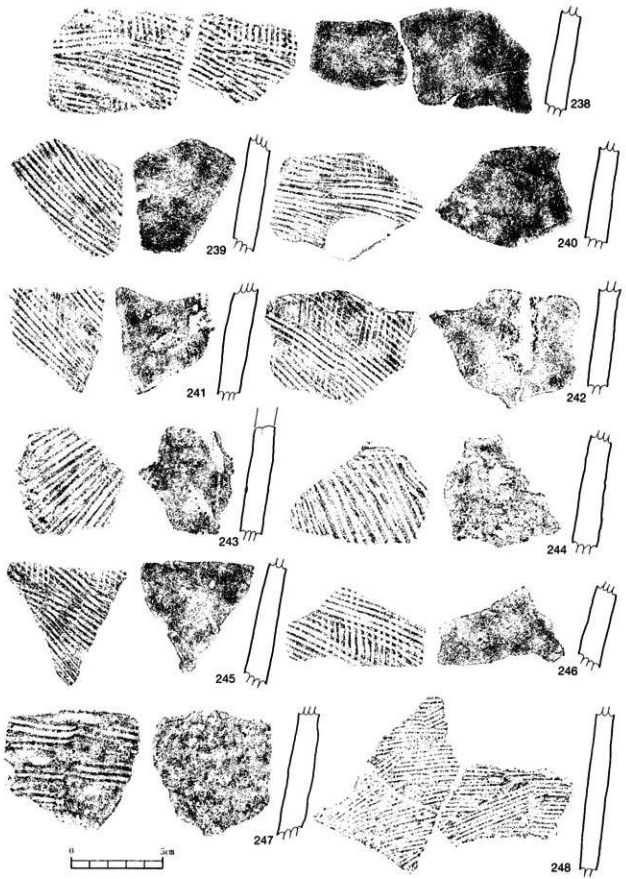
第36図　縄文土器（16）



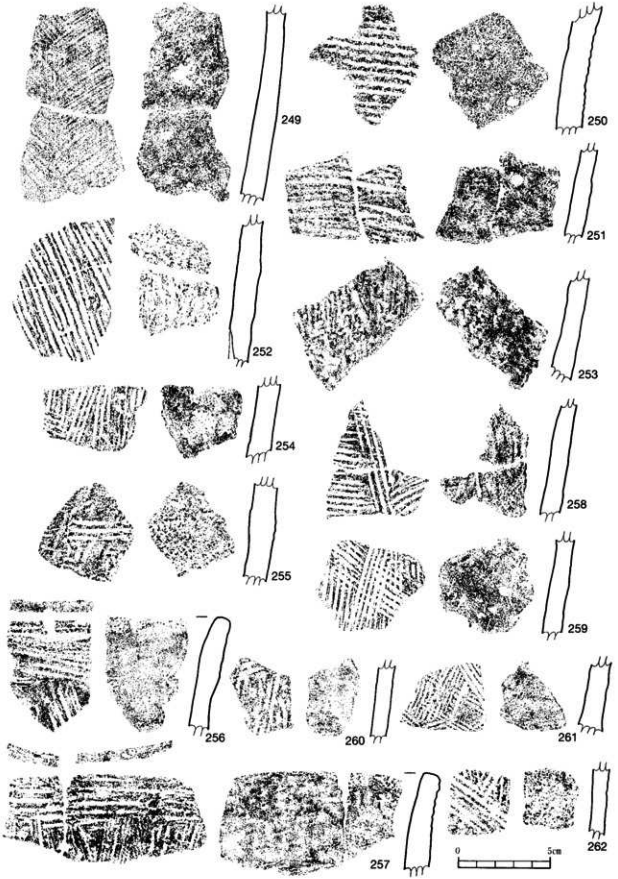
第37図　縄文土器（17）



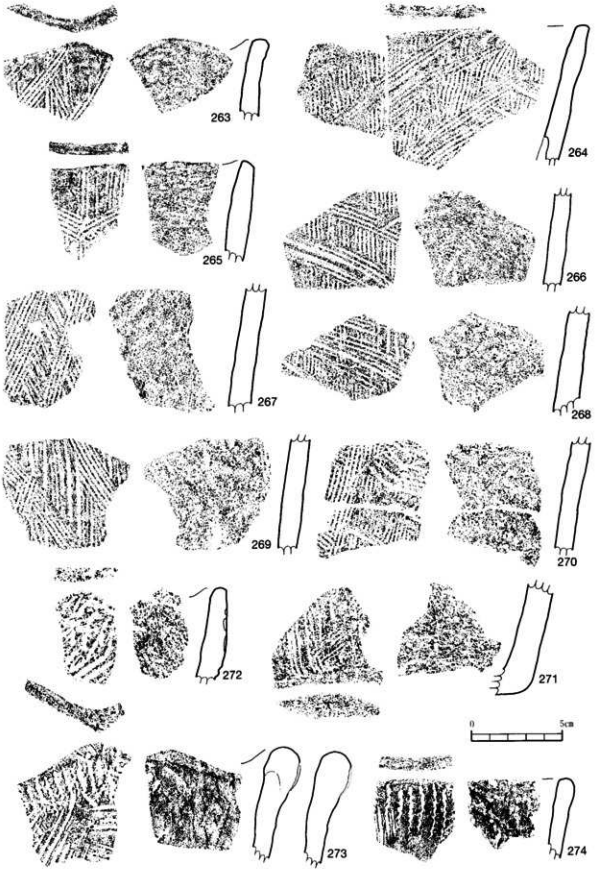
第38図　縄文土器（18）



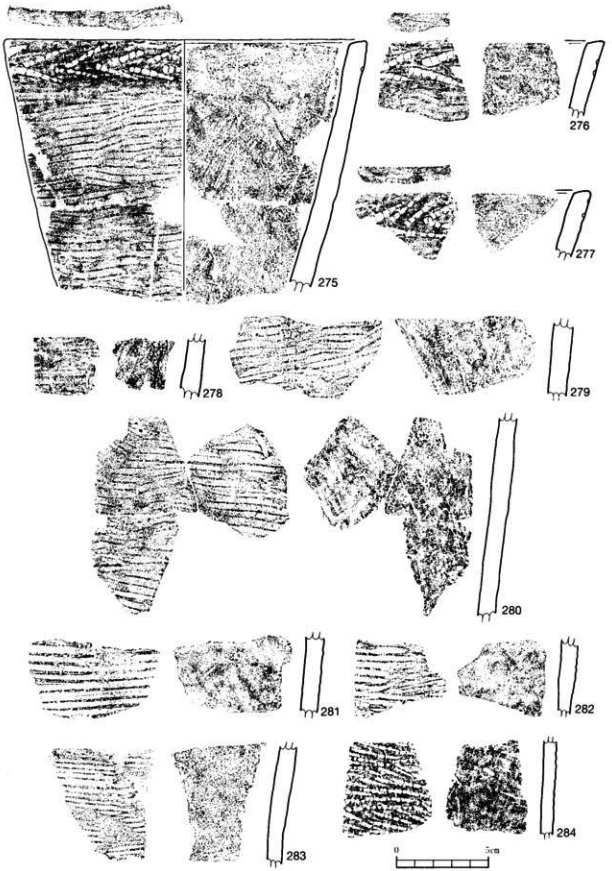
第39図　縄文土器（19）



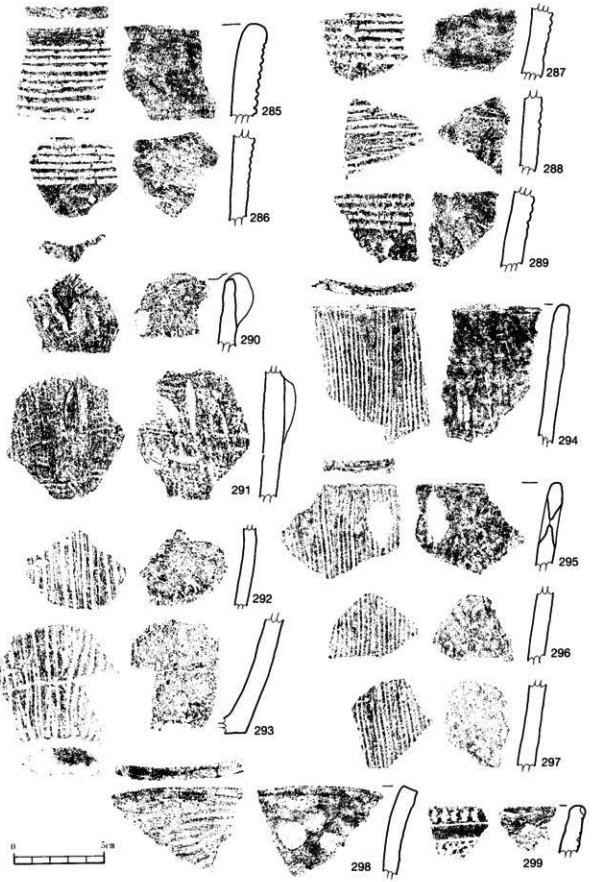
第40図　縄文土器（20）



第41図　縄文土器（21）



第42図　縄文土器（22）



第43図　縄文土器（23）

底部（第44図～46図300～329）

300～329は縄文時代早期に該当する円筒土器の底部である。

300～314の底部は外面の立ち上がりにヘラ状工具による鋸歯状の沈線を施しているものである。底面はていねいなナデによる調整が見られる。

315～323の底部はヘラ状工具による縦位の沈線を施している。323は胴部に貝殻条痕文を横位に施している。

324は胴部に文様はみられない。底部外面にヘラ状施文具による縦位の沈線を施す。325は胴部に横位の貝殻条痕を施し，底部外面には貝殻腹縁による刺突文を斜位に施している。326は胴部に横（斜）位の貝殻条痕を施している。底部外面に文様は見られない。327，328は底面が磨かれたように光沢をもつ土器である。焼成は良好である。328は底部外面に文様はみられない。329は胴部に横位の貝殻条痕を施し，その文様が底部外面にまで及んでいる。

X類土器（第47図330～338）

X類土器は，内弯する口縁部をもつ深鉢である。

330は口縁部が外開きから内弯して，キャリパー状を呈する。口唇部にはヘラ状工具による刻み目を施す。口縁直下から波状の沈線文を施し，さらに刺突による連点文を施している。

332も330と同様の器形を有する。口唇部にヘラによる刻み目を施している。口縁直下から下に開く沈線を施し，さらに刺突による連点文を施す。332は口縁部が外開きから内弯して，キャリパー状を呈する。粘土紐による貼付文を有する。333も口縁部が外開きから内弯して，キャリパー状を呈する。口縁部は波状を呈する。口唇部に文様はない。口縁部に粘土紐の貼付文を有する。334は器面にナデによる整形がなされている。内側は貝殻条痕がみられる。335は口縁部がやや内弯する。口唇部は叉状施文具による文様がみられる。

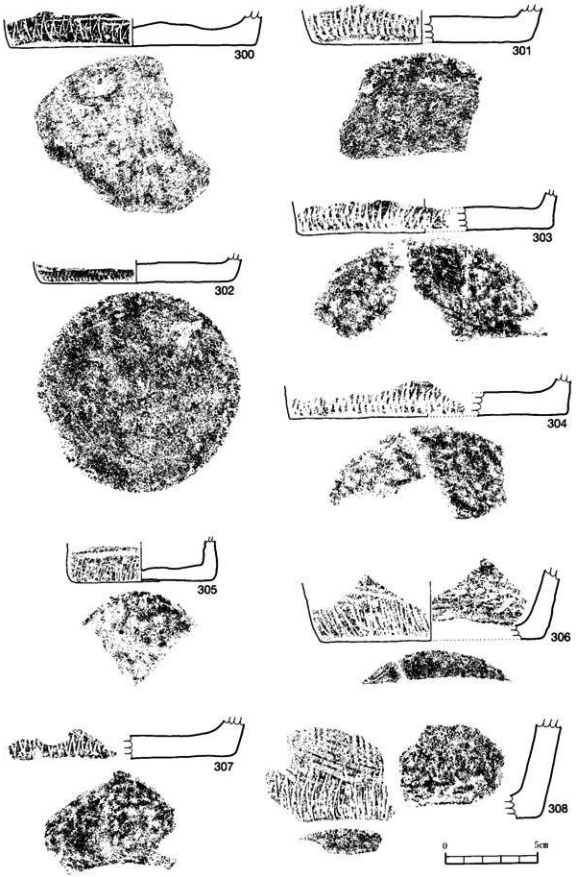
336～338はやや上げ底となる底部である。内外面共に貝殻条痕が顕著である。特に337は底面中央部から放射状に条痕を施している。

XI類土器（第47，48図339～346）

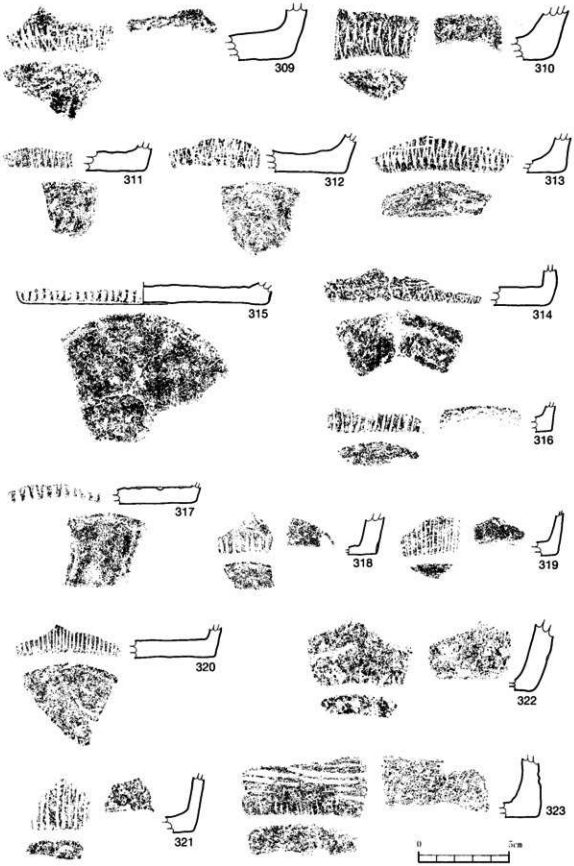
XI類土器は太形凹線文を主文様とする土器である。

339は口唇部が平坦で文様はみられない。口縁部にはヘラ状工具によると考えられる連点文がみられる。その直下に凹線による曲線文がみられる。340は叉状工具によると思われる押引文がみられる。341は凹線文で文様を施した後，叉状工具による押引文を施している。342は凹線文で文様を施した後，叉状工具により押引文を不規則に施す。343は凹線文で文様を施した後，半裁竹管状の施文具による押引文を施している。339～343はいずれも胎土に滑石を含んでいる。

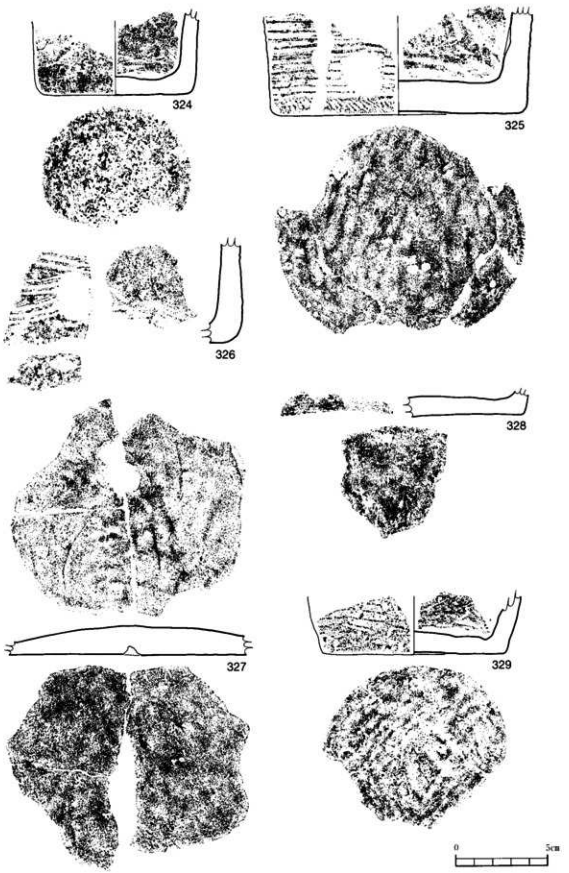
344は二列の平行な連続刺突文を施すものである。内面はナデによる調整がなされており，胎土に角閃石を含む。345は胎土に滑石を含みすべすべした器面をなしている。器壁は薄く，焼成は良好である。器面に明瞭な文様はみられない。色調は明灰褐色を呈する。346は凹線による曲線文を施した土器である。



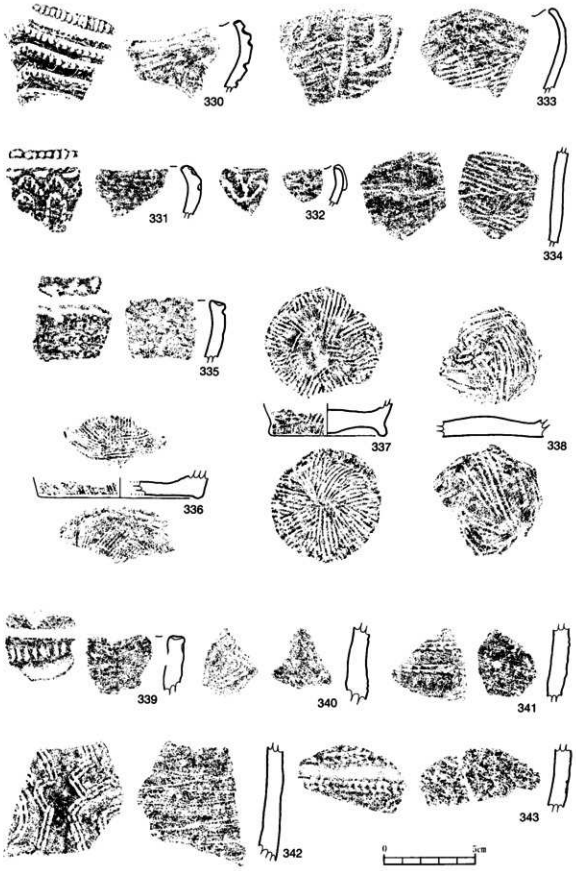
第44図　縄文土器（24）



第45図　縄文土器（25）



第46図　縄文土器（26）



第47図　縄文土器（27）

XII類土器（第48図347～351）

XII類土器は口縁直下に沈線文を主とする文様帯をもつ土器である。

347は口縁部に山形突起を有し，口唇部には文様はみられない。口縁部に短沈線で鋸歯及び曲線の文様を施す。内面はナデにより調整されている。焼成は良好である。348は外反する器形をもち，器面には先端部が鋭くないヘラ状工具で沈線を施して文様を構成している。349は底部片である。底部外面は，ナデによりていねいに整形されている。やや上げ底を呈している。350は口縁部が「く」の字形にやや張り出すもので，台付鉢形土器と考えられる。口唇部はほぼ平坦で文様は見られない。器面にも文様は見られず，内面・外面ともにナデによる整形がなされている。351は口唇部にT字状を呈する突起部を有する鉢形土器で，350と同一個体の可能性が高い。口縁直下から「く」の字状を呈する。器面は横位に条痕を施し，内面はナデにより調整されている。

XIII類土器（第49図352～358）

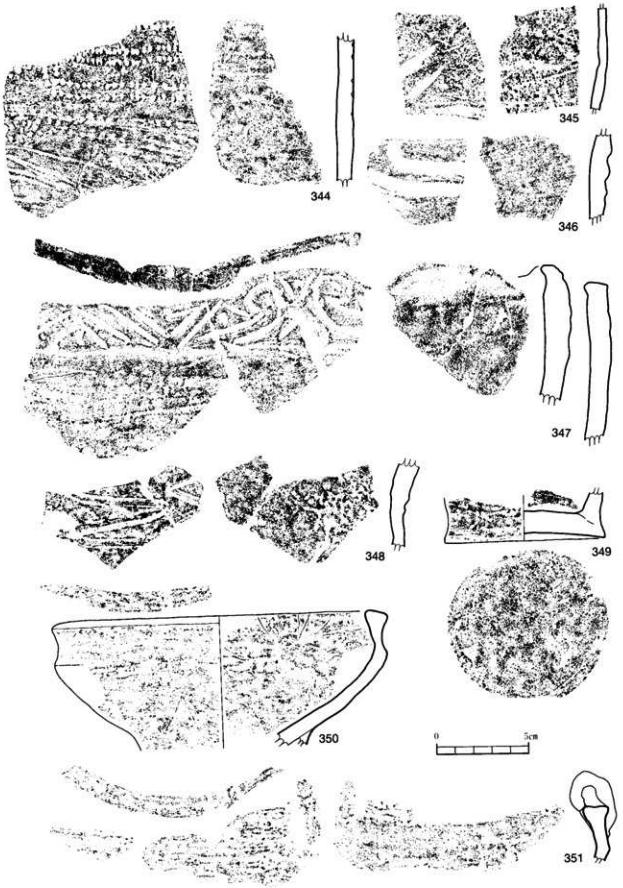
XIII類土器は縄文時代後期該当と考えられる土器で型式不明のものを一括した。

352は口縁部でやや内弯し，波状口縁を呈する土器である。口唇部に文様はみられない。口縁直下には斜位に刻み目を施しその下に2本の平行沈線を施す。沈線間には斜位に刻み目を施している。353は波状口縁をもち口縁部は外反する。器面は貝殻腹縁により斜位に文様を施し，内側はナデによりていねいな整形を施している。354は波状口縁をもつ土器片である。口唇部は貝殻腹縁で刺突している。器面は貝殻条痕を横位に施している。355は器面をナデにより整形している土器片である。356は口縁部に山形突起を有し，口縁部に貼り付け突帯を有する。その直下には凹線で曲線の文様を施す。357は器形は口縁部で外反する。器面には横位にヘラ状工具で平行な沈線を施している。358は波状口縁をもつ。器面はハケ状工具によりやや斜位の文様を施している。内側は貝殻腹縁により整形を施している。

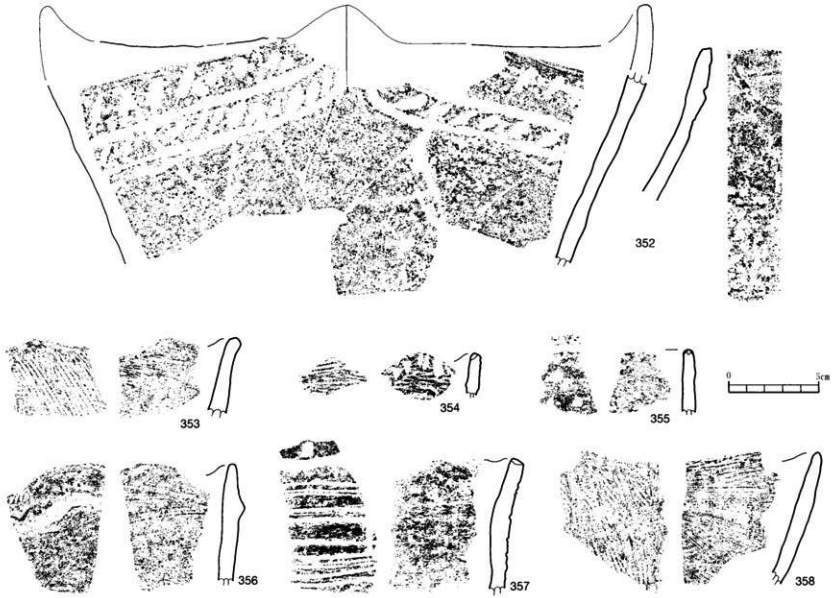
XIV類土器（第50図359～364）

XIV類土器はやや外へ開く口縁部をもつ深鉢である。359のように口縁部に数条の沈線を有するものが多い。364のように胴部は屈曲する。

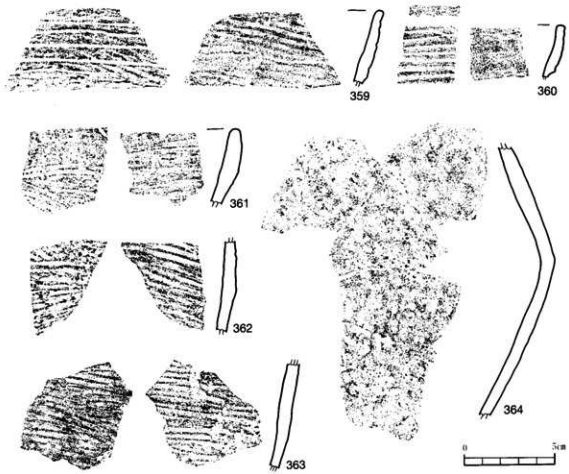
359は器面にヘラ状工具による4条の沈線を施した後，ナデにより整形を行う。内側は，貝殻条痕を横位に施し整形している。胎土に角閃石を含む。360は貝殻条痕を横位に施した土器片である。口唇部はやや丸みを帯び，文様はみられない。内面はナデによりていねいに整形されている。361は波状口縁を有する土器片である。口唇部は丸みを帯び，文様はみられない。器面は貝殻条痕を横位に施している。内面も貝殻条痕を横位に施し整形している。362は器面に貝殻条痕を横位に施し，内面も同じように貝殻条痕をやや斜位に施している。363は器面に貝殻条痕を横位に施し，内面も同じように貝殻条痕を施している。364は「く」の字形の胴張りを有する土器である。内面・外面ともにナデによりていねいに整形がなされている。胎土に角閃石を含む。



第48図　縄文土器（28）



第49図　縄文土器（29）



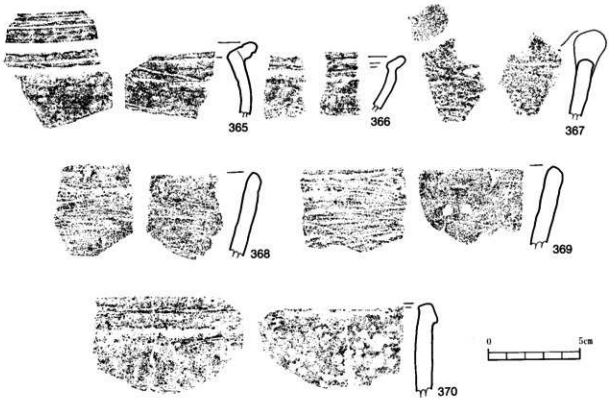
第50図　縄文土器（30）

XV類土器（第51図365～370）

XV類土器は黒色磨研系の浅鉢と，それと同期と考えられる深鉢からなる。

365は口縁部が「L」字状で，器面はナデにより磨かれたように調整されている。366は口縁部が「L」字状を呈する。口唇部に文様はみられない。内面・外面ともにナデにより，ていねいに整形されている。365，366は共に浅鉢である。

367は口縁部に瘤状の突起を有する土器片である。器面に文様は見られない。368は口唇部が丸みを帯び，文様を有しない。器面にはハケ状工具により横位に文様を施し内面も同様な工具により整形がなされている。369は口唇部が丸みを帯び，1条の沈線を有する。器面はハケ状工具により，横位に文様を施している。内面はナデにより整形がなされている。370は口縁部は「L」字状で文様はみられない。内面・外面はナデによりていねいな整形がなされているが内面は剥落が目立つ。



第51図　縄文土器（31）

第4表 縄文土器観察表（1）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	内面調整	備考
第21図	39	Ⅰ	D-6	Ⅲa	420	88.33	灰褐色	良好	石英・長石・角閃石	ナデ	487,488(H12年度)
	40		E-11	Ⅲa	2691	102.62	灰褐色	良好	石英・長石	ナデ	
	41		E-11	Ⅲa	3048	104.02	黄褐色	良好	輝石・長石	ナデ	
	42	Ⅱ	B-13	Ⅳ	7869	102.83	灰褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	7870,8385
	43		B-14	Ⅳ	8225	102.07	灰褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	44		C-13	Ⅲa	6043	104.1	明褐色	良好	小礫・砂粒	ナデ	
	45		B-11	Ⅳ	5257	101.08	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	46		C-15	Ⅲa	11703	100.09	明褐色	普通	小礫・砂粒	ナデ(剥落)	
	47	Ⅲ	B-11	Ⅳ	5213	100.06	暗褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	48		C-10	Ⅳ	4320	99.50	灰褐色	良好	石英	ナデ	
第22図	49	Ⅲ	B-10	Ⅵ	4328	98.67	明褐色	良好	石英	ナデ	
	50		C-11	Ⅵ	4160	100.64	灰褐色	良好	石英・角閃石	ナデ(丁寧)	4196,4197,4310
	51		B-9	Ⅳ	183	95.04	黒褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	196
	52		C-10	Ⅳ	4239	99.33	明褐色	良好	砂粒	ナデ	
	53		C-10	Ⅲa	3856	101.56	灰褐色	良好	石英・輝石	ナデ(丁寧)	
	54		B-10	Ⅳ	4269	99.11	暗褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	55		C-10	Ⅳ	4315	99.82	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ	4467,4595
	56		D-11	Ⅲa	5185	103.43	黄褐色	良好	石英	ナデ	
	57	Ⅳ	B-11	Ⅳ	5255	101.46	褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(丁寧)	
第23図	58	Ⅳ	E-11	Ⅲa	3062	102.33	黄褐色	良好	砂粒	ナデ	3067,3097
	59		C-9	Ⅱ	12015	95.14	明灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(丁寧)	
	60		D-15	Ⅲa	12788	99.12	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	61		F-11	Ⅲa	2808	101.82	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	11748,12694
	62		C-10	Ⅳ	4228	98.95	明赤褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	63		D-10	Ⅲa	3747	101.78	明褐色	良好	砂粒	ナデ	
	64		C-12	Ⅲa	5564	103.97	明褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	65		C-8	Ⅳ	13198	93.16	明赤褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	66		E-11	Ⅲa	1501	102.46	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(丁寧)	3036
	67		E-13	Ⅲa	9024	104.35	灰褐色	普通	砂粒	ナデ(粗い)	9116,9128,9427
	68		E-11	Ⅲa	2788	102.44	黄褐色	良好	石英	ナデ	2789
	69		C-10	Ⅳ	4314	99.71	明褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	
	70		F-11	Ⅲa	2754	102.84	明褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	8567,8909
	71		C-11	Ⅲa	4118	100.85	明褐色	良好	砂粒	ナデ	5166
第24図	72	Ⅳ	D-10	Ⅲa	3854	100.27	暗褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	集石内(C-9)
	73		D-14	Ⅲa	11008	102.47	灰褐色	普通	石英・砂粒	ナデ(剥落)	11110
	74		F-11	Ⅲa	2807	101.8	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	75		C-11	Ⅲa	4660	102.13	明褐色	良好	砂粒	ナデ	4661,4665
	76		E-12	Ⅲa	8926	104.35	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	77		D-14	Ⅲa	11713	101.3	灰褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	78		C-12	Ⅲa	5308	104.05	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	79		D-11	Ⅲa	3147	102.13	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	

第５表　縄文土器観察表（２）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第24図	80	Ⅳ	B-11	Ⅳ	5094	101.76	明褐色	良好	砂粒	ナデ	
	81		C-12	Ⅲa	5678	102.89	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	82		C-8	Ⅳ	13151	93.57	灰褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	83		C-10	Ⅳ	4246	100.27	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	84		D-11	Ⅲa	4546	102.78	灰褐色	良好	石英	ナデ	
第25図	85	Ⅳ	C-10	Ⅲa	3366	100.47	灰褐色	良好	石英	ナデ	3982
	86		D-10	Ⅲa	3720	100.97	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	87		C-11	Ⅳ	4671	102.83	黄褐色	良好	砂粒	ナデ	
	88		B-11	Ⅳ	4179	99.96	黄褐色	良好	石英	ナデ	
	89		C-13	Ⅲa	7050	103.78	赤褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	90		B-11	Ⅳ	4334	99.85	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	91		E-11	Ⅲa	3072	102.17	明褐色	普通	石英	ナデ	3080,3081
	92		D-12	Ⅲa	5692	104.37	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	5850
	93		B-11	Ⅳ	4335	99.7	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	94		C-10	Ⅲa	3273	100.73	灰褐色	良好	石英・長石	ナデ	
	95		D-10	Ⅲa	3818	100.66	暗褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	96		C-8	Ⅳ	13146	93.84	明褐色	良好	石英	ナデ	
	97		C-12	Ⅲa	5369	103.65	灰褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	98		C-10	Ⅳ	4290	99.31	暗褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	99		D-10	Ⅲa	4391	102.56	赤褐色	良好	石英	ナデ	4392
第26図	100	Ⅳ	D-14	Ⅲa	10189	101.95	灰褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	101		E-11	Ⅲa	2888	102.47	明褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	102		C-11	Ⅲa	3771	101.83	灰褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	3873
	103		C-9	Ⅱ	12099	95.66	暗褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	104		C-10	Ⅲa	3999	101.32	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	105		D-11	Ⅳ	4700	102.46	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	106		F-11	Ⅲa	2517	102.39	明褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	2518
	107		F-11	Ⅲa	1366	102.42	明褐色	良好	石英・輝石	ナデ	2308,2309
第27図	108	Ⅳ	D-11	Ⅳ	5109	103.0	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	109		F-11	Ⅲa	2517	102.39	灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	110		F-10	Ⅲa	2816	100.43	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	111		D-11	Ⅲa	4428	103.68	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	112	Ⅴ	F-11	Ⅲa	2730	101.86	灰褐色	良好	石英	ナデ	8821
	113		E-11	Ⅲa	3094	103.22	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	114		D-11	Ⅲa	4350	102.88	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	115		B-9	Ⅳ	13183	94.43	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	116		C-11	Ⅲa	4659	102.33	暗褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	117		D-14	Ⅲa	10833	102.34	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	118		E-11	Ⅳ	3115	102.27	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	119		B-10	Ⅳ	4272	98.53	明褐色	良好	砂粒	ナデ	5595
	120			Ⅴ	一括		暗褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	

第６表　縄文土器観察表（３）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第28図	121	V	D-10	Ⅲa	3759	101.35	明褐色	良好	石英	ナデ	3845,4186
	122		C-12	Ⅲa	5841	102.74	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	123		D-11	Ⅲa	4469	102.57	明褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	4581
	124		C-11	Ⅳ	4249	100.03	暗赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	125		C-14	Ⅲa	10323	102.3	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	126		B-14	Ⅲa	7504	102.67	暗褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	127		B-11	Ⅲa	4793	102.33	暗赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	128		B-11	Ⅲa	4853	102.35	赤褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	129		B-11	Ⅳ	5087	101.71	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	5138
	130		B-11	Ⅲa	4854	102.21	暗褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	4855,4856
	131		B-11	Ⅳ	5206	100.99	灰褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	132		B-13	Ⅲa	6847	103.61	赤褐色	良好	輝石	ナデ(丁寧)	
	133		B-11	Ⅳ	5210	101.32	灰褐色	良好	石英・輝石	ナデ	5710
	134		D-10	Ⅲa	3626	100.57	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
第29図	135	V	B-11	Ⅳ	5226	101.59	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	136		C-8	Ⅳ	13016	94.07	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	137		C-13	Ⅳ	5917	103.72	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	138		C-12	Ⅲa	5562	103.94	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	139		B-12	Ⅲa	5663	103.19	灰黄褐色	良好	輝石	ナデ(丁寧)	
	140		C-10	Ⅲa	3817	100.05	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	141		C-11	Ⅳ	4669	102.06	明褐色	良好	石英	ナデ	
	142		C-10	Ⅳ	4316	99.15	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	143		B-13	Ⅲa	7059	103.45	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	144		C-14	Ⅲa	8252	102.67	暗褐色	普通	石英	ナデ(粗い)	
	145		E-11	Ⅲa	3007	102.79	黄褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	146		C-10	Ⅲa	4107	100.0	灰褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	147		C-10	Ⅲa	4088	100.77	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	4219
	148		D-11	Ⅳ	5239	103.68	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
第30図	149	V	D-11	Ⅳ	5179	104.04	灰橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	150		B-11	Ⅳ	5207	100.83	灰褐色	良好	角閃石・砂粒	ナデ	
	151		C-12	Ⅳ	5715	103.1	灰橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	152		E-11	Ⅲa	2993	102.19	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	153		B-11	Ⅵ	4169	100.09	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	154		C-10	Ⅲa	3603	101.54	灰黄褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	155		C-11	Ⅳ	4876	102.13	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	10452,12871
	156			Ⅴ	一括		明褐色	良好	石英	ナデ	
	157		D-15	Ⅲa	11961	99.59	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	11992
	158		C-13	Ⅲa	8431	102.91	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	10099
	159		C-13	Ⅲa	7531	103.57	赤褐色	良好	石英	ナデ	7559,10506
	160		B-12	Ⅲa	12991	94.3	赤褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	161		E-11	Ⅲa	3056	103.37	赤褐色	良好	砂粒	ナデ(粗い)	

第７表　縄文土器観察表（４）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第	162		C-10	Ⅳ	4284	98.3	暗灰褐色	良好	石英	ナデ	4323,4326
	163		C-10	Ⅳ	4292	99.64	明黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	164		D-14	Ⅲa	11038	101.73	灰暗褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
31	165	Ⅴ		Ⅴ	一括		黒褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	166		C-11	Ⅳ	4945	102.13	灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
図	167		C-10	Ⅲa	3274	100.6	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	4143
	168		D-10	Ⅲa	3863	101.28	明赤褐色	普通	石英・角閃石	ナデ	補修孔有 4095,4212他
	169		E-12	Ⅲa	8579	104.61	灰褐色	普通	石英	ナデ	8597,8662,8665
第	170		C-14	Ⅳ	8239	102.47	明赤褐色	普通	石英・砂粒	ナデ	
	171		C-14	Ⅲa	11018	101.76	灰褐色	普通	砂粒	ナデ	
	172	Ⅴ	E-11	Ⅲa	2694	103.01	灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
32	173		C-15	Ⅲa	11943	100.15	灰赤褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	補修孔有
	174		B-13	Ⅳ	7744	103.15	暗褐色	普通	石英・砂粒	ナデ	
図	175		C-10	Ⅲa	3933	99.41	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	176		B-10	Ⅳ	4274	98.64	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	177		E-13	Ⅲa	9729	103.32	灰黄橙色	普通	石英・砂粒	ナデ	
	178		C-10	Ⅲa	3939	100.21	茶褐色	普通	石英	ナデ	
第	179		D-12	Ⅲa	5529	104.89	明赤褐色	普通	砂粒	ナデ	
	180		B-9	Ⅴ	197	94.73	灰褐色	良好	石英	ナデ	3444
	181		B-12	Ⅳ	5704	102.82	暗赤褐色	良好	石英	ナデ	
	182	Ⅵ	C-11	Ⅳ	4243	100.15	灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
33	183		B-13	Ⅲa	7526	103.4	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	184		B-13	Ⅲa	7028	103.59	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	7058
	185		B-9	Ⅳ	13187	94.15	灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
図	186		D-13	Ⅲa	10973	103.25	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	187		E-11	Ⅲa	2794	102.18	暗灰褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(丁寧)	3170
	188		C-13	Ⅳ	8245	102.84	灰褐色	良好	石英	ナデ	9910
	189		D-10	Ⅲa	3843	101.29	明赤褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	4295,4312,5587
	190		C-12		集石内		灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
第	191		C-12	Ⅲa	5480	103.27	灰橙色	良好	石英	ナデ	
	192		D-11	Ⅲa	4468	102.53	灰橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	193		D-11	Ⅲa	4811	103.52	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
34	194	Ⅵ	D-13	Ⅲa	6727	103.69	明赤褐色	普通	石英・砂粒	不明(剥落)	
	195		E-10	Ⅲa	3802	101.24	灰黄橙色	良好	石英	ナデ(丁寧)	3829
	196		D-10	Ⅲa	3758	101.27	灰黄褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
図	197		E-13	Ⅳ	8881	104.01	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	198		C-13	Ⅲa	5908	104.03	灰赤褐色	良好	石英	ナデ(剥落)	
	199		C-14	Ⅲa	10794	102.63	赤褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	10941
第	200		B-13	Ⅲa	8383	102.89	赤褐色	普通	石英	ナデ	11636
35	201	Ⅵ	C-14	Ⅲa	10669	102.46	灰赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ(丁寧)	
図	202		D-10	Ⅲa	3861	101.22	明赤褐色	良好	輝石	ナデ(粗い)	

第８表 縄文土器観察表（５）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	内面調整	備考
第35図	203	VI	F-10	Ⅲa	3039	100.63	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	204		C-11	Ⅲa	4480	102.4	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	205		C-11	Ⅲa	4490	102.49	灰赤褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	206		B-13	Ⅲa	6191	103.9	赤褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	207		B-12	Ⅲa	5659	103.51	暗赤褐色	良好	石英・長石	ナデ	
	208		B-10	Ⅲa	3978	98.44	灰赤褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	209		B-11	Ⅳ	5204	100.4	灰暗褐色	良好	長石	ナデ	
	210		E-13	Ⅳ	8882	104.0	灰褐色	良好	輝石	ナデ	
	211		C-14	Ⅳ	8242	102.74	暗褐色	良好	石英・長石	ナデ	
	212		B-11	Ⅲa	4790	102.17	灰橙色	良好	石英	ナデ	
	213		C-13	Ⅳ	7741	103.31	暗赤褐色	良好	石英	ナデ(剥落)	
	214		E-11	Ⅲa	3050	103.97	灰赤褐色	普通	石英	ナデ	
第36図	215	VII	C-10	Ⅳ	4287	98.86	赤褐色	普通	石英・角閃石	ナデ	補修孔有 4307,4601他
	216		C-11	Ⅲa	3887	101.24	赤褐色	普通	石英・砂粒	ナデ	4500,4622
	217		C-11	Ⅳ	4330	100.83	赤褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	
	218		C-12	Ⅲa	5547	104.53	暗赤褐色	良好	石英	ナデ	
	219		C-10	Ⅳ	4288	98.97	明赤褐色	良好	石英	ナデ	
	220		C-11	Ⅲa	4542	102.78	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
第37図	221	VII	D-11	Ⅲa	4553	102.79	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	4614,9673
	222		F-14	Ⅲa	9192	97.0	明赤橙色	普通	石英・輝石	ナデ	
	223		C-12	Ⅲa	5415	104.34	明赤褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	
	224		D-12	Ⅲa	5536	104.57	赤褐色	良好	石英	ナデ	13123
	225		E-11	Ⅲa	3092	103.22	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(丁寧)	
	226		D-11	Ⅲa	3155	102.11	明赤褐色	良好	石英	ナデ	
	227		D-11	Ⅳ	5074	102.8	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	228		E-14	Ⅲa	9377	102.17	明黄褐色	良好	石英	ナデ	
第38図	229	VII	C-11	Ⅲa	4503	102.98	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	4840,5133
	230		D-11	Ⅳ	5047	103.31	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ(粗い)	
	231		F-13	Ⅲa	9574	102.86	暗赤褐色	普通	石英	ナデ	
	232		C-10	Ⅳ	4319	99.37	明赤褐色	良好	石英	ナデ	4479
	233		D-11	Ⅲa	4386	102.97	灰赤褐色	普通	石英	ナデ	
	234		C-11	Ⅲa	4489	102.51	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	235		E-11	Ⅲa	1256	102.7	赤褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	236		C-8	Ⅳ	13141	93.94	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	237		C-10	Ⅳ	4291	99.47	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
第39図	238	VII	B-11	Ⅳ	5229	100.54	暗褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	5839
	239		B-10	Ⅳ	4205	99.73	灰赤褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	240		C-10	Ⅳ	4268	99.42	暗褐色	良好	石英・輝石	ナデ(丁寧)	
	241		C-11	Ⅲa	4094	100.73	灰赤褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	242		B-11	Ⅲa	5122	101.61	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	243		C-12	Ⅲa	5314	103.72	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	

第９表　縄文土器観察表（６）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第39図	244		D-13	Ⅲa	11003	103.15	明赤褐色	良好	石英	ナデ(剥落)	
	245		B-10	Ⅳ	4244	98.83	灰褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	246	Ⅶ	B-11	Ⅳ	5155	101.58	灰赤褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	247		E-12	Ⅳ	9322	99.33	灰黄褐色	良好	輝石・砂粒	ナデ	
	248		E-9	Ⅲa	3487	99.98	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	3644,5112
第40図	249		C-11	Ⅳ	4258	100.08	灰赤褐色	良好	石英	ナデ	4569
	250		E-13	Ⅳ	8883	104.03	灰黄橙色	普通	石英・輝石・角閃石	ナデ	風化
	251		C-13	Ⅲa	8188	104.07	赤褐色	普通	石英・砂粒	ナデ	8266
	252		C-14	Ⅲa	11939	100.57	灰赤橙色	やや不良	石英・砂粒	不明(剥落)	
	253		C-11	Ⅳ	5254	102.16	灰赤褐色	良好	石英	ナデ(剥落)	
	254		C-11	Ⅳ	4879	102.74	灰橙色	普通	石英	ナデ(剥落)	
	255	Ⅶ	C-8	Ⅳ	13144	93.78	赤褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	256		C-15	Ⅲa	11704	100.09	暗赤褐色	普通	石英・砂粒	ナデ	
	257		F-13	Ⅲa	9527	102.19	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	9680
	258		F-11	Ⅲa	2954	101.87	灰黄橙色	良好	石英	ナデ	9042
	259		D-12	Ⅲa	8364	104.44	赤褐色	普通	石英	ナデ	
	260		C-11	Ⅲa	5125	101.29	明赤褐色	普通	石英	ナデ	
	261		E-10	Ⅲa	3497	100.8	灰赤褐色	普通	輝石	ナデ	
	262		B-9	Ⅳ	173	95.04	赤褐色	普通	砂粒	ナデ(粗い)	
第41図	263		D-14	Ⅲa	11865	100.23	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	264		D-13	Ⅲa	7038	104.38	黄褐色	良好	石英・輝石	ナデ(剥落)	8573
	265		D-13	Ⅳ	7812	103.32	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	
	266		C-12	Ⅲa	5379	104.34	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	267		D-14	Ⅲa	10747	102.69	明黄褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	268	Ⅶ	D-13	Ⅲa	10850	103.27	灰黄褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	
	269		D-14	Ⅲa	11162	102.23	灰黄褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	270		F-11	Ⅲa	2733	101.31	灰赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	3878
	271		E-11	Ⅲa	2887	102.79	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	272		D-11	Ⅳ	5175	103.83	暗赤褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	273		E-12	Ⅲa	9323	99.22	灰褐色	良好	砂粒	ナデ(丁寧)	
	274		E-12	Ⅳ	9043	104.42	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	
第42図	275		C-13	Ⅳ	7499	103.55	明赤橙色	普通	石英・輝石	ナデ	7735,7738,8243他
	276		C-13	Ⅲa	7049	103.69	赤橙色	良好	石英・輝石	ナデ	
	277		C-14	Ⅲa	10807	102.08	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	278		C-13	Ⅳ	7740	103.44	明赤褐色	良好	石英	ナデ	
	279	Ⅶ	C-14	Ⅳ	8241	102.69	明赤褐色	良好	石英	ナデ	
	280		C-13	Ⅲa	8450	103.82	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	10111,11233
	281		B-14	Ⅲa	11854	101.36	明赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	282		C-11	Ⅳ	4693	102.5	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	283		E-14	Ⅳ	9735	102.16	明赤褐色	良好	石英	ナデ	
	284		C-11	Ⅲa	3956	101.25	灰褐色	良好	輝石	ナデ	

第10表　縄文土器観察表（7）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第	285	Ⅷ	D-11	Ⅲa	3815	101.87	暗茶褐色	良好	石英	ナデ(丁寧)	
	286		D-12	Ⅲa	8371	104.36	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	287		D-12	Ⅲa	8368	104.16	明褐色	良好	石英	ナデ	
	288		C-10	Ⅳ	4255	100.13	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	
	289		C-10	Ⅲa	3877	101.39	灰黄褐色	良好	砂粒	ナデ	
	290	Ⅸ	E-11	Ⅲa	2886	102.89	灰褐色	良好	砂粒	ナデ(粗い)	
	291		B-15	Ⅲa	11949	100.6	灰褐色	良好	角閃石	ナデ(粗い)	
43	292		B-13	Ⅲa	8483	102.5	黄褐色	良好	砂粒	ナデ	
	293		C-13	Ⅲa	6389	103.78	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	6390
	294		D-12	Ⅲa	5847	104.26	灰黄褐色	良好	石英	ナデ	
	295		E-13	Ⅲa	8956	104.3	灰褐色	良好	角閃石	ナデ	補修孔有
図	296		E-12	Ⅲa	8641	104.52	灰黄橙色	良好	石英・角閃石	ナデ	
	297		E-11	Ⅲa	2786	102.76	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	298		C-13	Ⅳ	7761	103.16	暗褐色	良好	石英	ナデ(剥落)	
	299		C-7	Ⅲa	215	89.47	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	H12年度
第	300	底	D-10	Ⅲa	3806	101.58	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ	底ミガキ
	301		C-12	集石内			明赤褐色	良好	角閃石	ナデ	底ミガキ
	302		D-11	Ⅲa	4457	103.25	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	303		C-10	Ⅲa	4052	100.18	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	底ミガキ4077
44	304		B-13	Ⅲa	6610	103.12	赤褐色	良好	石英	ナデ	底ミガキ7522
	305		E-13	Ⅲa	8973	104.08	灰黄褐色	良好	砂粒	ナデ	
	306	部	C-10	Ⅳ	4279	98.86	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ	底ミガキ4327
図	307		C-12	Ⅲa	5384	103.36	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	308		C-11	Ⅳ	5035	102.12	灰褐色	良好	石英	ナデ	底ミガキ
	309		C-13	Ⅲa	6824	103.79	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	310		C-10	Ⅲa	3269	100.74	赤褐色	良好	石英・砂粒	ナデ	
	311		D-13	Ⅲa	6368	104.45	赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
第	312		D-13	Ⅲa	8357	104.31	黄褐色	良好	石英	ナデ	
	313	底	C-14	Ⅲa	10051	103.04	赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	314		F-11	Ⅲa	2648	102.81	赤褐色	良好	石英	ナデ	2753
	315		C-11	Ⅲa	3993	100.76	灰褐色	良好	石英	ナデ	
45	316		C-10	Ⅳ	4317	99.25	灰褐色	良好	石英	ナデ	
	317		D-13	Ⅲa	10956	103.46	明赤褐色	良好	石英・角閃石	ナデ	底ミガキ
	318	部	C-9	Ⅳ	12948	95.68	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
図	319		D-13	Ⅲa	6000	104.62	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	320		D-11	Ⅲa	4690	102.49	灰褐色	良好	砂粒	ナデ	
	321		C-9	Ⅳ	13011	94.93	赤褐色	普通	石英	ナデ	
	322		F-11	Ⅲa	2624	101.07	灰赤褐色	普通	石英	ナデ(粗い)	
	323		B-14	Ⅲa	9765	102.82	赤褐色	良好	石英	ナデ	
第46図	324	底	B-11	Ⅲa	4129	100.12	灰赤褐色	良好	石英	ナデ	
	325	部	B-14	Ⅳ	7873	102.3	明赤褐色	普通	石英	ナデ(剥落)	8227,10473,11674

第11表 縄文土器観察表（8）

挿図	番号	類別	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	内面調整	備　考
第46図	326	底部	D-11	Ⅲa	4548	102.78	灰赤褐色	普通	砂粒	ナデ	
	327		C-11	Ⅲa	4882	102.79	赤褐色	良好	石英	ナデ	底ﾐｶﾞｷ4884,5039
	328		C-13	Ⅲa	6771	104.2	明赤褐色	良好	石英	ナデ	底ミガキ
	329		C-13	Ⅲa	6592	103.87	赤褐色	良好	石英	ナデ	6596,6597,6835
第47図	330	X	E-13	Ⅲa	9253	98.02	暗赤褐色	良好	角閃石	ナデ	
	331		E-14	Ⅲa	9376	101.09	赤褐色	良好	輝石	ナデ	
	332		D-12	Ⅲa	5288	104.9	灰赤褐色	良好	砂粒	ナデ	
	333		D-13	Ⅲa	6301	104.77	灰褐色	良好	石英	条痕	
	334		C-12		集石内		明赤褐色	良好	砂粒	条痕	
	335		G-13	Ⅲa	13092	102.09	暗褐色	良好	石英	ナデ(粗い)	
	336		D-13	Ⅲa	6365	104.49	明褐色	良好	石英	条痕	
	337		E-12	Ⅲa	9075	104.29	明褐色	良好	石英	条痕	
	338		F-11	Ⅲa	2621	101.82	明赤褐色	良好	石英	条痕	
	339	XI	D-12	Ⅲa	5758	104.44	明灰褐色	良好	滑石・輝石	ナデ	
	340		E-11	Ⅲa	2979	103.4	暗赤褐色	良好	滑石	ナデ	
	341		E-11	Ⅲa	2155	103.47	暗赤褐色	良好	滑石	ナデ	
	342		C-11	Ⅲa	4837	103.64	暗赤褐色	良好	滑石	ナデ	
	343		B-10	Ⅲa	3971	99.45	暗赤褐色	良好	滑石	ナデ	4155
第48図	344	XI	F-11	Ⅲa	2735	101.63	灰褐色	良好	角閃石・石英	ナデ	
	345		E-14	Ⅲa	9306	97.72	明灰褐色	良好	滑石	ナデ	
	346		B-12	Ⅲa	12847	102.01	暗赤褐色	良好	石英・輝石	ナデ	
	347	XII	F-11	Ⅲa	929	102.81	赤褐色	良好	石英	ナデ	931,1667
	348		E-10	Ⅲa	1234	101.16	暗褐色	良好	石英	ナデ	1235
	349		E-12	Ⅲa	9314	98.9	赤褐色	良好	石英	ナデ	
	350		F-11	Ⅲa	2638	100.94	暗褐色	普通	石英	ナデ	
	351		F-11	Ⅲa	958	101.22	暗褐色	普通	石英	ナデ	2638
第49図	352	XII	E-11	Ⅲa	2866	103.40	明赤褐色	良好	砂粒	ナデ(粗い)	2867,2870
	353		B-13	Ⅲa	6218	103.4	赤褐色	良好	石英	条痕	
	354		F-11	Ⅲa	3038	101.41	黄褐色	良好	砂粒	条痕	
	355		D-10	Ⅲa	3455	101.02	赤褐色	良好	角閃石	ナデ	
	356		C-10	Ⅲa	3275	99.97	赤褐色	良好	長石	条痕	
	357		D-13	Ⅲa	9328	99.12	赤褐色	良好	輝石	条痕	
	358		C-14	Ⅲa	7633	102.86	黒褐色	良好	砂粒	条痕	
第50図	359	XIV	B-11	Ⅲa	4795	101.82	暗褐色	良好	石英・輝石	条痕	
	360		B-11	Ⅳ	5001	101.82	暗褐色	良好	石英	ナデ	
	361		E-12	Ⅳ	8996	104.05	赤褐色	良好	輝石	条痕	
	362		C-13	Ⅲa	7096	103.19	明褐色	良好	砂粒	条痕	
	363		D-12	Ⅱa	5826	104.43	赤褐色	良好	石英	条痕	
	364		B-11	Ⅲa	4645	101.93	赤褐色	良好	角閃石・輝石・石英	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	4646,4735,4736他
第51図	365	XV	B-12	Ⅲa	5666	103.39	灰褐色	良好	砂粒	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
	366		B-12	Ⅳ	12983	94.08	暗褐色	良好	砂粒	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
	367		C-10	Ⅲa	4086	98.53	黄褐色	普通	砂粒	ナデ	
	368		C-10	Ⅳ	4214	98.23	黄褐色	良好	砂粒	条痕	
	369		C-10	Ⅳ	4216	98.22	黄褐色	良好	砂粒	ナデ	
	370		F-12	Ⅲa	8541	103.13	暗黄褐色	良好	砂粒	ナデ(剥落)	8739

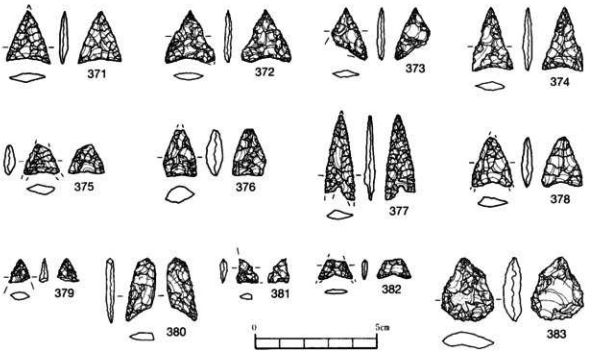
遺物（石器）

Ⅲａ層を中心に出土石鏃，石匙，スクレイパー，加工痕のある剥片，加工痕のある石器，半月石器，溝のある石器，石核（コア），磨製石斧，打製石斧，有肩石斧，石錘，磨石，敲石，石皿等が出土した。また，石材は頁岩，黒曜石，安山岩，石英，砂岩等がみられる。出土状況は第53図のとおりである。遺物の出土がみられない区は傾斜地であり，包含層が削られていたために遺物の出土がなかった。他の地区はほぼ全域に散布して遺物の出土がみられた。

石鏃（第52図371～383）

371～383は石鏃である。石材は頁岩2点（371・378），腰岳産黒曜石3点（372・373・377），上牛鼻産黒曜石4点（375・376・379・381），針尾島産黒曜石1点（382），ハリ質安山岩2点（374・380），石英1点（383）である。

371は頁岩製で基部の抉りは浅い。側縁部は細かく鋸歯状に調整されている。372は腰岳産黒曜石製で基部の抉りは浅い。側縁部がやや膨らむ。373は腰岳産黒曜石製で基部が欠損している。374はハリ質安山岩製で側縁部が細かく鋸歯状に調整されている。抉りは浅く調整されている。375は上牛鼻産黒曜石製で先端部が欠損している。小型で基部の抉りは浅い。全体が調整されている。376は上牛鼻産黒曜石製で先端部及び基部が欠損している。側縁部は鋸歯状に調整されているが断面は分厚く，側面は鋭さに欠ける。377は腰岳産黒曜石製で基部が一部欠損している。側縁部は細かく鋸歯状に調整されている。全体にていねいな調整がなされており，抉りは深い。378は頁岩製で側縁部が鋸歯状に調整されている。抉りは浅い。379は上牛鼻産黒曜石製で，先端部のみである。全体に細かい調整がなされている。380はハリ質安山岩製で，先端部及び側縁部から基部の一部にかけて欠損している。残存する側縁部は鋸歯状に調整されている。



第52図　縄文時代出土石器（1）

381 は上牛鼻産黒曜石製で先端部のみである。382 は針尾島産黒曜石製で先端部が欠損している。残存する側縁部は鋸歯状に細かく調整されている。逆刺が鈍く抉りは浅い。383 は石英で乳白色を呈する。側縁部は粗く鋸歯状に調整されている。極めて分厚い。

石匙（第54図384・385）

384 はハリ質安山岩製の縦型石匙である。つまみ部はよく整形され，側縁部は交互剥離が施されているが，刃部は短く，下縁部の調整等は粗雑である。

385 は上牛鼻産黒曜石製の横型石匙である。横長剥片を用い，打瘤付近の厚みを剥離して成形し，下縁部の片面に剥離を施し，一部には交互剥離がみられる。両側縁部に抉りを意識した調整痕があり，石匙とした。

スクレイパー（第54図386～391）

6点出土している。石材はハリ質安山岩製1点（386），桑ノ木津留産黒曜石製1点（387），上牛鼻産黒曜石製2点（388・391），針尾島産黒曜石製1点（390），瑪瑙製1点（389）である。

386 は安山岩の厚みのある縦長剥片を用い，片側縁部に交互剥離による調整を行ったものである。387 は桑ノ木津留の黒曜石を用いたもので，厚みのある剥片を円形に調整し，側縁部にていねいな調整剥離を施したものである。388 は上牛鼻産黒曜石の厚みのある剥片を用い，腹辺部（主剥離面）から背面にかけてていねいな調整剥離を施したものである。389 は瑪瑙の剥片を用い，側縁部から二か所にていねいな調整剥離を施したものである。390 は針尾島産の黒曜石を用いたエンドスクレイパーである。欠損しているが，角度の高い刃部をもつもので，ていねいなプランティングを施してる。パテナが二時期みられ，興味をそそるところである。391 は上牛鼻産の黒曜石の厚みのある剥片を用いたもので調整剥離により成形している。片側縁部をていねいな交互剥離で刃部を施している。

その他の石器（第54図392～395）

392 は加工痕のある剥片である。上牛鼻産の黒曜石を用いている。背面に剥離痕がみられる。

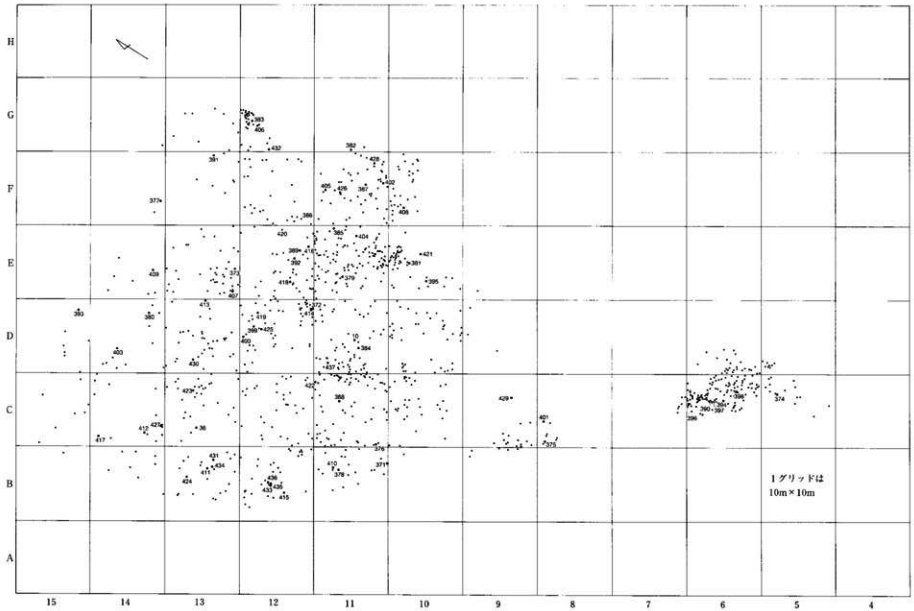
393 は加工痕のある石器である。上牛鼻産の黒曜石を用いている。全面に剥離痕がみられる。

394 は半月形に成形した石器である。腰岳産の黒曜石を用い，側縁部は両側から細かく調整されている。

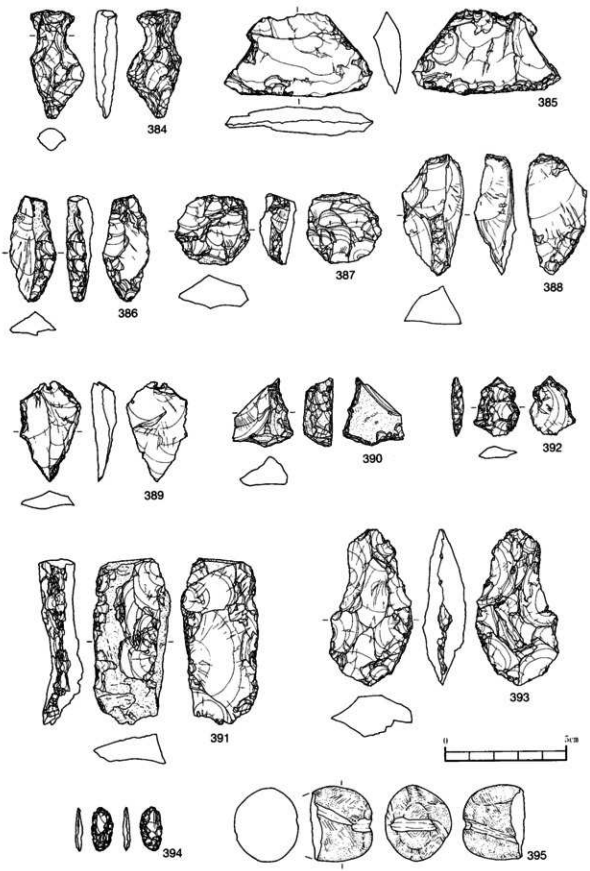
395 は砂岩を用いた溝のある石器である。棒状河原石を研磨により成形し，先端部中央に幅3～4㎜の一条の溝を施し，側縁部にも縦位の溝を有するもので陽根を思わす。石棒の可能性がある。

石核（第55図396～401）

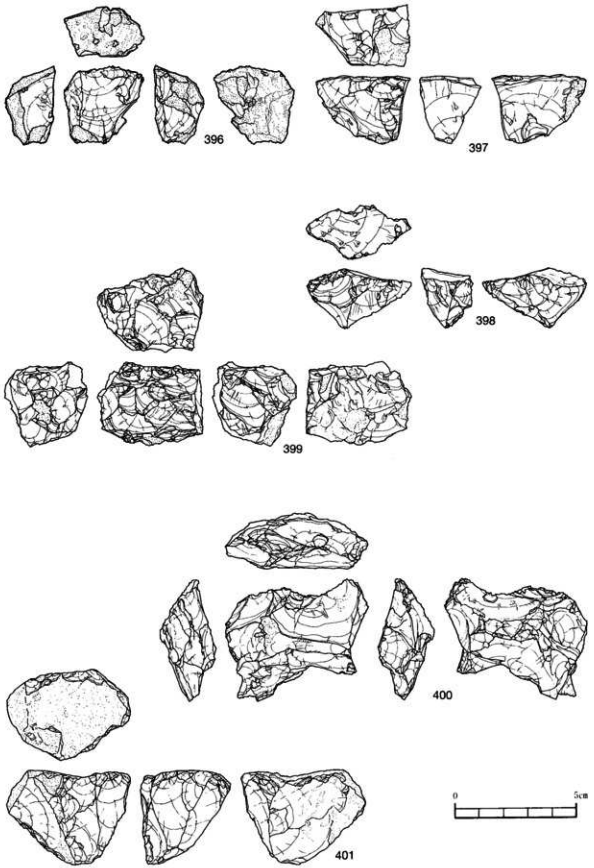
396～401 は石核である。396～399 は上牛鼻産黒曜石製である。400 は灰色の黒曜石を用いている。401 は石英を用いている。



第53図　縄文時代石器出土状況（10・36は旧石器）



第54図　縄文時代出土石器（2）



第55図　縄文時代出土石器（3）

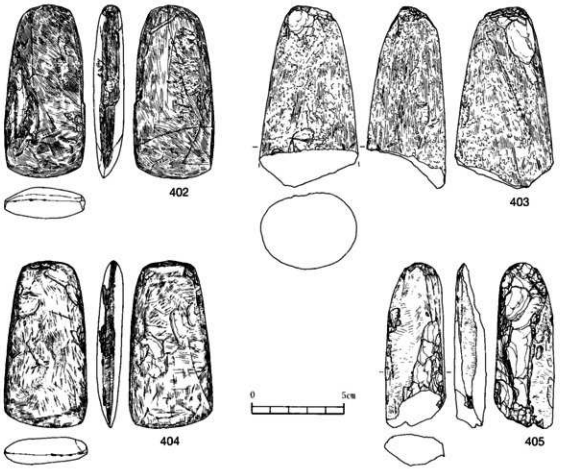
石斧（第56図402～405・第57図406～409）

402～409は石斧である。石材は頁岩5点（402～404・407・408），粘板岩1点（405），砂岩1点（406），安山岩1点（409）である。

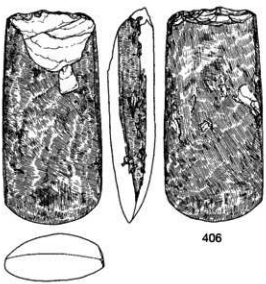
402は頁岩の細長い自然礫を素材とした片刃の定角状磨製石斧である。全面及び側縁部に研磨が施され，特に刃部付近は入念に研磨されている。403は頁岩製の乳棒状磨製石斧である。細長く丸みのある自然礫を素材としている。やや粗い研磨を全体に施している。刃部は欠け基部のみである。404は402同様の石斧である。細長い板状の自然礫を素材とし，全体に研磨を施している。刃部付近の研磨は入念である。405は粘板岩製の磨製石斧である。全体に研磨が施され刃部は欠損している。406は砂岩製の片刃の定角状磨製石斧である。全体に入念な研磨が施されている。基部は欠損し，刃部は片刃である。407は形態より石斧にいれたが，刃部がなく一側縁部の交互剥離より，大形のスクレイパーの可能性がある。408は頁岩製の有肩石斧である。研磨により成形している。刃部は欠損している。409は安山岩製の有肩石斧である。片面に研磨がみられる。刃部は使用痕が明確にみられる。基部は欠損している。

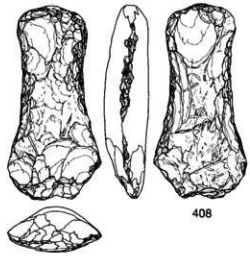
石錘（第57図410・411）

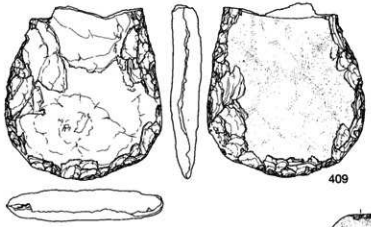
410は安山岩製，411は砂岩製の石錘である。ともに長軸方向の両端を敲打して凹部を施したものである。全周は研磨されていて，敲石の可能性もある。

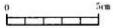


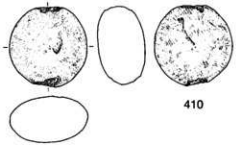
第56図　縄文時代出土石器（4）

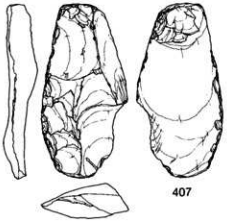


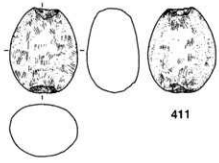












第57図　縄文時代出土石器（5）

磨石・敲石（第58図412～415・第59図416～422・第60図423～431）

412～429 は磨石である。石材は安山岩 9 点（412～414・416・418～420・422・429），砂岩 9 点（415・417・421・423～428）である。

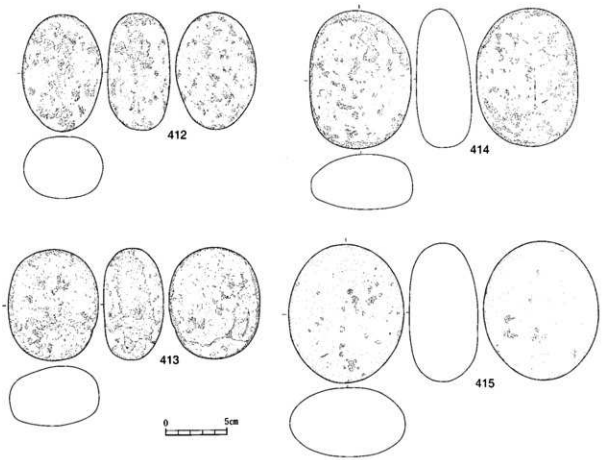
427は 磨面の他に，両面に凹面を持つものである。

430・431 は敲石である。430 は安山岩，431 は砂岩製である。

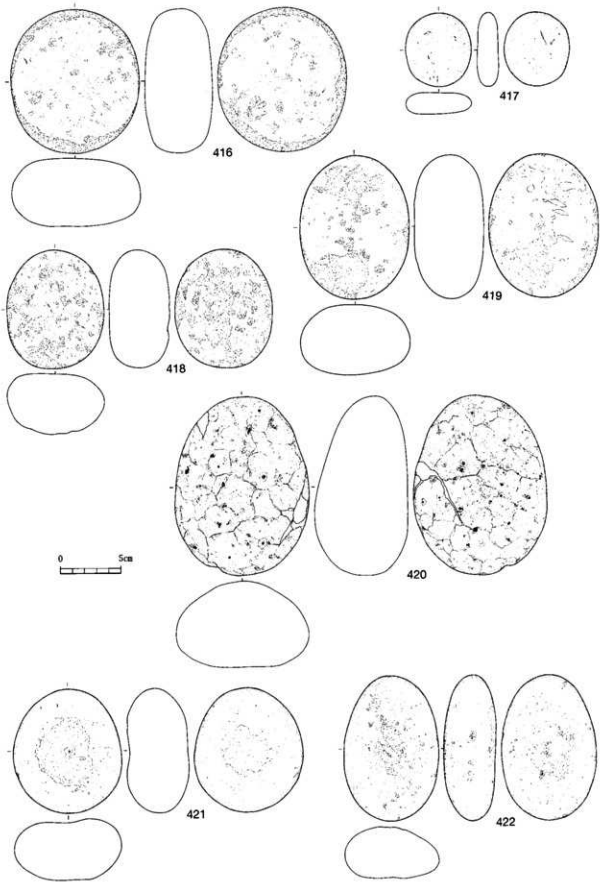
430 は両端部に敲打痕がみられる。下端は敲打により生じたと思われる剥離及び亀裂が観察される。431 は一端に敲打痕がみられるが，下半が欠損している。

石皿（第61図432～434・第62図435～437）

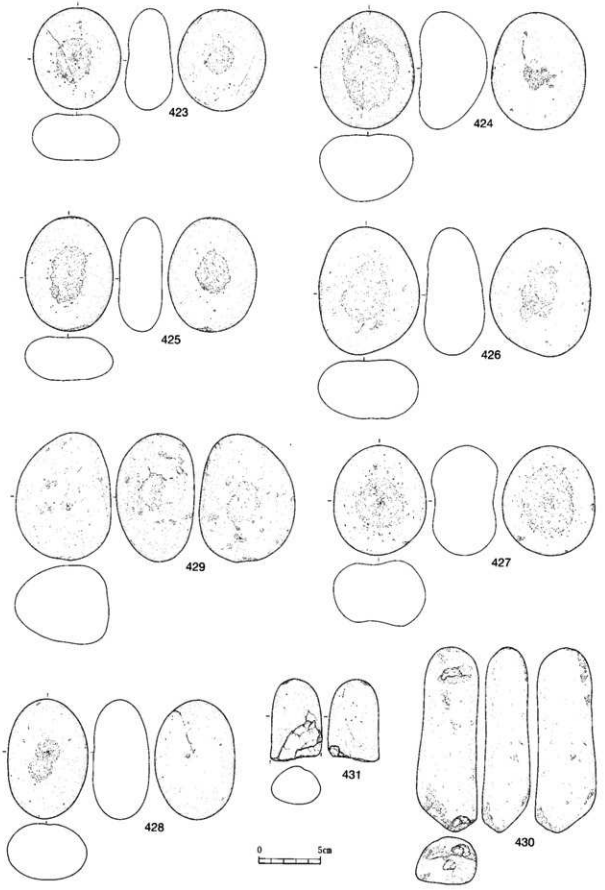
432～437 は石皿である。石材は砂岩 5 点（432・434～437），安山岩 1 点（433）である。432 は砂岩製で，片面を使用している。使用による顕著な凹みは観察されず平坦である。欠損しており，全体の大きさは不明である。433 は安山岩製で，片面を使用している。使用面は平坦である。434 は砂岩製で，片面を使用している。使用面は凹みが観察され，注ぎ口が観察される。裏面は研磨により成形されている。435 は砂岩製で，片面のみを使用している。使用面は平坦であり，凹み等はみられない。436 は砂岩製で，片面のみを使用している。礫の面の一部を使用しており，僅かに凹みが観察される。437 は砂岩製で両面を使用している。片面には注ぎ口が観察される。



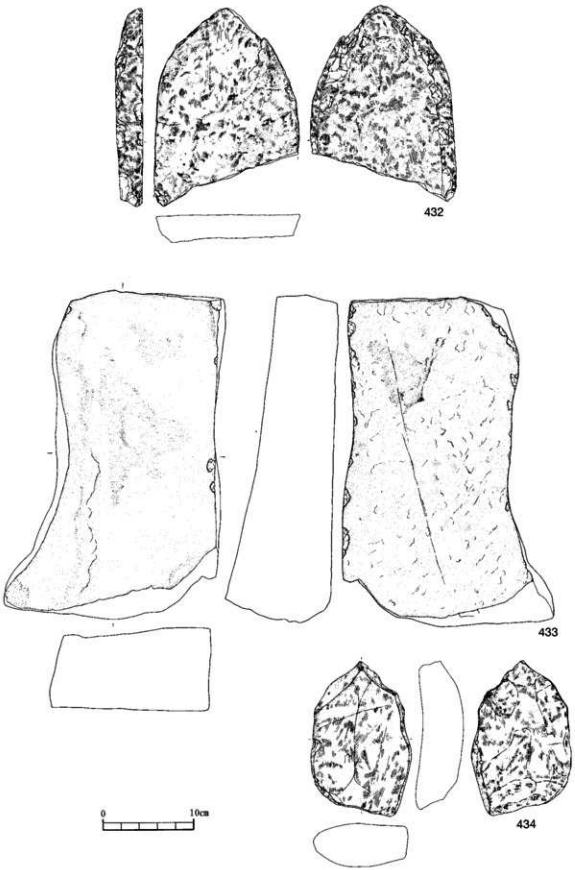
第58図　縄文時代出土石器（6）



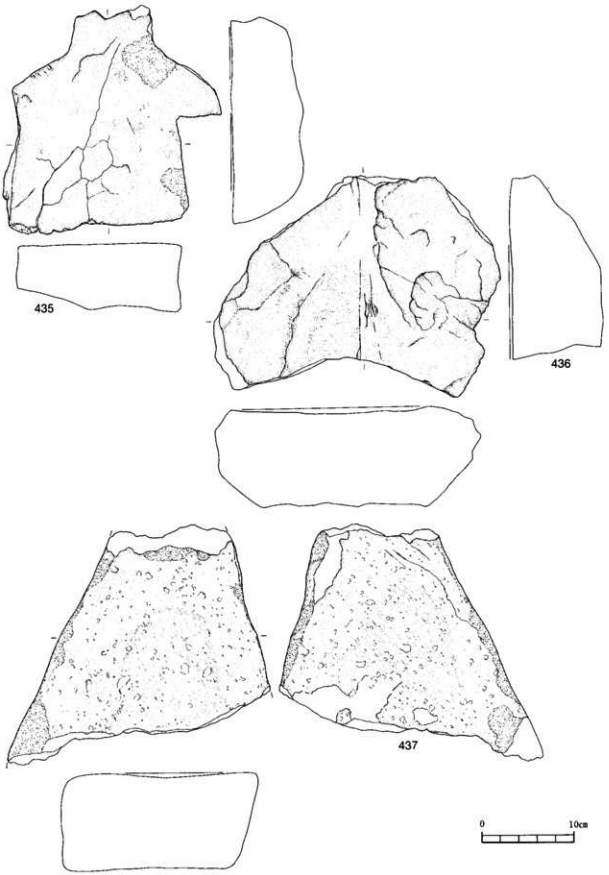
第59図　縄文時代出土石器（7）



第60図　縄文時代出土石器（8）



第61図　縄文時代出土石器（9）



第62図　縄文時代出土石器（10）

第12表 縄文石器分類表 (1)

挿図	番号	器種	石材	出土区	層	遺物番号	標高(m)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
第52図	371	石鏃	頁岩	B-11	Ⅳ	4261	99.47	2.2	1.8	0.4	0.8	
	372	石鏃	黒曜石 腰岳	D-12	Ⅲa	5830	104.10	2.2	2.0	0.3	0.9	
	373	石鏃	黒曜石 腰岳	E-13	Ⅲa	8514	104.60	2.2	1.5	0.3	0.5	
	374	石鏃	ハリ質安山岩	C-5	Ⅲa	372	88.01	2.7	1.7	0.4	1.1	H12年度
	375	石鏃	黒曜石 上牛鼻	C-8	Ⅱ	12448	94.9	1.5	1.2	0.4	0.6	
	376	石鏃	黒曜石 上牛鼻	C-11	Ⅲa	3902	100.84	1.9	1.4	0.7	1.5	
	377	石鏃	黒曜石 腰岳	F-14	Ⅲa	9500	102.06	3.5	1.3	0.4	1.1	
	378	石鏃	頁岩	B-11	Ⅲa	4866	101.79	2.1	1.7	0.4	1.9	
	379	石鏃	黒曜石 上牛鼻	E-11	Ⅲa	2778	103.42	1.0	0.9	0.3	0.2	
	380	石鏃	ハリ質安山岩	D-14	Ⅲa	10564	102.56	2.7	1.1	0.3	1.1	
	381	石鏃	黒曜石 上牛鼻	E-10	Ⅲa	2890	101.49	1.0	0.9	0.3	0.2	
	382	石鏃	黒曜石 針尾島	G-11	Ⅲa	2671	100.93	1.4	0.8	0.2	0.2	
	383	石鏃	石英	G-12	Ⅲa	13081	102.13	2.6	2.2	0.7	3.7	
第54図	384	石匙	ハリ質安山岩	D-11	Ⅲa	4453	103.12	4.5	2.2	0.9	8.4	
	385	石匙	黒曜石 上牛鼻	E-11	Ⅲa	1566	103.01	6.2	3.5	1.2	21.1	
	386	スクレイパー	ハリ質安山岩	F-12	Ⅲa	8747	103.59	4.4	1.9	1.0	7.7	
	387	スクレイパー	黒曜石 桑ノ木津留	F-11	Ⅲa	2811	101.08	3.1	2.9	1.4	10.6	
	388	スクレイパー	黒曜石 上牛鼻	C-11	Ⅲa	4877	102.23	5.0	2.5	1.6	17.5	
	389	スクレイパー	瑪瑙	E-12	Ⅲa	8595	104.10	4.1	2.5	0.7	7.7	
	390	スクレイパー	黒曜石 針尾島	C-6	Ⅲa	402	88.79	2.8	2.5	1.2	6.2	H12年度
	391	スクレイパー	黒曜石 上牛鼻	F-13	Ⅲa	9672	102.37	6.9	3.2	1.2	34.9	
	392	加工痕のある剥片	黒曜石 上牛鼻	E-12	Ⅲa	8903	104.28	2.5	1.9	0.5	2.2	
	393	加工痕のある石器	黒曜石 上牛鼻	D-15	Ⅲa	12757	99.21	6.5	3.4	1.7	27.3	
	394	半月形石器	黒曜石 腰岳	C-6	Ⅲa	133	89.35	1.8	0.9	0.3	0.4	H12年度
	395	溝のある石器	砂岩	E-10	Ⅲa	12917	100.92	3.1	2.6	2.7	27.3	石棒?
第55図	396	石核(コア)	黒曜石 上牛鼻	D-5	Ⅳ	385	89.45	3.3	3.2	2.0	19.9	H12年度
	397	石核(コア)	黒曜石 上牛鼻	C-6	Ⅲa	122	89.55	3.9	2.8	2.6	24.1	H12年度
	398	石核(コア)	黒曜石 上牛鼻	C-6	Ⅲa	276	88.64	4.3	2.5	2.1	13.9	H12年度
	399	石核(コア)	黒曜石 上牛鼻	D-12	Ⅲa	5730	104.61	4.4	3.4	3.4	52.5	
	400	石核(コア)	黒曜石 灰色	D-13	Ⅲa	5900	104.51	5.9	5.0	2.2	52.0	
	401	石核(コア)	石英	C-8	Ⅱ	12260	95.03	5.2	3.9	3.7	59.3	
第56図	402	磨製石斧	頁岩	F-11	Ⅲa	2247	100.96	9.5	4.4	1.7	101.2	
	403	磨製石斧	頁岩	D-14	Ⅲa	11712	101.28	9.9	5.4	4.3	250.0	
	404	磨製石斧	頁岩	E-11	Ⅲa	1512	102.77	9.1	4.5	1.5	89.2	
	405	磨製石斧	粘板岩	F-11	Ⅲa	1344	102.57	9.0	3.3	1.7	63.5	
第57図	406	磨製石斧	砂岩	G-12	Ⅲa	13074	102.0	11.8	5.3	2.6	262.0	
	407	打製石斧	頁岩	E-13	Ⅲa	8834	104.68	9.5	4.7	1.9	65.2	
	408	有肩石斧	頁岩	F-10	Ⅲa	2948	100.72	10.6	5.1	2.4	143.9	
	409	有肩石斧	安山岩	E-14	Ⅲa	9284	97.49	9.5	8.6	1.7	153.65	
	410	石錘	安山岩	B-11	Ⅲa	4924	101.77	4.4	4.3	2.5	68.2	
	411	石錘	砂岩	B-13	Ⅲa	6209	103.68	4.7	3.8	2.9	73.3	

第13表　縄文石器分類表（2）

挿図	番号	器種	石材	出土区	層	遺物番号	標高(m)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
第58図	412	磨石	安山岩	C-12	Ⅲa	9942	102.74	9.5	6.5	5.1	424.0	
	413	磨石	安山岩	D-13	Ⅲa	9338	104.22	9.0	6.9	4.9	479.0	
	414	磨石	安山岩	D-12	Ⅲa	5829	104.35	11.2	8.2	4.5	600.0	
	415	磨石	砂岩	B-12	Ⅲa	5800	102.55	11.2	9.3	5.6	850.0	
第59図	416	磨石	安山岩	E-12	Ⅲa	8594	103.91	11.7	10.5	5.5	1075.0	
	417	磨石	砂岩	C-14	Ⅲa	11511	101.55	6.0	5.4	1.8	92.1	
	418	磨石	安山岩	E-12	Ⅲa	8603	104.63	9.6	8.0	5.0	452.0	
	419	磨石	安山岩	D-12	Ⅲa	5518	101.5	11.6	8.9	5.7	911.0	
	420	磨石	安山岩	E-12	Ⅲa	9147	103.55	14.6	10.9	7.6	1379.0	
	421	磨石	砂岩	E-10	Ⅲa	1257	101.14	10.0	8.9	5.1	660.0	
	422	磨石	安山岩	C-11	Ⅲa	5687	103.70	11.8	7.7	4.3	564.0	
第60図	423	磨石	砂岩	C-13	Ⅲa	7828	103.98	8.3	7.2	3.7	329.0	
	424	磨石	砂岩	B-13	Ⅲa	6864	103.28	9.6	7.6	5.5	560.0	
	425	磨石	砂岩	D-12	Ⅲa	5636	101.54	9.2	7.2	3.6	350.0	
	426	磨石	砂岩	F-11	Ⅲa	1660	102.39	10.4	8.2	4.9	590.0	
	427	磨石	砂岩	C-14	Ⅲa	7097	103.08	8.9	7.5	5.4	219.0	
	428	磨石	砂岩	F-11	Ⅲa	1155	101.02	9.7	6.6	4.6	429.0	
	429	磨石	安山岩	C-9	Ⅱ	12012	95.27	10.0	7.8	6.4	764.0	
	430	敲石	安山岩	B-13	Ⅲa	8275	103.31	15.0	4.9	3.9	420.0	
	431	敲石	砂岩	B-13	Ⅲa	6199	103.78	6.7	4.2	3.1	110.2	
第61図	432	石皿	砂岩	G-12	Ⅲa	9131	102.58	21.4	16.0	2.9	130.9	
	433	石皿	安山岩	B-12	Ⅲa	5804	102.63	36.2	23.3	11.4	13000.0	
	434	石皿	砂岩	B-13	Ⅲa	6210	103.76	16.8	11.0	4.7	1090.0	
第62図	435	石皿	砂岩	B-12	Ⅲa	5669	103.88	25.1	23.9	7.9	5000.0	
	436	石皿	砂岩	B-12	Ⅲa	5805	102.58	31.4	24.0	10.8	10500.0	
	437	石皿	砂岩	D-11	Ⅲa	5184	104.57	28.9	25.8	10.5	10000.0	

第４節 弥生時代～古墳時代の遺物

この時期のものには土器・石器がある。出土状況は第63図のとおりである。遺物の出土がみられない区は傾斜地であり，包含層が削られていたため遺物の出土がなかった。その他の地区はほぼ全域に散布して遺物の出土がみられるが，Ｃ－13区及びＦ－11区を中心とした地点に集中して遺物の出土がみられる。特にＣ－13区を中心にした地点は遺物の出土がひじょうに密であるが，住居跡等の遺構が検出されていないので，詳細は不明である。

１ 土器

土器は甕形土器，壷形土器，鉢形土器，高坏形土器，坩形土器，手捏ね土器に分類し，総数9,710点の中から184点を図示した。

１）甕形土器

甕形土器は口縁部がくの字状に外反するもの（Ⅰ類：第67図438～第70図462），口縁部がくの字状に外反し頸部に突帯が貼り付けられるもの（Ⅱ類：第71図463～472），口縁部がまっすぐ立ち上がり胴部に突帯が貼り付けられるもの（Ⅲ類：第71図473～475・第72図476～484），口縁部が内反して胴部に突帯が貼り付けられるもの（Ⅳ類：第73図485～489・第74図490～495），口縁部がくの字状に強く外反し丸底となるもの（Ⅴ類：第75図496～500）の５種に大別できる。

（１） Ⅰ類（第67図438～第70図462）

Ⅰ類は，口縁部外面を縦方向のハケナデで仕上げ胴部との間に段をもつもの（Ⅰａ類）と，ハケあるいはヘラナデで仕上げるもの（Ⅰｂ類）とがある。さらにそれぞれ口縁部直径が肩部より広いものと，逆に狭いものとに分けることができる。また，頸部外面及び頸部内面の稜線が明瞭なものと，はっきりしないものとがある。

①Ⅰａ類（第67図438～447・第68図448～452）

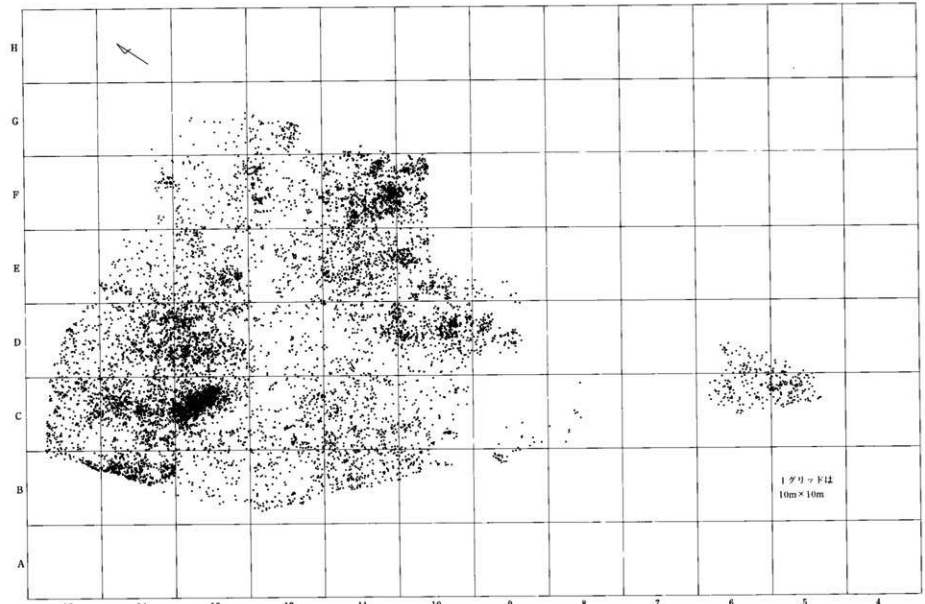
Ⅰａ類の口縁部は外面が下から上への縦方向のハケナデ，内面が横方向のハケナデで仕上げる。口縁が強く外反するものと，直に近く立ち上がるものとがある。

442は整形が雑である。444は石粒の多い土を用い，薄く仕上げている。448は口縁部直径が19cm，高さ24.6cm，脚部直径が８cmある。口縁部は短くやや強く折れている。肩部に最大径があり丸みを帯びた器形を呈する。451は口縁直径14.5cmと小型で，内面はケズリに近い粗い縦方向のヘラナデである。

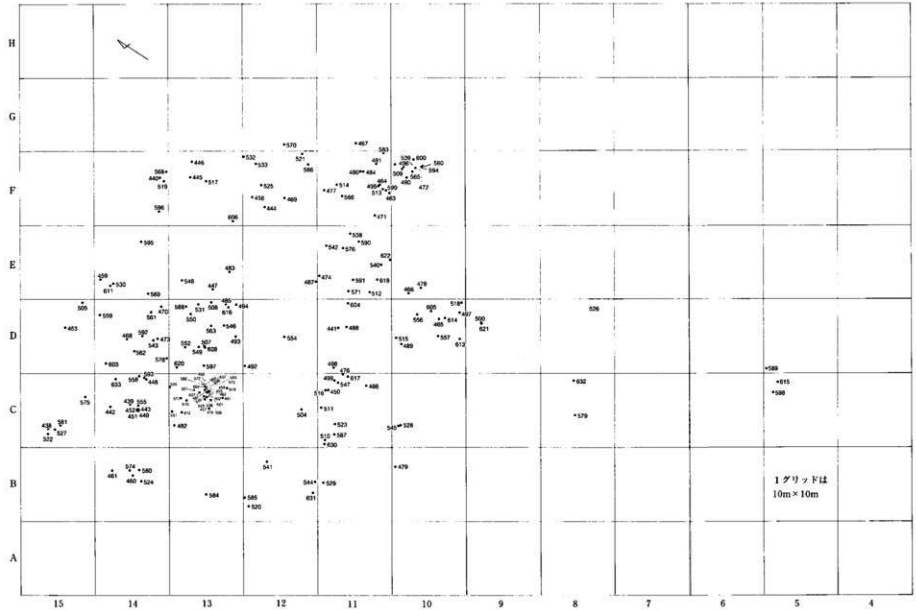
②Ⅰｂ類（第69図453～458・第70図459～462）

Ⅰｂ類は口縁部と胴部の整形がつながっている。これにも強く外反するものと，直に近く立ち上がるものがある。

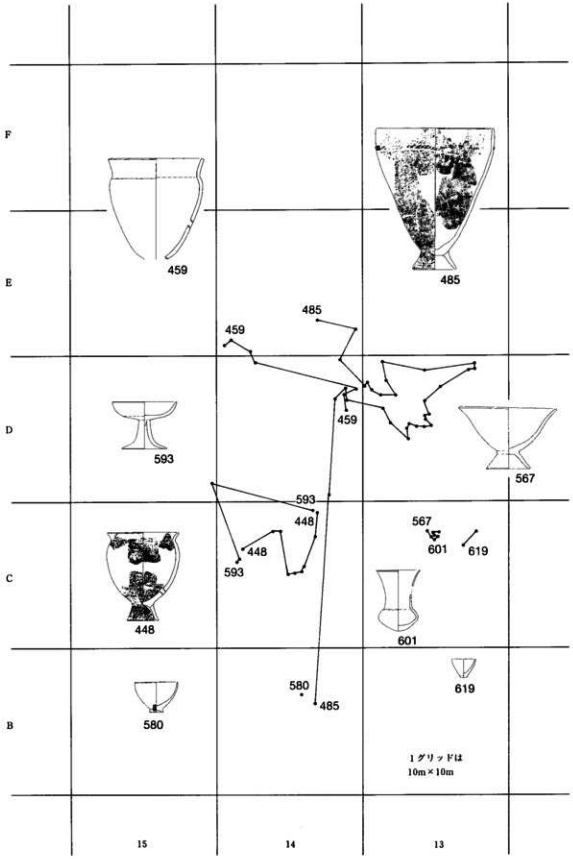
453はヘラナデだけであるが，外面の頸部より上は方向を変えている。456は口縁部直径が24.5cm，高さが24cm以上あり，頸部から肩部にまっすぐ移りそのまま外に張らず底部へ至る。整形は粗いが，薄く仕上げている。石粒の多い土である。458の外面は横方向のヘラナデである。



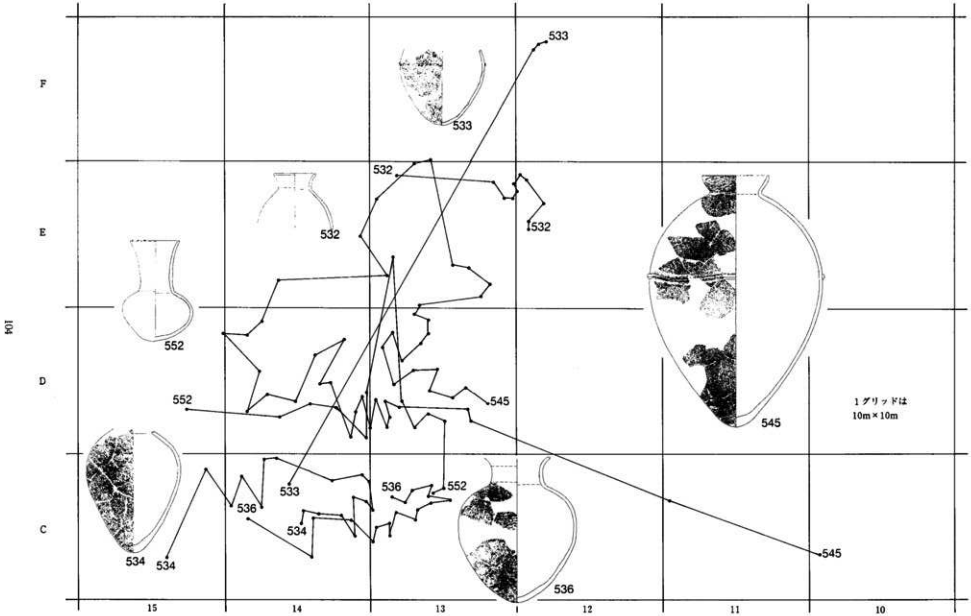
第63図　弥生～古墳時代土器出土状況



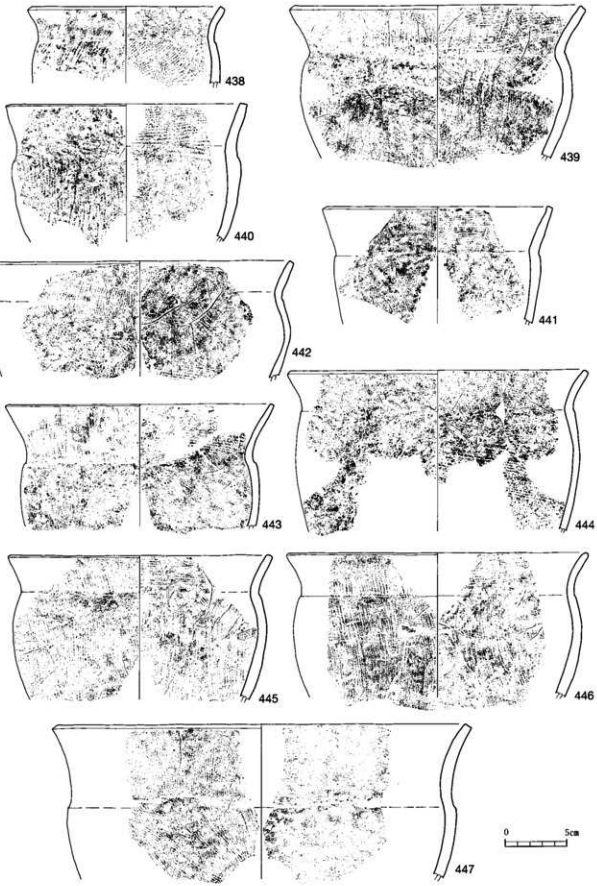
第64図　弥生～古墳時代土器出土状況（掲載分）


F
E
D
C
B
459
485
459
485
459
593
567
593
448
567
601
619
448
593
448
601
580
485
619
580
1グリッドは
10m×10m
15
14
13

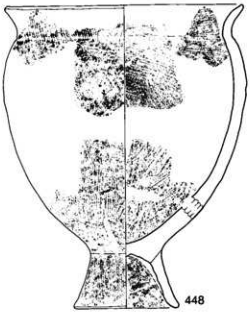
第65図　土器接合図（1）

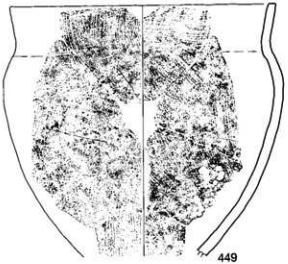

F
E
D
C
15
14
13
12
11
10
104
533
533
532
532
532
552
552
545
545
533
536
536
534
534
534
536
552
1グリッドは
10m×10m

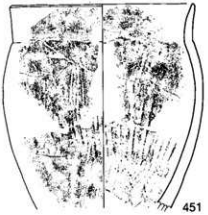
第66図　土器接合図（2）

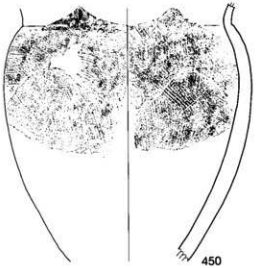


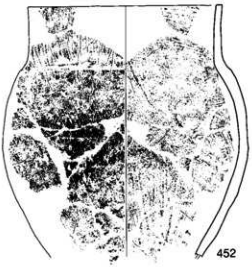
第67図　甕形土器（1）


448


449

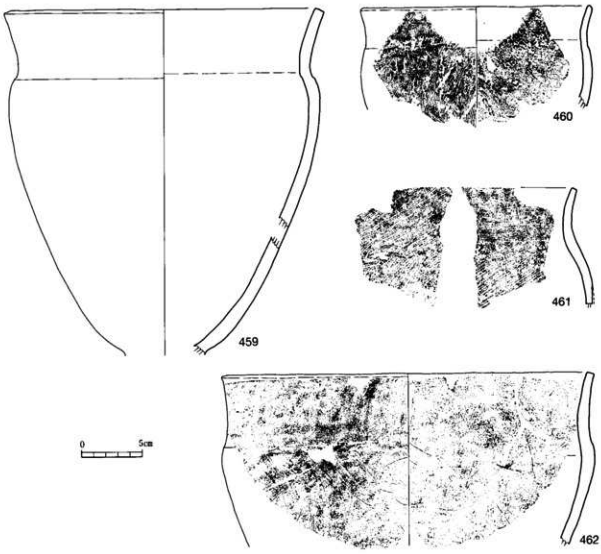

451


450


452

第68図　壺形土器（2）

第69図　甕形土器（3）



第70図　甕形土器（4）

（2）　Ⅱ類（第71図463～472）

Ⅱ類はゆるく外反するものが多く，口縁部の直径は20cm～25cmである。貼り付け突帯の断面形は三角形・半円形などがあり，その上に左下がりのヘラ切り，ヘラ押しなどが見られる。

第71図463，464の突帯から下はハケにより外面調整がなされている。この施文具と同様なもので突帯に刻み目を施している。突帯から上，内面はヘラナデである。465の口唇部は丸みを帯び，尖り気味に作り出されている。突帯にはヘラによる刻み目が施されている。466は板による刻み目を施した突帯を有する。467は布目圧痕による刻み目を施した突帯を有する。外面は灰褐色，内面は橙色と色調が異なる。こうした色調変化は自然に生じたものとは考えにくく，強く熱を受けるなどなんらかの人為的要因を受けているものと思われる。外面はハケによる調整，内面はヘラナデによる調整がされている。468，469は板状の施文具による刻み目を施した突帯を有する。口唇部は尖り気味に作り出されている。470は太いヘラ押しによる刻み目を施した突帯を

有する。突帯の下は縦方向のハケナデで仕上げている。471は器面調整に用いたものと同一の工具で，連続して斜めに刻み目を施している。工具痕が器体まで記されている。472も471と同様な方法で刻み目を施した突帯を有する。

（3） Ⅲ類（第71図473～475・第72図476～484）

Ⅲ類もⅡ類と同じような突帯がみられる。口縁部直径は19cm～32cmあり，高さが20cm以上ある。

473は板状の施文具により刻み目を施した突帯を有する。474は断面が三角形となる貼り付け突帯を有する。明瞭な刻み目はないが上下からつまみ上げている。475は無刻みの断面が三角形となる貼り付け突帯を有する。外面はハケ目，内面はヘラナデによる調整が見られる。

476，477，478，479は突帯にハケナデ調整に用いたものと同一の工具による連続した斜めの刻み目を有する。調整は内外面ともにハケナデによりなされている。477は小石を多く含み，剥落のため内面調整は不明である。476，478は外面に煤が付着している。480は幅が広く，低い突帯を有する。481の突帯は刻み目は粗いが，やはりハケナデ調整と同様な工具が用いられている。482，483，484の突帯も同様にハケナデ調整と同一な工具が用いられている。482の外面は縦方向のハケナデ，内面はハケ・ヘラナデによりていねいに調整がなされている。

（4） Ⅳ類（第73図485～489・第74図490～495）

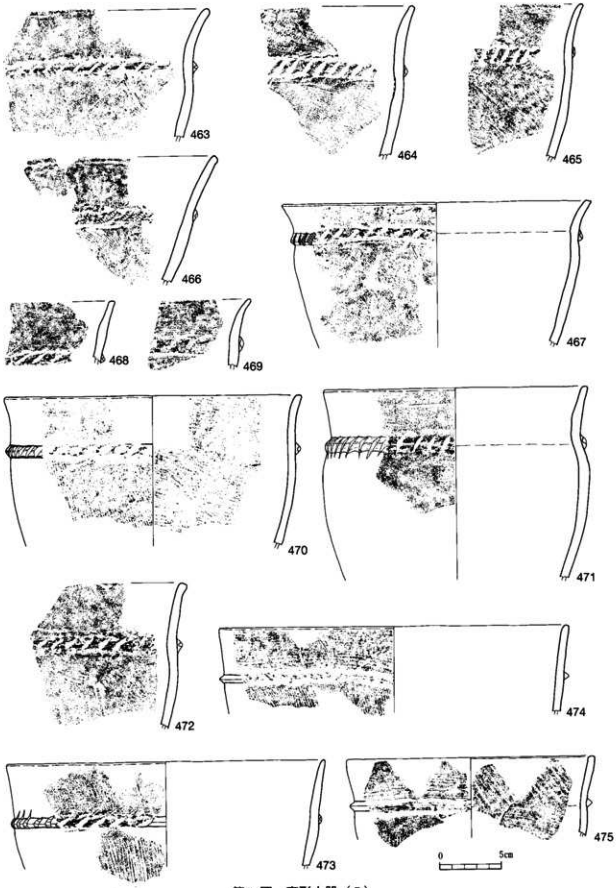
Ⅳ類もⅡ・Ⅲ類と同じような貼り付け突帯である。

485は口縁部直径32cm，高さ38cm，脚台直径11.3cmと大型であるが，脚台は低い。内・外面ともにハケナデである。486も口縁部直径27cm，高さ34cm以上と大きい。487は内外ともハケナデで調整のあと幅の広い突帯が付く。490は口縁直径29.8cm，高さ34.3cm，脚台直径9.5cmと大型で，内外ともハケナデで仕上げている。491は端部が強く内反し，薄くなるもので，三角突帯が付けられる。493は輪積み接合部に三角突帯が付され，内外ともハケナデである。494は赤みを帯びた色を呈し，端部は丸く内反する。495はやや幅広の突帯が付され，細目のヘラ押しが見られる。ヘラナデで仕上げている。口縁直径は493が24cm，494が19cm，495が24.4cmである。

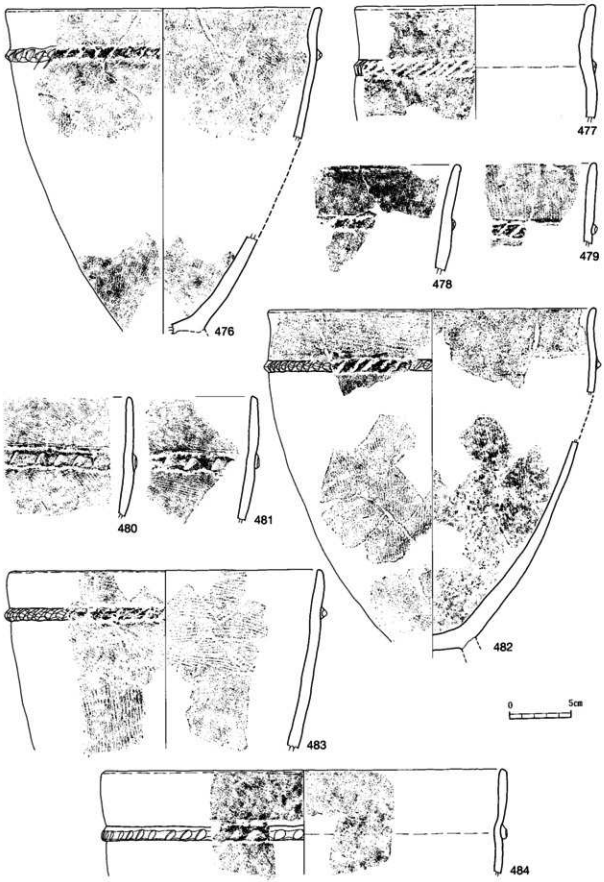
（5） Ⅴ類（第75図496～500）

Ⅴ類の口縁部はゆるやかに外反するもの（496，497），袋状気味になるもの（498），外へまっすぐ伸びるもの（500）がある。口縁直径は14cm～19.8cmである。

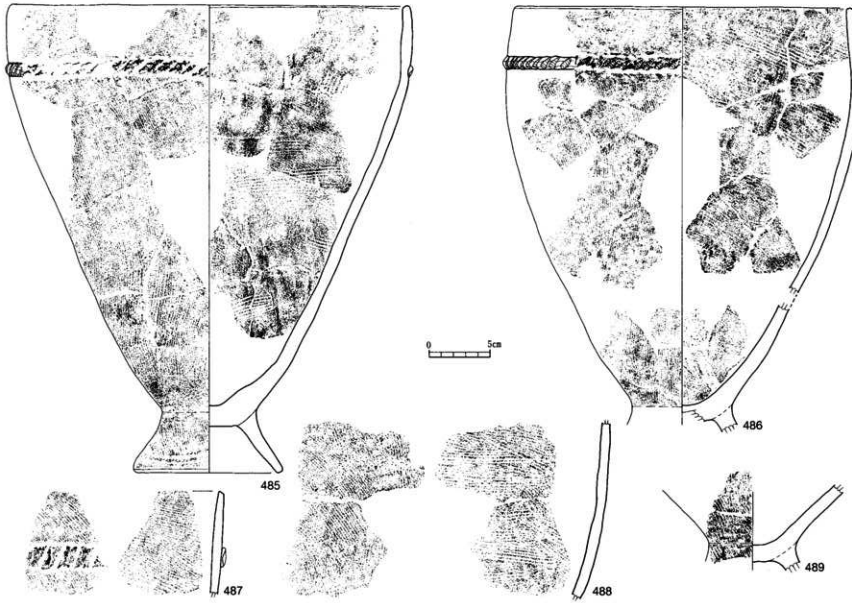
496の内側は指押しのため頸の稜がはっきりしている。497は外がハケナデ，内がヘラナデでていねいに仕上げている。498，499の外は細かいハケナデ，内はていねいなヘラナデである。500は内面がヘラケズリ風で薄く仕上げている。外はていねいなヘラナデである。



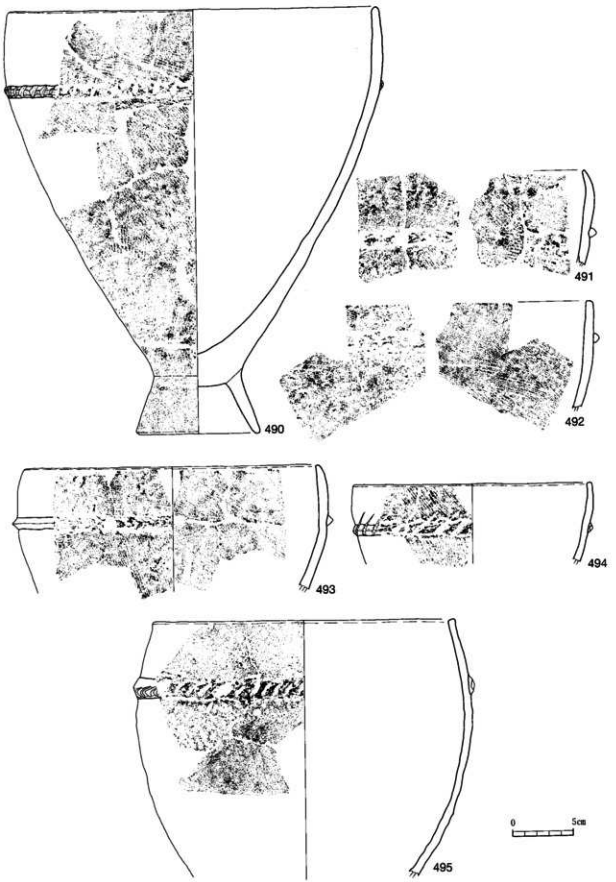
第71図　甕形土器（5）



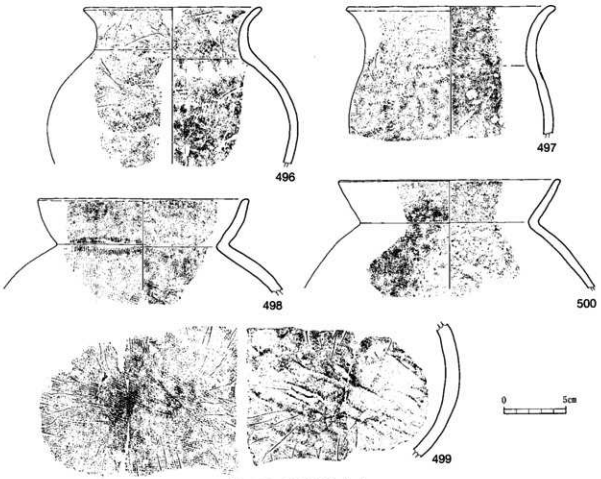
第72図　甕形土器（6）



第73図　甕形土器（7）



第74図　甕形土器（8）



第75図　甕形土器（9）

（6）脚部（第76図501～514・第77図515～531）

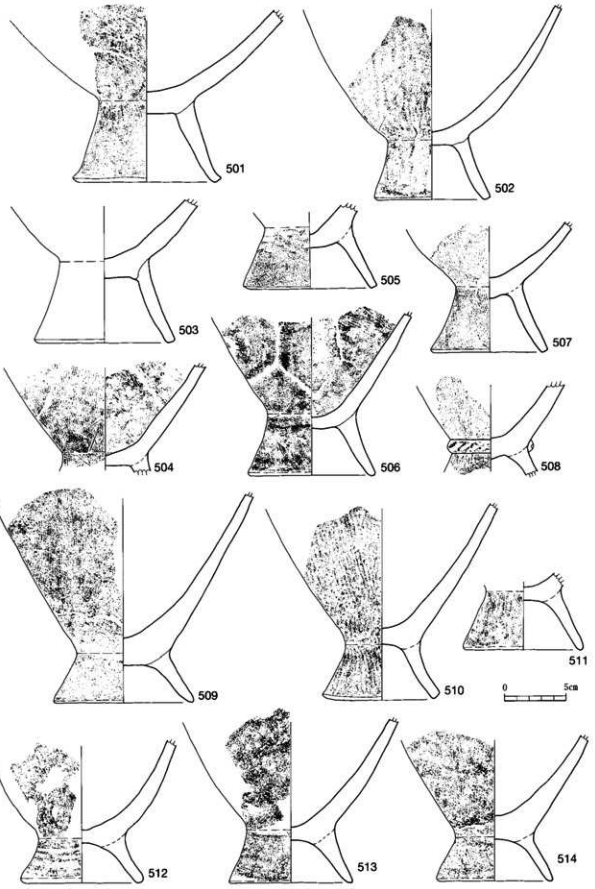
第76図501～514

甕はV類を除いていずれも脚台が付く。高めのもの（501～503など），低めのもの（505，509など）がある。508は胴部との貼り付け部に板目の付された断面三角形の突帯が付く。甕の底部が安定した平底のもの（501～505，530，531など）と，丸みを帯びており脚台と接合後にいっしょにナデで仕上げるもの（518～521，527など）とがある。519は甕に脚台をまきつけるように接合した後，接合部に内側から粘土を貼りつけている。

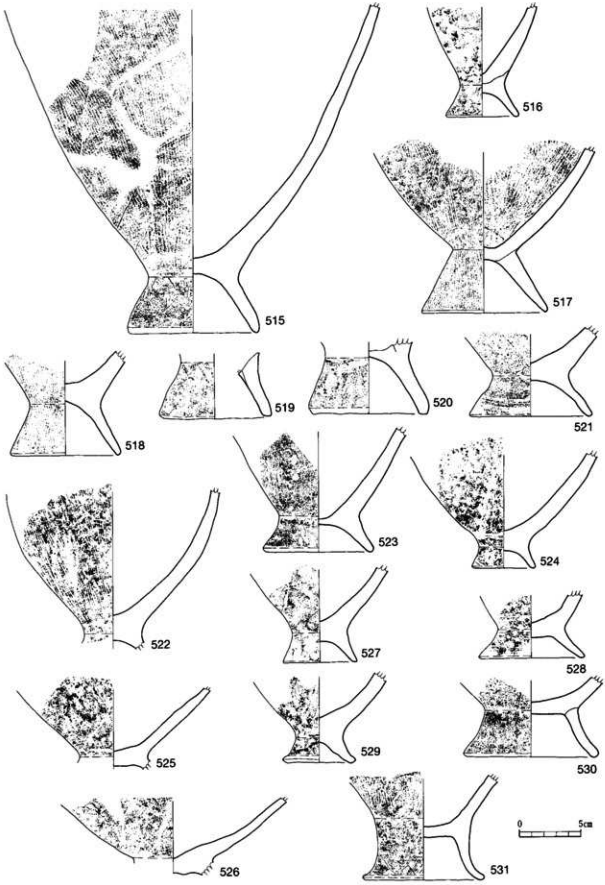
501～514は甕の底部片である。501，503，504，505，507，509，511，512，513は脚部内部にハケ目による調整のあとが見られる。その他の脚内部はヘラナデにより調整されている。

第77図515～531

515～531は甕の脚部片である。515，517，518，520，521，523，530は脚部内部にハケ目による調整のあとが見られる。516，519，524，527，528，529，531はナデにより調整がなされている。530，531の脚部の裾は外にむかって広がる。



第76図　甕形土器　脚部（1）



第77図　壺形土器　脚部（2）

2）壺形土器

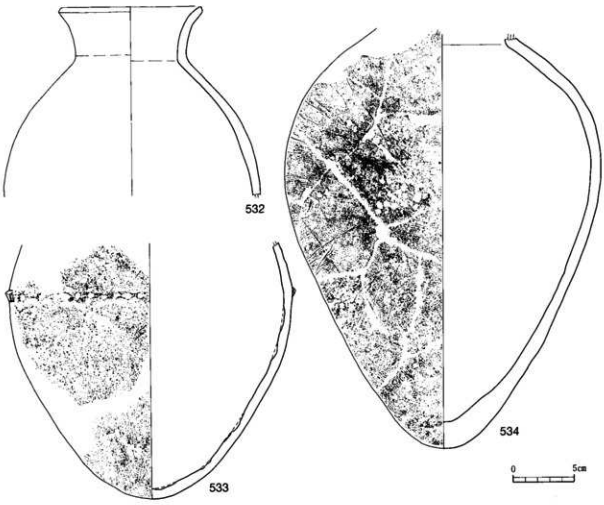
壺形土器は口縁部が外反し丸底のもの（Ⅰ類：第78図532～534・第79図535～536・第80図537），突帯を有するもの（Ⅱ類：第81図538～544），口縁部が袋状となるもの（Ⅲ類：第82図545・第83図546～550），胴が広い形のもの（第84図551），長頸壺（第84図552），広口壺（第84図553，554），小型無頸壺（第84図555）に分けられる。

（1）Ⅰ類（第78図532～534・第79図535～536・第80図537）

Ⅰ類は胴部が無文のもの（a類：第78図532～534）と，肩部付近に横沈線と縦方向の短綾線が見られるもの（b類：第79図535～536・第80図537）とがある。532，533，535，536のようにやや薄手のつくりで胴部中央付近に最大径があるものと，534のように長胴形のものがある。

①Ⅰa類（第78図532～534）

532は直径11.2cmの口縁部からなで肩で胴部へ下る。口縁端部は内側へ屈曲し平坦面をもつ。外面は縦方向のハケナデによる調整の痕が薄くみられる。533は長胴形を呈し，胴中央部に最大径があり丸底である。胴部最大径付近にヘラ刻みを施した三角突帯が巡る。外面・内面ともに剥



第78図　壺形土器（1）

落が目立つが，内外面ともハケナデによる調整痕がみられる。胎土は砂粒を多く含む。534は肩に最大径がある長胴形の尖底壷である。外面はハケナデ調整がされている。最大径付近に黒斑がみられる。

②Ⅰb類（第79図535～536・第80図537）

535は頸部から外へ開きながらまっすぐ立ち上がり，口縁部が外反する。なで肩で胴部へ下り，尖り気味の丸底へ至る。胴部最大径付近に4条の櫛状施文具による横位の沈線を施し，さらに間隔をおいて短い4本の縦方向沈線を施している。底部は厚みがある。底部近くに黒斑が見られる。536は頸部から直立気味に立ち上がり，頸部から口縁部へ外反する。胴部最大径のやや上位に繊維状のハケによる横位の沈線と短い縦位の沈線を施している。535，536とも口縁端を欠き，胴部最大径は535が32.7㎝，536が32㎝である。内面は剥落が目立ち，外面はヘラナデで仕上げている。537は胴部最大径のやや上位にあたる肩部に櫛状の施文具による3条の横位の沈線を施し，その上に短く左下がりの4本の沈線を斜め方向に施している。底部は尖底に近い丸底を呈する。底部近くに黒斑が見られる。外面はハケナデであるが，底部付近のみヘラナデで仕上げている。7㎜大ほどの茶色石を含む粗い土を用い，内面剥脱が目立つ。537下の図は沈線部分のみを取り出したものである。

（2） Ⅱ類（第81図538～544）

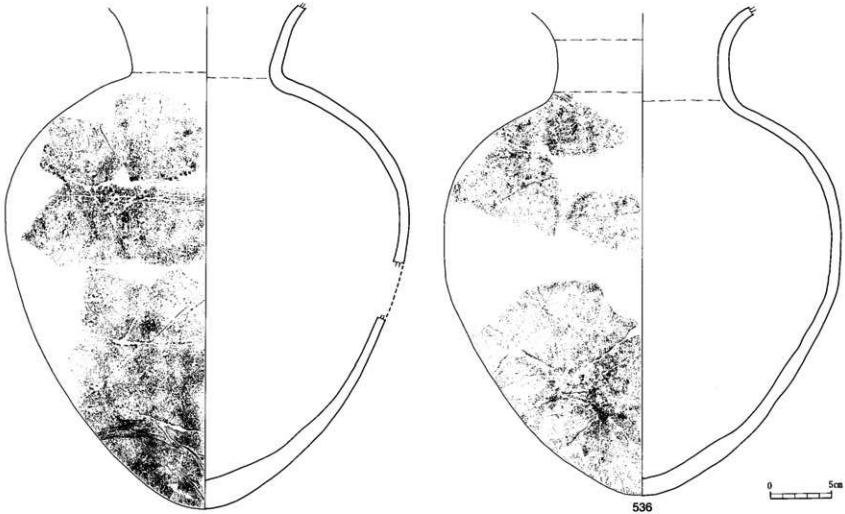
Ⅱ類はⅠ類と同じ器形をしているが，肩部に突帯がある。

538は胴部最大径のやや上位にハケナデによる横位の文様を施した貼り付け突帯を有する。外面はハケナデ，内面はヘラナデによる調整を施している。突帯に一部黒斑が見られる。539は直径34.5㎝の最大径が肩にある不安定な平底の壷である。肩部に綾杉状の刻み目を施した突帯を有する。幅広の突帯の中央に凹線を巡らし，上部に右下がり，下部に左下がりの板状押圧がみられる。外面はハケナデのあとヘラナデ調整がされている。540は中央を細い板状のものでナデた台形状の貼り付け突帯を有する。541は3条の貼り付け突帯を有する。542はヘラ刻みを施した2条以上の突帯が付されている。543は櫛状施文具による刻み目を施した断面かまぼこ形をした幅広の貼り付け突帯を有する胴部片である。544はヘラ状施文具による刻み目を施した2条の貼り付け突帯を有する胴部片である。胎土は砂粒を多く含む。

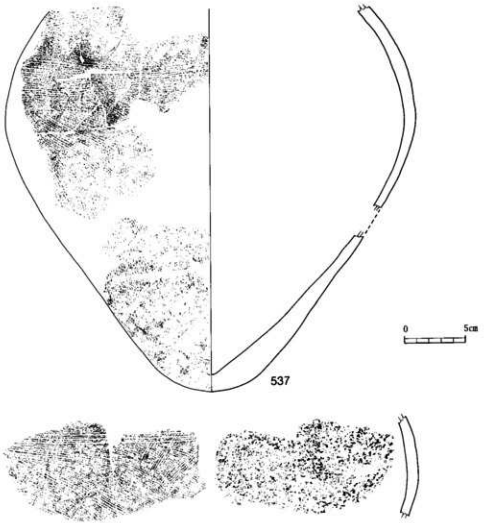
（3） Ⅲ類（第82図545・第83図546～550）

口縁部が袋状気味のものであるが546，547のように外へまっすぐ開くものと，545，550のように端部がわずかに内弯するもの，548，549のように丸くまわるものとがある。

545は口縁部直径17㎝，高さ68㎝，胴部最大径47㎝の大型の壷である。なで肩で胴部へ下り倒卵形を呈する。尖り気味の丸底である。胴部最大径付近に断面台形となる貼り付け突帯を有する。口縁部，頸部下に黒斑が見られる。外面ハケナデで下半部には煤が付着している。546は板状粘土を貼り付けて口縁部を肥厚させ，口縁部外面に明瞭な段を有する。口縁部は横方向ヘラナデ，頸部は縦方向ヘラナデである。547は口縁端部近くで直に立ち上がる。548は頸部が短く直立する。



第79図　壺形土器（2）



第80図　壺形土器（3）

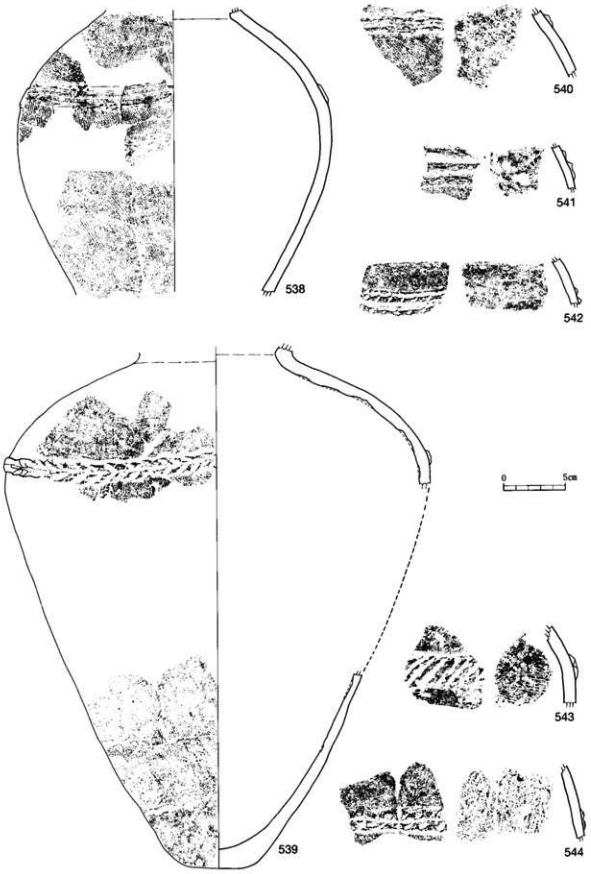
内外ともヘラナデで仕上げ，頸部に黒斑が見られる。549は頸部が内傾気味に短く立ち上がる。

550は口縁直径16.8㎝，高さ48㎝以上の大型のもので頸部が短く立ち上がる。肩部が張っており，胴部最大径付近に断面形が台形となる貼り付け突帯を有する。外面に煤が付着している。

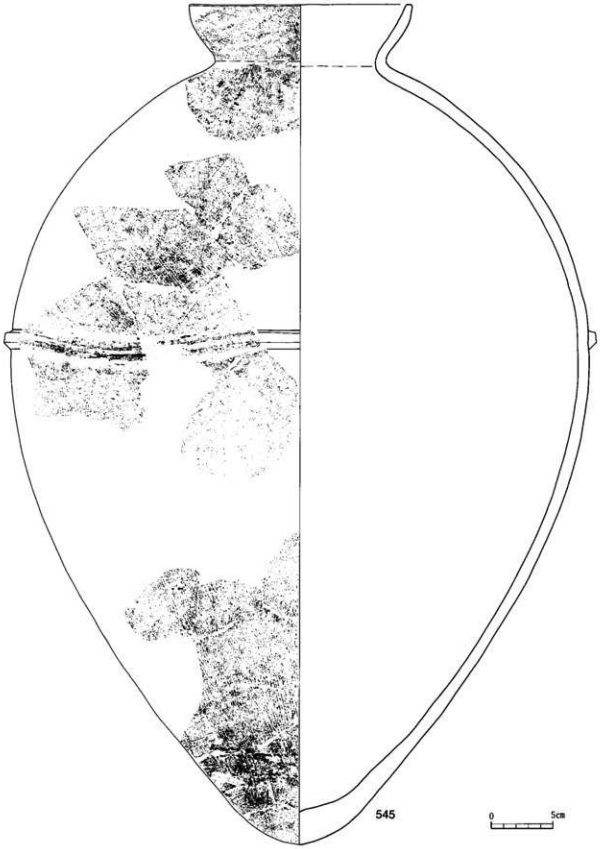
（4）Ⅳ類（第84図551）

胴部の広い形のものをⅣ類とした。

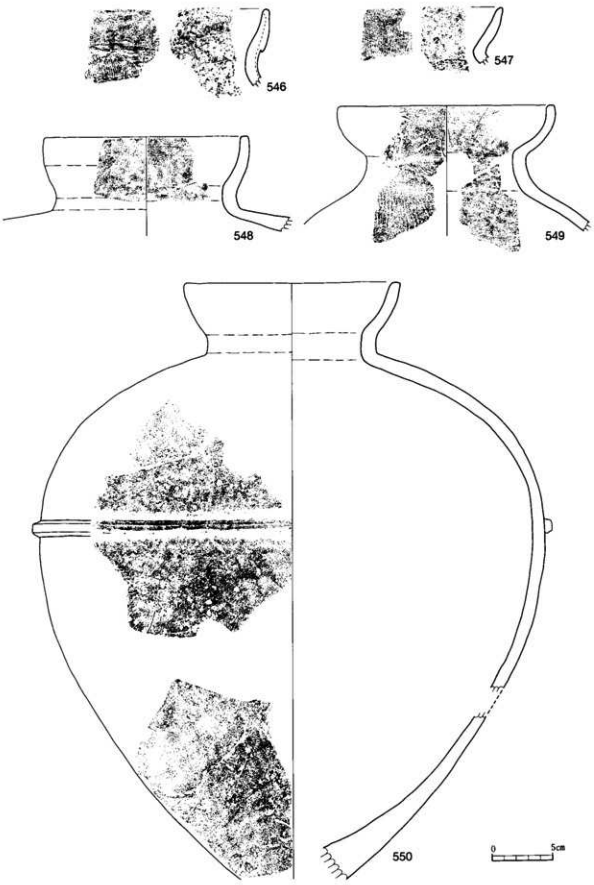
551は最大径39㎝と胴が広い。口縁部は頸から外へまっすぐ伸び，端部近くで外反し頸部はくびれている。肩が若干張り気味で，扁球気味の形を呈する。最大径部分のやや上部に櫛状施文具により横位に沈線を数条施し，その上に数箇所ヘラ状施文具により縦位に短絡線を施している。外面はていねいなヘラナデで仕上げ，沈線部に黒斑が見られる。



第81図　壺形土器（4）



第82図　壺形土器（5）



第83図　壺形土器（6）

（5） V類（第84図552）

長頸壷をV類とした。

552は長頸壷である。口縁直径13cm，高さ27.7cmで，頸部からまっすぐ立ち上がり口縁端部近くで外反する口縁部と，最大径が上半にある胴部，丸底の器形を呈する。外面・内面ともにヘラナデによりていねいに調整されている。底部近くに黒斑が見られる。

（6） VI類（第84図553・554）

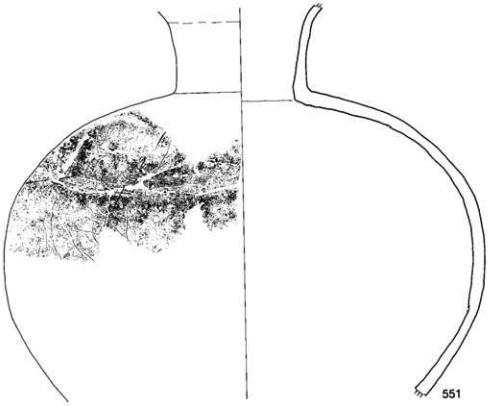
553，554は広口壷である。口縁直径が553は25.2cmである。553の端部は口縁部下側をヘラナデにより肥厚風に仕上げている。口唇端部に一本凹線を巡らす。554の口縁端部は内側に幅0.9 cmの凹部をもつ。

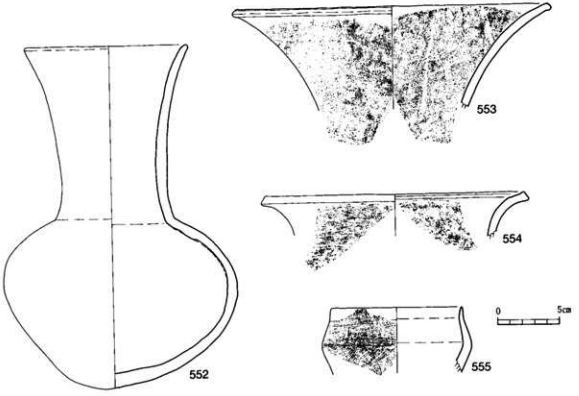
（7） VII類（第84図555）

555は小型の無頸壷と思われる。外面に明瞭な屈曲部をもち，口縁部に向かい内傾する。口縁部は尖り気味に薄く作り出されている。外面はハケナデにより調整がなされている。

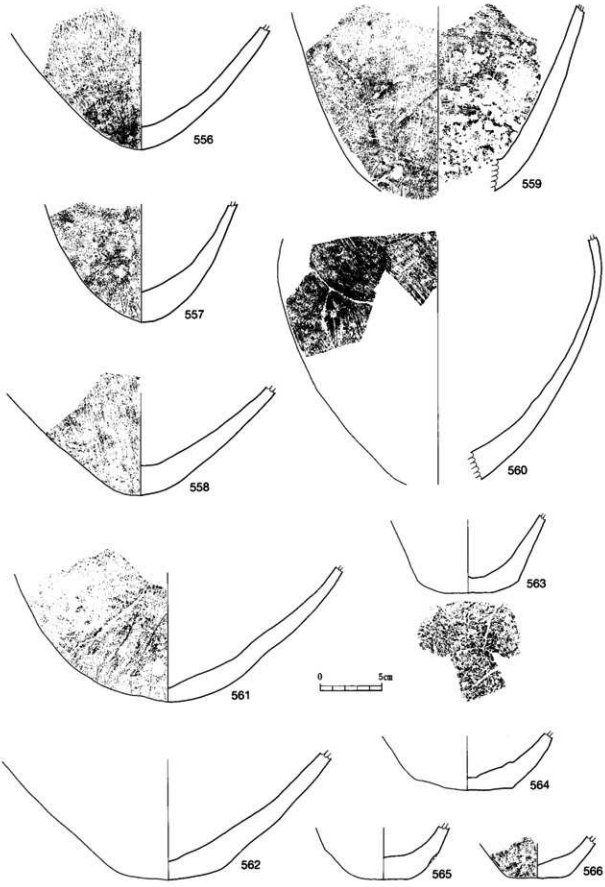
底部（第85図556～566）

底部は尖り底（556～558），丸底（559～562），平底（563～566）がある。556，557は黒斑が見られる。560の胴部中央付近に3本の沈線がみられるが，絵か文様か不明である。外面に煤が付着している。561の外面はヘラナデであるが，底付近は粗く削っている。内面も剥脱が目立つ。562は平底気味で，外は赤っぽい茶褐色を呈している。563の底には土器製作の際に敷いたと思われる数枚の葉の痕跡が見られる。





第84図　壺形土器（7）



第85図　壺形土器底部

3）鉢形土器

鉢形土器は大きく分けると口縁部が外反する鉢部に脚台が付くもの（Ⅰ類：第86図567～570），口縁部が外反し丸底のもの（Ⅱ類：第86図571～574），口縁部が丸みをもち丸底のもの（Ⅲ類：第86図575～579），口縁部が丸みをもち低い台のつくもの（Ⅳ類：第86図580，581）の4種に分けられる。

（1） Ⅰ類（第86図567～570）

567は口縁部直径26.2cm，高さ16,7cm，脚台直径11.1cmのほぼ完形のもので，広く深い鉢部に安定した脚台が付く。鉢部はゆがんでいる。口縁部はゆるやかに外反し，口唇部はほぼ平坦であるが中がややへこんでいる。口縁部内外はヘラによる調整の痕がみられる。脚部の裾はまっすぐ広がる。脚部内外もヘラによる調整が見られる。568は口縁部直径が16.1cm，鉢部の高さが13.9cmある深い甕様の鉢部で，内外面ともにヘラによるケズリあるいは粗いナデ調整が見られる。整形も雑である。外面の肩部近くに段をもつ。569は脚台で，ゆるやかに広がる裾部をもち，内外面ともにナデによる調整が見られる。鉢部の内底は平らで胎土が細かい。570は小型の脚台で，裾部があまり広がらず直に近く下る。胎土は細かい。

（2） Ⅱ類（第86図571～574）

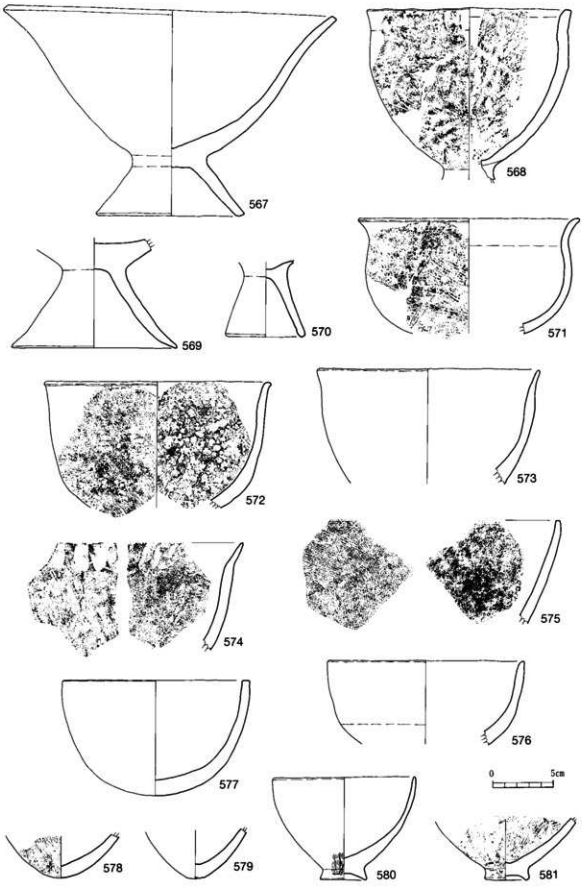
571は口縁部直径が11.7cmあり，口縁部はゆるく外反している。鍋状の形態をしている。外面はハケのあとヘラでていねいにナデている。572，573は端部がかすかに外反し，572の口縁はやや肥厚気味に，573の口縁端部は尖るように作り出されている。口縁部直径は572，573ともに17.8cmある。572は内外面ともにハケによる横ナデ調整，573は内外面ともにナデによる調整がなされている。574は口縁端を内外から指でつまみあげ，細い口縁に作りあげている。作りは雑である。

（3） Ⅲ類（第86図575～579）

575は口縁端がやや内反しており，外面に細いハケ調整の痕が明瞭に見られる。576，577はやや内反気味であるが，直行する口縁部である。577は口縁部直径15.2cm，高さ9.3cmで，口縁端部は直となる。砂粒の多い胎土を用いている。578の外面はハケナデであるが，底のみヘラナデである。579は小さい不安定な平底である。

（4） Ⅳ類（第86図580・581）

580は口縁部直径が11.4cm，高さが8.3cmを測る。口縁部はほぼ直行しているが，端部がやや内反している。内外ともにていねいに調整しているが，脚台部は雑な作りをしており，手捏ね風である。581は580に比べやや大型で，外面はヘラナデ，内面はハケナデで仕上げ，脚台は雑な仕上げである。



第86図　鉢形土器

4）高坏形土器

坏部は，口縁部と底部が明瞭に段をもち浅いもの（Ⅰ類：第87図582，583）と，深いもの（Ⅱ類：第87図584，585），沈線のようなもので段を示すもの（Ⅲ類：第87図586～591），内弯する鉢状のもの（Ⅳ類：第87図592，593）の4種に分かれる。

（1）Ⅰ類（第87図582・583）

口縁直径は582が25.7cm，583が28.7 cmある。582の口縁部はまっすぐのびて，端部が薄く尖るように作りだされている。坏部がひじょうに薄い。裾部はハの字状に広がる。細かい土を用いている。583の坏部は体部から口縁部へ大きく外反し，内部に屈曲部がみられる。内外面とも粗いハケナデで仕上げているが，内面の口縁部だけはヘラナデで仕上げている。砂粒の多い胎土を用いている。

（2）Ⅱ類（第87図584・585）

584の外面はヘラナデにより調整されている。内面も粗いヘラナデである。585は口縁部の深い杯部で口縁部と底部は丸みをもった段を呈し，口縁部にかけて外反する傾向にある。ともに粗い土を用いている。

（3）Ⅲ類（第87図586～591）

まり状を呈するが，586のように深さ3.2 cmと浅い皿状を呈するもの，588，590のように深さが7.2 cm～9.5 cmと深いもの，587，591のようにその中間のもの5.1 cm～5.4 cmとがある。

器形も深さによってまっすぐのびるものと内反するものとがある。口縁部直径は20cm～23.7cmである。

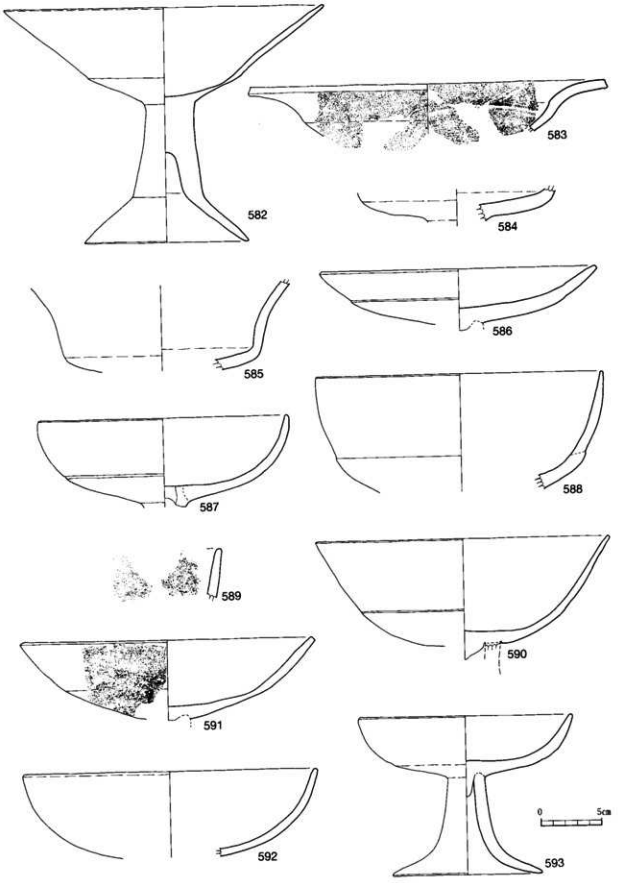
586は杯部がゆるやかに広がり，外面に屈曲部がみられる。587も外部に屈曲部を有する。

588は口縁部と底部の接合部が明瞭である。590の胎土は砂粒が多い。589は内外ともに丹塗りである。

（4）Ⅳ類（第87図592・593）

592は浅い杯部であり，口縁直径23.5cm，深さ7 cmである。593も浅い杯部であり，完形で口縁直径17cm，高さ12.8cm，杯部の深さ5.1 cm，脚端直径11.8cmである。杯部と脚部をくっつけた後，中央にかたまりで補充している。筒部と裾部の境がはっきりせず，なだらかにおりる。

Ⅱ類～Ⅳ類の坏部と脚部は別々に作り，脚部を坏部に差し込んで接合している。586，587，590等に見られるように接合内面に突起様のものを加えることもある。



第87図　高杯形土器

高坏脚部（第88図594～598）

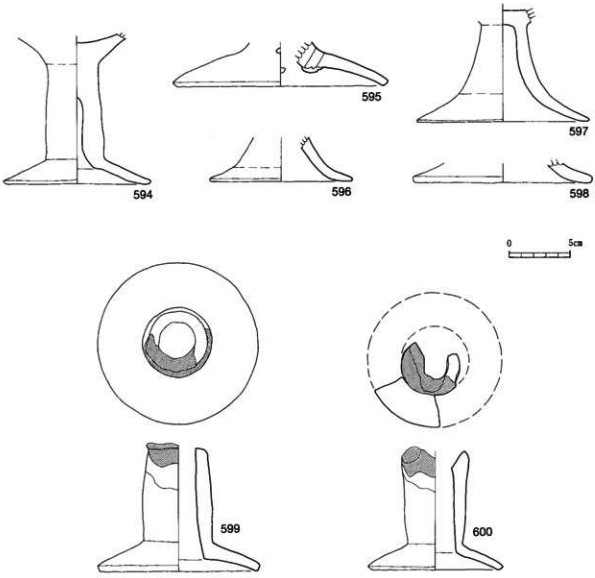
脚部は筒部と裾部が明瞭に分かれるもの（第88図594，595）と，境がはっきりしないもの（第88図596，597）とがある。594，595は柱状の筒部から屈曲し裾部が低い位置から横へ広がる。595は屈曲部に円形の透孔が穿たれているが貫通していない。

594の外面はハケによる調整痕跡が明瞭に残るが，筒部はさらにヘラでナデている。

596，597は筒部からなだらかに裾部へ移って端部へ至る。596はナデによる調整がなされているが，かなり雑なつくりである。598の外面には丹が付されている。

轆羽口に転用された高坏脚部（第88図599・600）

599，600は轆羽口として転用された脚部である。中膨らみの柱状筒部と低い裾部からなる。杯部と脚部の接合箇所を打ち欠いて羽口に利用したために，灰色に変色し滓が融着している。



第88図　高杯形土器脚部

5）坩形土器（第89図601～616）

坩形土器は口縁部が長く，外へ反るもの（Ⅰ類：第89図601～611）と，平底をし口縁の短いもの（Ⅱ類：第89図612～616）とがある。

（1） Ⅰ類（第89図601～611）

Ⅰ類は小さい丸底と外へ反る細長い口縁からなり，頸部で段をもつ。口縁端部は尖り気味に作り出されている。

601は口縁直径11.8cm，高さ約16.4cmで頸部に段をもつ。口縁端部は薄く仕上げているが，その下に一条の沈線が見られる。外面はていねいにナデている。602は口縁直径7.3cm，高さ7cmと小型で，胴部が小さい。603，604は胴部の低いもので，口縁端部の下に一条の沈線が見られる。605，606は口縁部が直立気味であるが605は端部近くでやや内反する。606は外面をハケナデで仕上げ口縁端部近くの内・外面には一条の沈線が見られる。607は最大径が15.4cmと大きく外面肩部に明瞭な屈曲部を有するもので，底部が分厚い。608の口縁部は内傾気味でまっすぐ口縁へ向かう。609は小型で胴部が短く，口縁部は外へまっすぐのびる。610も同じ形態だが609と比べ胴部が長い。611は器壁が薄く，外面はナデにより調整されている。

（2） Ⅱ類（第89図612～616）

Ⅱ類は胴部に比して口縁部が短い。

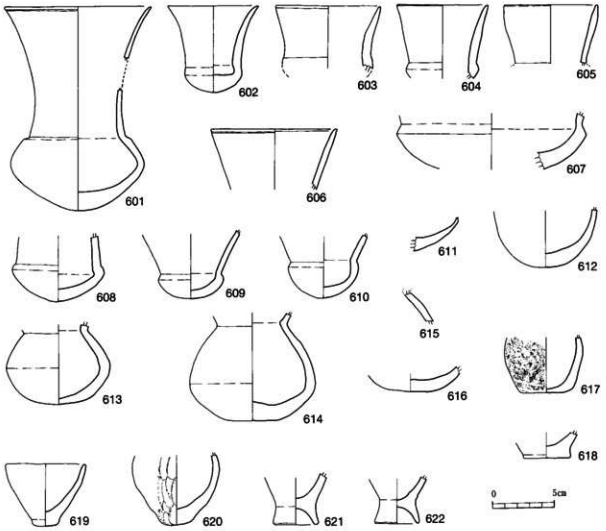
612は不安定な平底である。613，614はともに頸部から段をもって口縁部が外向し，胴部は球状である。最大径は低い位置にあり，613が8.4cm，614が10.2cmである。614の内面には輪積みの痕跡が見られる。外はていねいにナデているが剥落が目立つ。615は内外ともに丹塗りである。

6）手捏ね土器（第89図617～622）

617～622は手捏ね土器である。616～619は鉢形で平底のもの，充実高台のもの，外へまっすぐ開いているが端に近くやや内反するもの，内反するまり形のものがある。621・622は変形で脚台のみが出ている。

617は外面をハケナデで仕上げている。620の高さは約7cmで小さい平底である。

620～622は指頭圧痕が明瞭に見られる。



第89図　堆形土器・手捏ね土器

第14表　土器観察表（1）

挿図	番号	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	外面調整	内面調整	備考
第67図	438	甕形土器	C-15	Ⅲa	11523	100.06	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	12689
	439	甕形土器	C-14	Ⅲa	9910	102.28	黄橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	10324,10421,11324
	440	甕形土器	F-14	Ⅲa	9536	101.54	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	
	441	甕形土器	D-11	Ⅲa	5055	103.97	黄橙色	良好	輝石	ハケナデ	ハケナデ	5056
	442	甕形土器	C-14	Ⅲa	10160	101.69	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	10324,11597
	443	甕形土器	C-14	Ⅲa	9831	102.45	橙色	良好	輝石・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	9922
	444	甕形土器	F-12	Ⅲa	8614	103.87	浅黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	8615,8616,8707,8712他
	445	甕形土器	F-13	Ⅲa	9486	102.45	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	9609,9611
	446	甕形土器	F-13	Ⅲa	9270	97.50	浅黄橙色	良好	角閃石・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	9674,9676
	447	甕形土器	E-13	Ⅲa	8828	104.28	橙色	良好	角閃石・石英	ハケナデ	ハケナデ	8841,8844
第68図	448	甕形土器	C-14	Ⅲa	9878	102.68	浅黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	9896,9831,9903,10044他
	449	甕形土器	C-14	Ⅲa	9831	102.45	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	9922,10326
	450	甕形土器	C-11	Ⅲa	4825	103.48	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	4826,4831,5253,5258他
	451	甕形土器	C-14	Ⅲa	9831	102.45	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ヘラナデ	9901,9902,10093,11922
	452	甕形土器	C-14	Ⅲa	9831	102.45	橙色	普通	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	9922,10424,10616,10685他
第69図	453	甕形土器	D-15	Ⅲa	12746	98.82	赤橙色	良好	石英・輝石	ヘラナデ	ヘラナデ	12747,12748,12749,12785他
	454	甕形土器	C-13	Ⅲa	7242	104.22	橙色	良好	石英・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ	7243,7280,7565,7874他
	455	甕形土器	C-13	Ⅲa	5954	104.21	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	
	456	甕形土器	F-12	Ⅲa	8709	103.70	浅黄橙色	普通	石英・砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ	8711,8717,8764,8788他
	457	甕形土器	C-13	Ⅲa	7326	103.94	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	7347,7914
	458	甕形土器	C-13	Ⅲa	6787	104.16	橙色	良好	石英・輝石	ヘラナデ	ハケナデ	7253,7880,7987,7988他
第70図	459	甕形土器	E-14	Ⅲa	9293	94.93	橙色	良好	輝石	ヘラナデ	ヘラナデ	9442,9544,10383,10837他
	460	甕形土器	B-14	Ⅲa	9995	102.07	橙色	良好	石英	ハケナデデ	ハケナデ	10879,10917
	461	甕形土器	B-14	Ⅲa	10891	101.76	橙色	良好	石英・角閃石	ハケナデ	ハケナデ	
	462	甕形土器	C-13	Ⅲa	5954	104.21	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	7883
第71図	463	甕形土器	F-11	Ⅲa	1450	101.24	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ヘラナデ	2231,2448
	464	甕形土器	F-11	Ⅲa	1045	101.43	明褐色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ヘラナデ	1188,1412
	465	甕形土器	D-10	Ⅲa	3557	100.94	赤褐色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	3785,3819
	466	甕形土器	E-10	Ⅲa	2168	101.77	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	2395,3536
	467	甕形土器	G-11	Ⅲa	1696	101.00	表面褐色・基調色	良好	石英・長石・砂粒	ハケナデ	ヘラナデ	2500,2639,3096
	468	甕形土器	D-14	Ⅲa	11710	101.42	明黄褐色	良好	石英	ハケナデ	ヘラナデ	
	469	甕形土器	F-12	Ⅲa	8727	103.48	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	
	470	甕形土器	D-14	Ⅲa	10562	102.40	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	10699,10832
	471	甕形土器	F-11	Ⅲa	1829	102.02	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ナデ	2195
	472	甕形土器	F-10	Ⅲa	1108	100.12	橙色	良好	石英・角閃石・輝石	ハケナデ	ナデ	
	473	甕形土器	D-14	Ⅲa	10411	102.85	浅黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ナデ	10602,10626,10628,10754他
	474	甕形土器	E-11	Ⅲa	2978	103.98	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	3106,8935,9351,274他
	475	甕形土器	C-13	Ⅲa	6172	104.06	橙色	良好	石英	ハケナデ	ヘラナデ	7233
第72図	476	甕形土器	C-11	Ⅲa	4948	103.02	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	5546,6429,6439,6705他
	477	甕形土器	F-11	Ⅲa	1339	102.72	明黄橙色	普通	石英・砂粒	ハケナデ	不明(剥落)	1345,1352,1353,1354他
	478	甕形土器	E-10	Ⅲa	1261	101.39	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	2168,2554

第15表　土器観察表（2）

掲図番号	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	外面調整	内面調整	備考
第72図	479	壺形土器	B-10	Ⅲa	4137	99.57	明黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	4544,4913,5214
	480	壺形土器	F-11	Ⅲa	1704	101.37	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	
	481	壺形土器	F-11	Ⅲa	1154	101.04	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	1726
	482	壺形土器	C-13	Ⅲa	6242	103.35	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ﾊｹ･ﾍﾗﾅﾃﾞ	6921,7445,7474,7711他
	483	壺形土器	E-13	Ⅲa	8497	104.65	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	8616,8848,8858,8863他
	484	壺形土器	F-11	Ⅲa	1708	101.32	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	1712,1716,1737,2289他
第73図	485	壺形土器	D-13	Ⅲa	6070	104.56	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	6071,6074,6075,6088他
	486	壺形土器	C-11	Ⅲa	4486	102.61	黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	4672,4833,5107,5642他
	487	壺形土器	E-12	Ⅲa	8936	104.24	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	6124,6141,6366,6746他
	488	壺形土器	D-11	Ⅲa	4779	103.91	黄橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	4781
	489	壺形土器	D-10	Ⅲa	3526	101.64	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	4899
第74図	490	壺形土器	F-10	Ⅲa	1028	100.35	黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	1040,1041,1042,1179他
	491	壺形土器	C-13	Ⅲa	6152	104.27	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	10249,10769
	492	壺形土器	D-12	Ⅲa	5639	104.51	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	10629
	493	壺形土器	D-13	Ⅲa	5876	104.72	橙色	良好	長石	ハケナデ	ハケナデ	8591,9873,9875,11469
	494	壺形土器	D-13	Ⅲa	6060	104.69	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	10400,10702
	495	壺形土器	F-11	Ⅲa	1047	101.49	黄橙色	普通	石英・砂粒	ハケナデ	不明(剥落)	1207,1208,1432,1599他
第75図	496	壺形土器	F-10	Ⅲa	1121	100.24	橙色	良好	石英	ハケナデ	ﾊｹﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	1122,11351748,2274,2476
	497	壺形土器	D-10	Ⅲa	3180	100.61	橙色	良好	金雲母・石英・砂粒	ハケナデ	ヘラナデ	3359,8083
	498	壺形土器	D-11	Ⅲa	5129	103.63	橙色	良好	石英	ハケナデ	ヘラナデ	
	499	壺形土器	C-11	Ⅲa	4501	103.44	橙色	良好	石英	ハケナデ	ヘラナデ	4677
	500	壺形土器	D-9	Ⅲa	3305	99.97	橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	ヘラケズリ	3421,3442,3510,3556,3674
第76図	501	脚部	C-13	Ⅲa	6952	103.92	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	7274,7784,7787,7910,7962
	502	脚部	C-13	Ⅲa	5954	104.21	明黄橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	ヘラナデ	5957,7259,8092
	503	脚部	C-13	Ⅲa	5940	104.17	橙色	普通	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	6279,6485,8031,8033他
	504	脚部	C-12	Ⅲa	5499	103.68	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	5540,10407,10722,10597
	505	脚部	D-15	Ⅲa	11041	101.71	橙色	良好	石英・角閃石	ハケナデ	ハケナデ	
	506	脚部	C-13	Ⅲa	5930	104.22	橙色	良好	石英	ナデ	ヘラナデ	6794,7538,8359,8468
	507	脚部	D-13	Ⅲa	6129	104.24	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	7819,10255
	508	脚部	D-13	Ⅲa	9341	104.3	赤橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ヘラナデ	9539,9540
	509	脚部	F-10	Ⅲa	1134	100.38	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	1829,1845,2234
	510	脚部	C-11	Ⅲa	4725	102.80	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ヘラナデ	4917,5398,5400,5472
	511	脚部	C-11	Ⅲa	4719	103.47	橙色	普通	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	
	512	脚部	E-11	Ⅲa	1269	103.06	赤橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	3209,3212,5077,5169
	513	脚部	F-11	Ⅲa	1802	101.21	赤橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	1076,2095,2098,2213,2236
	514	脚部	F-11	Ⅲa	1356	102.34	橙色	普通	砂粒	ハケナデ	ナデ	1735,2300,2301,2302他
第77図	515	脚部	D-10	Ⅲa	3145	102.06	橙色	良好	石英・角閃石	ハケナデ	ハケナデ	3146,3334,3751,3869他
	516	脚部	C-11	Ⅲa	4832	103.44	橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	4998,5080
	517	脚部	F-13	Ⅲa	9605	102.77	橙色	良好	石英・角閃石	ハケナデ	ハケナデ	9612,9613
	518	脚部	D-10	Ⅲa	3378	100.54	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	3379
	519	脚部	F-14	Ⅲa	9371	101.68	橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	

第16表　土器観察表（3）

掲図	番号	器　種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	外面調整	内面調整	備　考
第77図	520	脚　部	B-12	Ⅲa	12879	103.16	黄橙色	良好	角閃石	ナ　デ	ハケナデ	
	521	脚　部	F-12	Ⅲa	8525	102.45	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	8531
	522	脚　部	C-15	Ⅲa	11387	100.23	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	12681
	523	脚　部	C-11	Ⅲa	4407	102.81	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	4912,5085,5702
	524	脚　部	B-14	Ⅲa	9987	102.38	黄橙色	良好	砂粒	ナ　デ	ナ　デ	11363,11675
	525	脚　部	F-12	Ⅲa	8722	103.37	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナ　デ	8790,8791,8814
	526	脚　部	D-9	Ⅲa	3375	99.07	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナ　デ	3617,3622,3698
	527	脚　部	C-15	Ⅲa	11390	100.15	黄橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	ナ　デ	11524
	528	脚　部	C-10	Ⅲa	3979	100.43	赤橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ナ　デ	4841
	529	脚　部	B-11	Ⅲa	4605	102.1	浅黄橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	ナ　デ	
	530	脚　部	E-14	Ⅲa	9620	100.36	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	
	531	脚　部	D-13	Ⅲa	6315	104.02	赤橙色	良好	石英	ハケナデ	ナ　デ	9232,10550
第78図	532	壷形土器	F-12	Ⅲa	9496	102.97	浅黄橙色	普通	角閃石・輝石	ハケナデ	ハケナデ	9514,9518,9519,9521他
	533	壷形土器	F-12	Ⅲa	9497	103.36	灰白色	普通	角閃石・石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	9502,9503,9504,9507他
	534	壷形土器	C-13	Ⅲa	6457	103.54	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナ　デ	6516,6671,7660,7796他
第79図	535	壷形土器	C-13	Ⅲa	5943	104.12	橙色	良好	石英・輝石	ナ　デ	不明(剥落)	6509,6525,6678,6766他
	536	壷形土器	C-13	Ⅲa	5936	104.21	橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	ナ　デ	5937,5944,5954,6553他
第80図	537	壷形土器	C-13	Ⅲa	5957	104.24	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ヘラナデ(底部)	5960,6521,6554,6653他
第81図	538	壷形土器	E-11	Ⅲa	915	102.93	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ヘラナデ	1180,1205,1064,1065他
	539	壷形土器	F-10	Ⅲa	990	100.06	明赤褐色	良好	石英・砂粒	ﾊﾅﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾅﾃﾞ	不明(剥落)	1114,1127,1128,1136他
	540	壷形土器	E-11	Ⅲa	2590	102.47	橙色	良好	金雲母・石英	ハケナデ	ナ　デ	
	541	壷形土器	B-12	Ⅲa	5580	103.4	黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ナ　デ	10180
	542	壷形土器	E-11	Ⅲa	1607	103.40	橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	ハケナデ	
	543	壷形土器	D-14	Ⅲa	10851	102.67	黄橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	ハケナデ	
	544	壷形土器	B-12	Ⅲa	5409	102.38	黄橙色	良好	石英・角閃石・砂粒	ハケナデ	不明(剥落)	5677
第82図	545	壷形土器	C-10	Ⅲa	3991	100.3	橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	4829,6019,6022,6039他
第83図	546	壷形土器	D-13	Ⅲa	6739	104.48	黄橙色	良好	石英・砂粒	ヘラナデ	ナ　デ	
	547	壷形土器	C-11	Ⅲa	5158	103.33	橙色	良好	石英	ハケナデ	ナ　デ	
	548	壷形土器	E-13	Ⅲa	9409	103.12	橙色	良好	石英	ヘラナデ	ヘラナデ	10713,11052
	549	壷形土器	D-13	Ⅲa	6734	104.15	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	7195,10758
	550	壷形土器	D-13	Ⅲa	6101	103.88	橙色	良好	石英	ハケナデ	不明(剥落)	7365,7377,7703,7704他
第84図	551	壷形土器	C-13	Ⅲa	6263	103.47	黄橙色	良好	石英	ヘラナデ	不明(剥落)	6281,6539,6556,6557他
	552	壷形土器	D-13	Ⅲa	6714	103.79	明赤褐色	良好	石英	ヘラナデ	ヘラナデ	7273,7395,7405,7407他
	553	壷形土器	C-13	Ⅲa	8067	104.13	橙色	良好	石英	ヘラナデ	ナ　デ	8069,8115
	554	壷形土器	D-12	Ⅲa	5739	104.54	明灰褐色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	
	555	壷形土器	C-14	Ⅲa	10071	102.31	浅黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	
第85図	556	底　部	D-10	Ⅲa	3400	101.48	赤橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ナ　デ	3954,4396
	557	底　部	D-10	Ⅲa	3647	100.91	橙色	良好	石英・砂粒	ナ　デ	不明(剥落)	
	558	底　部	C-14	Ⅲa	10779	102.19	橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	不　明	10780
	559	底　部	D-14	Ⅲa	11563	102.15	赤橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	不明(剥落)	9851,10961,10990,11178
	560	底　部	F-10	Ⅲa	1007	99.76	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	不　明	1030,1172,1444,1456他

第17表　土器観察表（4）

挿図	番号	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	外面調整	内面調整	備考
第85図	561	底部	D-14	Ⅲa	10533	102.26	橙色	良好	石英・砂粒	ヘラナデ	不明	10534,10706,10724,11069
	562	底部	D-14	Ⅲa	10194	102.05	橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	不明	
	563	底部	D-13	Ⅲa	6324	104.37	橙色	良好	角閃石・長石	ナデ	ハケナデ	7695,9761,10590
	564	底部	C-13	Ⅲa	7269	104.17	黄橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	7281,7954
	565	底部	F-10	Ⅲa	1022	100.13	赤橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	2240,2241,2960
	566	底部	F-11	Ⅲa	1362	102.47	橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	
第86図	567	鉢形土器	C-13	Ⅲa	7260	104.14	橙色	良好	石英	ヘラナデ	ヘラナデ	7895,7888,7889,7964他
	568	鉢形土器	F-14	Ⅲa	9190	96.95	橙色	良好	石英	ヘラケズリ	ヘラケズリ	9358,9359,9360,9361他
	569	鉢形土器	E-14	Ⅲa	10201	102.41	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	10204,10553,10554
	570	鉢形土器	G-12	Ⅲa	8629	102.45	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	
	571	鉢形土器	E-11	Ⅲa	1275	103.54	橙色	良好	石英	ﾊｹ後ﾍﾗﾅﾃﾞ	ナデ	2180,2868,2871,2980他
	572	鉢形土器	C-13	Ⅲa	6785	104.15	黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ハケナデ	7876
	573	鉢形土器	C-13	Ⅲa	7245	104.22	浅黄橙色	良好	輝石・砂粒	ナデ	ナデ	7246
	574	鉢形土器	B-14	Ⅲa	11680	101.67	赤橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	ハケナデ	
	575	鉢形土器	C-15	Ⅲa	11733	100.53	赤橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ナデ	
	576	鉢形土器	E-11	Ⅲa	1314	103.09	灰白色	良好	石英	ナデ	ナデ	2001
	577	鉢形土器	C-13	Ⅲa	7160	103.49	赤橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	ナデ	
	578	鉢形土器	D-14	Ⅲa	10644	103.36	浅黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	
	579	鉢形土器	C-8	Ⅲa	12840	94.62	明黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	
	580	鉢形土器	B-14	Ⅲa	10000	102.26	浅黄橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	
	581	鉢形土器	C-15	Ⅲa	11392	100.32	黄橙色	良好	石英・角閃石	ヘラナデ	ハケナデ	
第87図	582	高坏形土器	C-13	Ⅲa	8000	104.08	浅黄橙色	良好	石英・砂粒	ハケナデ	ナデ	8010,8046,8061,8110
	583	高坏形土器	F-11	Ⅲa	973	100.51	橙色	良好	石英・輝石	ハケナデ	ハケナデ	974,2829,11781,11815他
	584	高坏形土器	B-13	Ⅲa	7014	103.41	橙色	良好	石英・角閃石	ヘラナデ	ヘラナデ	12878
	585	高坏形土器	B-12	Ⅲa	12882	103.18	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	
	586	高坏形土器	F-12	Ⅲa	8533	102.56	黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ハケナデ	8546,8555,8556,8633
	587	高坏形土器	C-11	Ⅲa	5134	102.44	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	5285,5312,5624,5689他
	588	高坏形土器	D-13	Ⅲa	10401	103.65	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	10402
	589	高坏形土器	D-5	Ⅲa	143	88.19	赤橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ	丹塗り　H12年度
	590	高坏形土器	E-11	Ⅲa	1100	102.92	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	1276,1284,4539,5164
	591	高坏形土器	E-11	Ⅲa	906	103.38	黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	1287,1288,1308,2007他
	592	高坏形土器	D-14	Ⅲa	10238	102.14	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	10525,10526,10710,10826他
	593	高坏形土器	C-14	Ⅲa	10665	102.59	浅黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ナデ	11305,11726,11781,11815他
第88図	594	高坏脚部	F-10	Ⅲa	1103	99.81	赤橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	1110,1749
	595	高坏脚部	E-14	Ⅲa	9375	101.44	橙色	良好	輝石	ナデ	ハケナデ	
	596	高坏脚部	F-14	Ⅲa	9433	101.85	橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	9435,9639
	597	高坏脚部	D-13	Ⅲa	6134	104.18	赤橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	7044
	598	高坏脚部	C-5	Ⅲa	86	88.55	赤橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	ヘラナデ	丹塗り　H12年度
	599	高坏脚部	F-11	Ⅲa	2455	101.04	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	輪羽口転用 2605
	600	高坏脚部	F-10	Ⅲa	981	99.84	浅黄橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	輪羽口転用1109,1763,2959

第18表　土器観察表（５）

第89図	番号	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調	焼成	胎土	外面調整	内面調整	備考
	601	坩形土器	C-13	Ⅲa	7885	104.08	灰白色	良好	砂粒	ナデ	ハケナデ	8187
	602	坩形土器	C-13	Ⅲa	7275	104.16	灰白色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	
	603	坩形土器	D-14	Ⅲa	11581	100.97	浅黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ナデ	
	604	坩形土器	D-11	Ⅲa	5111	103.66	黄橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ハケナデ	
	605	坩形土器	D-10	Ⅲa	3405	101.42	浅黄橙色	良好	輝石	ハケナデ	ハケナデ	
	606	坩形土器	F-13	Ⅲa	9093	103.87	浅黄橙色	普通	角閃石・輝石	ナデ	不明	9598
第	607	坩形土器	C-13	Ⅲa	7221	103.99	黄橙色	良好	石英	ナデ	ハケナデ	7726,8121
	608	坩形土器	D-13	Ⅲa	6128	104.26	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	
	609	坩形土器	C-13	Ⅲa	7254	104.17	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	10182
	610	坩形土器	C-13	Ⅲa	7777	103.51	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	不明(剥落)	
	611	坩形土器	E-14	Ⅲa	9390	100.40	橙色	良好	石英	ナデ	不明	11125
	612	坩形土器	C-13	Ⅲa	6890	103.51	橙色	良好	石英・輝石	ナデ	ナデ	8219
	613	坩形土器	D-10	Ⅲa	3192	100.28	浅黄橙色	良好	石英	ハケナデ	ハケナデ	3641,3646
	614	坩形土器	D-10	Ⅲa	3411	100.91	浅黄橙色	良好	石英	ナデ	ハケナデ	3412
	615	坩形土器	C-5	Ⅲa	78	88.32	赤橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	剥落	丹塗り H12年度
	616	坩形土器	D-13	Ⅲa	6069	104.65	橙色	良好	砂粒	ナデ	ハケナデ	9329
	617	手捏ね土器	C-11	Ⅲa	4810	103.02	橙色	良好	砂粒	ハケナデ	ナデ	4893
	618	手捏ね土器	E-11	Ⅲa	2343	102.62	赤橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	
	619	手捏ね土器	C-13	Ⅲa	5984	104.43	赤橙色	良好	石英	ナデ	ハケナデ	6151
	620	手捏ね土器	D-13	Ⅲa	7419	103.50	赤橙色	普通	石英・砂粒	ハケナデ	ナデ	8094
	621	手捏ね土器	D-9	Ⅲa	3592	99.77	赤橙色	良好	石英・砂粒	ナデ	ナデ	
	622	手捏ね土器	E-11	Ⅲa	1985	102.27	橙色	良好	石英	ナデ	ナデ	

石器（第90図623～628・第91図629）

この時期の石器としては，磨製石鏃1点，磨製石製品（穿孔石）1点，石庖丁1点，石板1点研磨器1点，砥石2点の7点が出土している。石材は頁岩，粘板岩，砂岩等である。

623は磨製石鏃である。頁岩製で全体がていねいに研磨されている。基部は欠損しているが，二等辺三角形を呈する。側辺部には研磨による稜がみられ，刃部に一部刃こぼれが観察される。

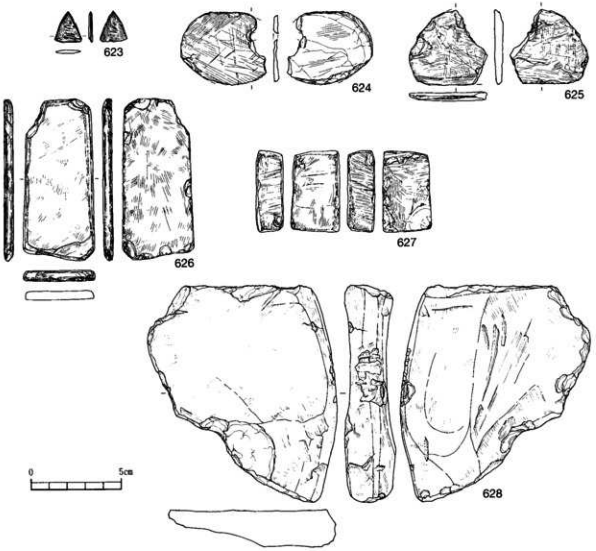
624は粘板岩製の磨製石製品である。片面をていねいに研磨しており，片面からの穿孔を穿った跡が観察され，刃部は片側からの剥離痕がみられる。形態より石庖丁の可能性がある。

625は粘板岩製の石庖丁である。欠損しているが，穿孔痕が2か所みられ，刃部は両面からの研磨がほどこされている。

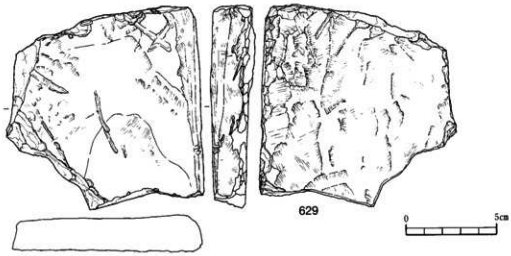
626は頁岩製の石板である。両面をていねいに研磨している。用途は不明である。

627は頁岩製の研磨器である。すべての面で使用による研磨面がみられる。

628・629は砥石である。ともに砂岩製であり，628は両面ともに使用による凹みがみられる。629は片面のみ使用している。



第90図　弥生～古代石器（1）



第91図　弥生～古代石器（２）

第19表 弥生～古代　石器分類表

挿図	番号	器　種	石　材	出土区	層	遺物番号	標高(m)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
第90図	623	磨製石鏃	頁岩	B-11	土坑内	4190	99.95	1.7	1.5	0.2	0.5	
	624	磨製石製品(砂岩石)	粘板岩	C-12	土坑内	5769	103.58	4.7	4.0	0.2	8.5	
	625	石庖丁	粘板岩	D-11	Ⅲa	4394	103.11	4.3	4.1	0.5	9.9	
	626	石板	頁岩	D-13	Ⅲa	5995	104.31	8.8	3.9	0.5	32.2	
	627	研磨器	頁岩	C-8	Ⅱ	12165	95.04	4.4	2.7	1.5	34.2	
	628	砥石	砂岩	C-14	Ⅲa	7020	103.07	11.8	10.1	2.8	320.0	
第91図	629	砥石	砂岩	C-12	Ⅲa	5778	104.17	11.0	10.8	2.5	352.0	

第５節　中世の遺物（第92図630～633）

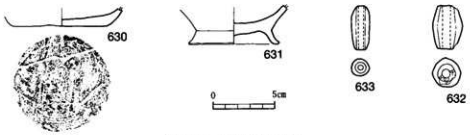
この時期のものとして土師器・内黒土師器・土錘がある。

630は糸切り離しのあと，一部ヘラでナデた底部をもつ土師器杯で，底部の直径は約７．７㎝である。

631は内面をていねいにみがいた高台付きの内黒土師器椀である。高台の直径は約７．３㎝で端がやや反り気味である。

土錘が２点出土している。

632は紡錘状，633は円筒状をしているが，端部は両者ともきれいに切られている。632が長さ3.5㎝，最大径2.3㎝，633が長さ3.5㎝，最大径1.5㎝である。外面はヘラ工具により調整がなされている。



第92図　中世出土遺物

第20表　中世遺物観察表

挿図	番号	器　種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色　調	焼成	胎　土	外面調整	内面調整	備　考
第92図	630	土師杯	C-11	Ⅲa	4847	102.70	浅黄橙色	良好	砂粒	ヘラナデ	ナデ	糸切り5793
	631	土師椀	B-12	Ⅲa	12850	102.03	浅黄橙色	良好	砂粒	ナデ	ナデ	内黒土師器
	632	土　錘	C-8	Ⅱ	12288	94.76	黄橙色	良好	砂粒	ヘラナデ		
	633	土　錘	C-14	Ⅲa	11588	101.5	赤橙色	良好	砂粒	ヘラナデ		

第Ⅵ章 まとめにかえて

旧石器時代

C，D－5区に集中して536点の遺物が出土した。その中にはナイフ形石器1点，台形石器1点，石核1点，スクレイパー1点，細石刃22点，調整剥片8点，細石刃核2点，ブランク1点，使用痕跡のある剥片1点がある。出土状況は3か所に分かれそうであったが，集中にばらつきがみられ1ブロックとみなした。出土地が傾斜地であるため，これらの遺物が同一時期であるかどうかは判断できなかった。使用されている石材は黒曜石，瑪瑙であり，黒曜石の原産地は三船，上牛鼻，桑ノ木津留，及び佐賀県の腰岳産である。遺構は検出されていない。

縄文時代

1 遺構

集石遺構8基と石皿の集積遺構1か所が検出されている。

集石遺構内に遺物を伴出したのが，集石遺構3・集石遺構5・集石遺構7の3基である。集石遺構3に伴う遺物は吉田式土器（167），集石遺構5に伴う遺物は倉園Bタイプの土器（190），集石遺構7に伴う遺物は小牧3Aタイプの土器片（72）である。この3基は縄文時代早期の集石遺構と考えられる。他の5基はその集石遺構に伴う遺物が出土していないが，その検出状況から同じく早期と考えられる。集石遺構1・2は掘り込みが確認されたが，他の6基は確認できなかった。用いている石材としては砂岩がほとんどであったが，安山岩等も若干みられた。礫の大きさは拳大から幼児頭大の角礫・円礫であった。21～318個の礫を使用しており，形態による用途の違いについては資料や根拠に乏しく今後の課題と考えるが，総合的に判断して調理用遺構としての性質をもつものと考えられる。

石皿の集積遺構では，石皿3点と礫1点が浅いすり鉢状の掘り込みから出土している。これに伴う土器等は出土しておらず，炭化物，焼土等も検出されていない。遺物は縄文時代のものと考えられるが，埋土の状況から，後世の掘り込みの可能性もあり，その性格も含め今後の課題としたい。

2 遺物

遺物には土器と石器がある。

土器は，Ⅰ類～XV類の15種類に分類した。そのうちⅣ類土器が本遺跡の主体を占める土器群である。これらの出土土器を従来の土器型式に対応させると以下のようになる。

Ⅰ類土器は岩本式土器にも類似するが，中九州でみられる中原式土器の古段階のものと思われる。

Ⅱ類土器は貝殻条痕を器面に施した後，貝殻やヘラ状工具による文様を施す円（角）筒形土器で前平式土器である。角筒形土器が1点みられる。

Ⅲ類土器は貝殻条痕を器面に施した後，貝殻腹縁による文様を施す円（角）筒形土器で知覧式土器又は加栗山式土器と呼ばれている土器である。この土器群にも角筒形土器が2点みられる。

Ⅳ類土器はやや外傾する口縁部をもつ円筒形土器で，胴部に密な貝殻刺突文を連続して施す小牧3Aタイプの土器群である。従来の吉田式土器から分離し，密な刺突文を施す土器群としてこ

の類に分類した。この類は細かな特徴からａ～ｃの３つに細分したが，Ⅳａ類は口縁部下にクサビ形突帯を貼りつける土器群である。Ⅳｂ類は口縁部下にクサビ形突帯をもたない土器の一群である。Ⅳｃ類は口縁部下にヘラ状工具による刺突文をもち，胴部に横位の貝殻刺突文をめぐらす土器である。

Ⅴ類土器はやや外傾する口縁部をもつ円筒形土器で，器面に貝殻腹縁による押引文を施しており，吉田式土器である。

Ⅵ類土器はやや外傾する円筒形土器で，口縁部下に貝殻刺突文，胴部に貝殻条痕を施しており，倉園Ｂタイプの土器である。

Ⅶ類土器はやや外反する口縁部をもつ円筒形土器で，器面に貝殻刺突文を綾杉状に施す貝殻条痕土器で石坂式土器である。275 など口縁部が直行するタイプは石坂式土器でも新段階のものと考えられる。

Ⅷ類土器は口縁部下に貝殻条痕を施す円筒形条痕文土器をまとめた。

Ⅸ類土器は縄文時代早期該当の土器で型式不明の土器をまとめた。

Ⅹ類土器は内弯する口縁部をもつ深鉢で，中期の春日式土器である。

ⅩⅠ類土器は太形凹線文を主文様とする中期の並木式・阿高式土器である。

ⅩⅡ類土器は口縁直下に沈線文を主とする文様帯をもつ中期末の南福寺式土器である。

ⅩⅢ類土器は縄文時代後期該当と考えられる土器で，型式不明のものを一括して示した。

ⅩⅣ類土器はやや外へ開く口縁部をもつ深鉢で，晩期中葉の入佐式土器である。

ⅩⅤ類土器は黒色磨研系の浅い鉢と，それと同時期と考えられる深鉢からなり晩期中葉の黒川式土器である。

石器は，石鏃，石匙，スクレイパー，加工痕のある剥片，石核，磨製石斧，打製石斧，有肩打製石斧，石錘，磨石，敲石，石皿等が出土し，石材は頁岩，黒曜石，安山岩，石英，砂岩等である。

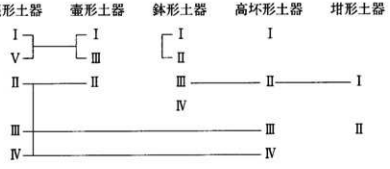
弥生～古墳時代

１　遺跡の性格

遺跡の立地している地形は東西幅が約60mほどしかない狭い尾根上である。東西へは北あるいは南から延びる谷へ向かって急傾斜でおりており，この尾根は南へ続いているが調査区は北端に近い。古墳時代の土器はこの尾根の西側に多く集中しているが，住居，溝，土坑などの遺構は発見されていない。土器の種類は甕形土器・壷形土器・鉢形土器・高坏形土器・坩形土器と，一般的な集落遺構に比べて変化はないが唯一の違いは手捏ね土器の出土が多いことである。また生活のしにくいやせ尾根という地形の中で完形品が割合に多い。こうした出土状況はこの地を一般の生活遺構と考えるよりかは生活地の周辺にある祭祀場の可能性を示しているようである。なお，県内の手捏ね土器出土遺跡については第21表～25表にまとめて示した。

２　土器の分類

出土している土器をそれぞれ数種に分けた。甕形土器が５種，壷形土器が３種，鉢形土器が４種，高坏形土器が４種，坩形土器が２種である。これらは時期差とみられ，それぞれの関係を図化すると次のようになる。



3　中九州系土器の影響

南九州の古墳時代の土器は地域性が強く，全国的な変遷とは異なっている。そうしたなかで西海岸沿いに下る土器文化の南限はどこかという問題についてはかつて中村直子氏が論じたことがある[註1]。そこでは本格的布留式甕が分布している南限は東町山門野遺跡とした。

器種ごとにみると氏も記しているように小型丸底壷・高坏形土器・器台など弥生土器に含まれていないものについては量的には多くないもののかなり広い範囲に分布している。ところが甕形土器・壷形土器などについては在地的なものが弥生時代から引き続いており，周辺の影響はほとんど受けていない。しかしながら細かい部分，例えば調整方法・器厚などの違いを考えなければ辻堂原・万之瀬川床・鹿大構内・松之尾などの遺跡で模倣甕が出ているという。

こうしたものとは別に中九州系の土器が川内市成岡遺跡[註2]などで出土していた。これがさらに南下して東市来町まで達した。いわゆる甕形土器Ⅴ類，壷形土器Ⅰａ・Ⅲ類，高坏形土器Ⅰ類，坩形土器Ⅰ類などがそれで，在地で作られた模倣土器である。

4　高坏脚部転用の鞴羽口について

製鉄があったかどうかを示す遺物に鞴羽口がある。本遺跡では高坏形土器脚部を鞴羽口に転用したものが2点出土しているが，これまで県内でも古墳時代の鞴羽口が数箇所出土している。指宿市尾長谷迫[註3]・同橋牟礼川[註4]・吹上町大園[註5]・川内市成岡[註2]・鹿屋市榎木原[註6]・高山町永野原[註7]などの遺跡がそうである。尾長谷迫・橋牟礼川の両遺跡では鍛冶炉も発見されている。また鞴羽口に高坏形土器の脚部を使っているものは南九州の特徴で，成岡遺跡を除いていずれもそうである。これらはいずれも5世紀前半のものである。

註

1　中村直子「南限の古式土師器」『人類史研究』第9号　1997　人類史研究会

2　鹿児島県教育委員会『成岡・西ノ原・上ノ原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（28）1983

3　指宿市教育委員会『尾長谷迫遺跡』指宿市埋蔵文化財調査報告書（7）1986

4　指宿市教育委員会『橋牟礼川遺跡Ⅲ』指宿市埋蔵文化財調査報告書（10）1992

5　吹上町教育委員会『大園・桜木遺跡』吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書5　1990

6　鹿児島県教育委員会『榎木原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）1987

7　㈱元興寺文化財研究所『永野原遺跡』高山町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）2000 高山町教育委員会

第21表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（1）

番号	遺跡名	所在地	出土品	報告書名
1	尾長谷迫遺跡	指宿市	手捏ねの鉢形土器1点	指宿市埋蔵文化財調査報告書（7） 指宿市教育委員会 1986.3 尾長谷迫遺跡
2	鳥山調査区	指宿市	手捏ね土器1点	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（4） 指宿市教育委員会 1980.3 鳥山調査区
3	宮之前遺跡	指宿市	手捏ね土器2点	指宿市埋蔵文化財調査報告書（5） 指宿市教育委員会 1981.3 宮之前遺跡
4	松之尾遺跡	枕崎市	手捏ね状の土器1点出土	枕崎市松之尾土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財調査報告書（1） 枕崎市教育委員会 1981.3 松之尾遺跡
5	横建遺跡	枕崎市	手捏ね小型鉢1点	枕崎市埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 枕崎市教育委員会 1987.3 横建遺跡ほか7遺跡
6	中原田遺跡	枕崎市	手捏ね土器3点	枕崎市埋蔵文化財発掘調査報告書（7） 枕崎市教育委員会 1992.3 中原田遺跡
7	上ノ城遺跡	加世田市	手捏ね甕形土器脚台4点 小型土器3点 底部（手捏ねで張り付け後 ヘラナデ）4点	加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 加世田市教育委員会 1980.3 上ノ城遺跡
8	村原(椎ノ原) 遺跡	加世田市	手捏ね土器1点	加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書 加世田市教育委員会 1977.3 村原（椎ノ原）遺跡
9	上加世田遺跡1	加世田市	第Ⅰ地点手捏ね鉢形土器6点 第Ⅱ地点手捏ね鉢形土器2点	加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（3） 加世田市教育委員会 1985.3 上加世田遺跡1
10	上加世田遺跡2	加世田市	手捏ね小型鉢形土器3点 手捏ね小型丸底壺　1点 手捏ね棒状脚台をもつ土器1点	加世田埋蔵文化財発掘調査報告書（4） 加世田教育委員会1987.3 上加世田遺跡2
11	成岡遺跡 西ノ平遺跡 上ノ原遺跡	川内市	9号住居跡出土　鉢形土器1点 撹乱層出土　鉢形土器6点 手捏ね土器4点 手捏ね土器1点	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査 報告書（28）1983.3 成岡遺跡・西ノ平遺跡・上ノ原遺跡
12	外川江遺跡	川内市	90点　脚台を有し甕形土器を 模したもの 鉢形土器を意図したもの 壷形土器を意図したもの	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査 報告書（30）1984.3 外川江遺跡・横岡古墳

第22表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（2）

番号	遺跡名	所在地	出土品	報告書名
13	麦之浦貝塚	川内市	手捏ね土器(甕形土器)12点 手捏ね土器　46点 手捏ね土器(壺形土器)5点 手捏ね土器(小型鉢形土器)7点 手捏ね土器(鼓形器台)　1点	本川地区造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 川内市土地開発公社 1987.9 麦之浦貝塚
14	老神遺跡	出水市	手捏ね土器1点	出水市埋蔵文化財調査報告書(4) 出水市教育委員会 1995.3 市来遺跡・老神遺跡
15	出水麓遺跡(2)	出水市	手捏ね土器1点	出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(8) 出水市教育委員会 1998.3 出水麓遺跡(2)
16	荘貝塚	出水市	小形土器破片8点 (手捏で,手捏ねの要素が多い)	出水文化財報告書1 出水市教育委員会 1979. 荘貝塚
17	島巡遺跡	大口市	手捏ね土器1点	大口市埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 大口市教育委員会 1987.3 島巡遺跡
18	妻山元遺跡	国分市	手捏ね土器10点	国分市埋蔵文化財調査報告書(1) 国分市教育委員会1985.3 妻山元遺跡
19	城山山頂遺跡	国分市	手捏ね土器22点（小形鉢） 4点住居跡から 手捏ね土器（脚台付き）　2点 （平底）　6点 （尖底）　10点 （壺形土器）　2点 （鉢形土器）　2点	国分市埋蔵文化財調査報告書(2) 国分市教育委員会 1985.12 城山山頂遺跡
20	本御内遺跡Ⅲ	国分市	弓道場建設予定地より 手捏ね土器の口縁部1点	鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査報告書(21) 1997.3 本御内遺跡Ⅲ
21	後ケ迫A遺跡	垂水市	ミニチュア土器69点	垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 垂水市教育委員会 1999.3 後ケ迫A遺跡
22	宮の脇遺跡	鹿屋市	手捏ね土器(小型土器)3点	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 鹿屋市教育委員会 1986.3 早山遺跡・宮の脇遺跡
23	大畑平遺跡	鹿屋市	手捏ね土器1点	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(11) 鹿屋市教育委員会　1989.3 大畑平遺跡
24	鹿屋城址 （Ⅱ遺跡）	鹿屋市	手捏ね土器3点（ミニチュア）	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(54) 鹿屋市教育委員会 1998.3 鹿屋城址（Ⅱ遺跡）

第23表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（3）

番号	遺跡名	所在地	出土品	報告書名
25	岡泉（Ⅲ）遺跡	鹿屋市	手捏ね土器1点	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(30) 鹿屋市教育委員会 1994. 3 岡泉（Ⅲ）遺跡
26	岡泉(Ⅳ）遺跡	鹿屋市	手捏ね土器（甕形）1点	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(21) 鹿屋市教育委員会 1992. 3 岡泉（Ⅳ）遺跡
27	榎木原遺跡	鹿屋市	手捏ね土器様脚台1点	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査 報告書(52)1990. 3 榎木原遺跡
28	飯盛ケ岡遺跡	鹿屋市	手捏ね状の小型甕形土器2点	鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘報告書（3）1993. 3 飯盛ケ岡遺跡
29	西船子遺跡	喜入町	手捏ね土器（鉢形）1点 脚台のつく甕or鉢1点	喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 喜入町教育委員会1986. 3 西船子遺跡
30	下大原遺跡	喜入町	ミニチュア土器（手捏ね後撫）1点 ミニチュア土器（手捏ね土器）1点	喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書（4） 喜入町教育委員会 1988. 3 権木渡瀬調査地区（下大原遺跡・松木田遺跡・水野遺跡）
31	一乗院跡	坊津町	土師器（手捏ね状の土器）1点	坊津町文化財発掘調査報告書（1） 坊津町教育委員会 1982. 3 一乗院跡
32	松尾平遺跡	市来町	手捏ねによる土製品2点 手捏ね状の小型の鉢形土器2点 手捏ね状の鉢形土器1点 小型の丸底壷（手捏ね）　1点 台付鉢状の器形（手捏ね）1点 小型の鉢形土器（手捏ね）1点 杓子状土器（手捏ね）1点	市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（3） 市来町教育委員会1995. 3 松尾平遺跡・安徳遺跡
33	六ツ坪遺跡	日吉町	手捏ね土器2点（表土出土）	日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 日吉町教育委員会 1996. 3 六ツ坪遺跡
34	辻堂原遺跡	吹上町	手捏ね土器（皿状の小型）1点 精製粘土を使用した手捏ね土器1点 手捏ね土器（深鉢形）2点 鉢形土器（小形手捏ね状）2点 壷形土器（小型壷・手捏ね壷）8点 手捏ね土器1点 手捏ね土器（小形土器）4点 手捏ね土器に近い平底　2点 手捏ね土器（壷形土器のﾐﾆﾁｭｱ土器）1点 小形品で手捏ね風1点	吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 吹上町教育委員会 1977. 3 辻堂原遺跡

第24表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（4）

番号	遺跡名	所在地	出土品	報告書名
35	笑童子遺跡	吹上町	手捏ね土器1点（鉢形）	吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書（6） 吹上町教育委員会 1991.3 市坪遺跡・笑童子遺跡
36	赤井田遺跡	吹上町	鉢(手捏ねのミニチュア土器) 1点	吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書(10) 吹上町教育委員会1997.3 赤井田遺跡
37	木落遺跡	金峰町	甕形土器（手捏ね整形）1点 埋甕遺構より出土	金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 金峰町教育委員会 1991.3 木落遺跡・高源寺遺跡
38	大原・宮薗遺跡	下甑村	小型の鉢形土器で手捏ね粗製のもの数点 小型壷形土器(手捏ね粗製無頸壷）1点	下甑県道拡幅事業に伴う調査報告 下甑村教育委員会1974.3 大原・宮薗遺跡
39	野中遺跡	菱刈町	手捏ね土器(口縁部）1点	菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書（5） 菱刈町教育委員会 1990.3 野中遺跡
40	平松原遺跡	姶良町	1号住居跡の出土土器の1.9％ 猪口に似た土器	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査 報告書（58)1991.3 平松原遺跡
41	萩原遺跡	姶良町	手捏ね小型土器42点 手捏ね中型土器17点	姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 姶良町教育委員会1978.3 萩原遺跡
42	萩原遺跡（Ⅱ）	姶良町	住居址その他より109点 鉢形,壷形,盃形等多数	姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 姶良町教育委員会1980.3 萩原遺跡（Ⅱ）
43	萩原遺跡(Ⅲ)	姶良町	小型手捏ね土器4点	姶良町埋蔵文化財発掘調査報告書（5） 姶良町教育委員会 1993.3 萩原遺跡（Ⅲ）
44	保養院遺跡	姶良町	13号住居跡出土3点 土器溜り1出土3点 その他多数	鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査報告書11　1994.3 保養院遺跡
45	中園遺跡	牧園町	丸底の手捏ね土器1点	牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書（2） 牧園町教育委員会 1991.3 中園遺跡
46	東田遺跡	高山町	手捏ね土器7点	鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査報告書（6）1993.3 東田遺跡

第25表　県内手捏ね土器出土遺跡一覧表（5）

番号	遺跡名	所在地	出土品	報告書名
47	東田遺跡	高山町	7号住居跡出土1点 9号住居跡出土2点 14号住居跡出土1点 16号住居跡出土1点 21号住居跡出土1点 22号住居跡出土2点 27号住居跡出土3点 その他出土6点 大半が丸底の鉢形土器	鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査報告書(16)1996.3 東田遺跡
48	花牟礼(大戸原)遺跡	高山町	手捏ね土器18点うち 甕形土器1点 壷形土器2点 鉢形土器1点	高山町埋蔵文化財調査報告書(1) 高山町教育委員会 1981.3 花牟礼(大戸原)遺跡
49	前木場遺跡	吾平町	手捏ね状鉢形土器2点 手捏ね土器1点	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 吾平町教育委員会 1989.3 前木場遺跡・ｾﾀｲ坂遺跡・蘭入寺跡遺跡
50	黒羽子遺跡	吾平町	手捏ね小壷の胴部1点	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 吾平町教育委員会 1991.3 黒羽子遺跡
51	大牟礼遺跡ほか3遺跡	吾平町	手捏ねの鉢形土器3点	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 吾平町教育委員会1985.3 大牟礼遺跡ほか3遺跡
52	鳥ノ巣遺跡	大根占町	小型手捏ね土器(底部)3点 甕形土器1点 鉢形土器1点 器形不明1点	大根占町埋蔵文化財発掘調査事業報告書(5)大根占町教育委員会1992.3 鳥ノ巣遺跡(他6遺跡)
53	貰見原遺跡	根占町	手捏ねの小型鉢形土器1点	根占町埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 根占町教育委員会 1989.3 貰見原遺跡
54	滝見遺跡	根占町	手捏ね土器1点	根占町埋蔵文化財発掘調査報告書(8) 根占町教育委員会 1995.3 滝見遺跡
55	宇宿貝塚	笠利町	小型手捏ね土器1点	笠利町文化財調査報告書 笠利町教育委員会 1979.3 宇宿貝塚
56	池之頭遺跡	東市来町	小型手捏ね土器6点	本報告書

参 考 文 献

鹿児島県立埋蔵文化財センター『保養院遺跡』1994 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（11）

鹿児島県立埋蔵文化財センター『柏堀遺跡・西ノ原B遺跡』2001 鹿児島立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（30）

鹿児島県立埋蔵文化財センター『一ノ谷遺跡』2001 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（31）

鹿児島県教育委員会『成岡・西ノ平・上ノ原遺跡』1983　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（28）

鹿児島県教育委員会『外川江遺跡・横岡古墳』1984 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（30）

東市来町教育委員会『仮牧段遺跡』1991 東市来町埋蔵文化財調査報告書（2）

東市来町教育委員会『陣ケ原遺跡・桜原遺跡』1992　東市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

吹上町教育委員会『辻堂原遺跡』1977　吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

指宿市教育委員会『尾長谷迫遺跡』1986　指宿市埋蔵文化財調査報告書（7）

国分市教育委員会『城山山頂遺跡』1985 国分市埋蔵文化財調査報告書（2）

池畑耕一「成川式土器の細分編年試案」『鹿児島県考古』第14号1980年

図　　版

図版1

遺跡遠景

土層断面

作業風景（1）

作業風景（2）

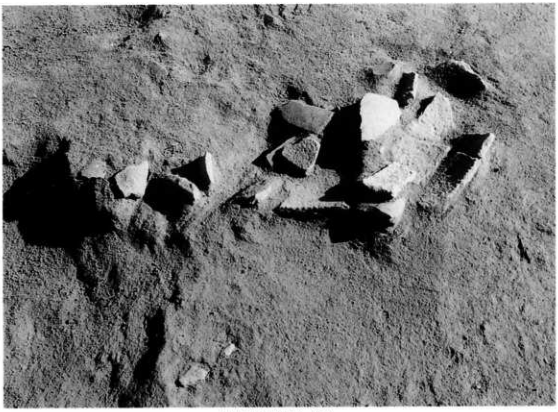
集石1

集石6

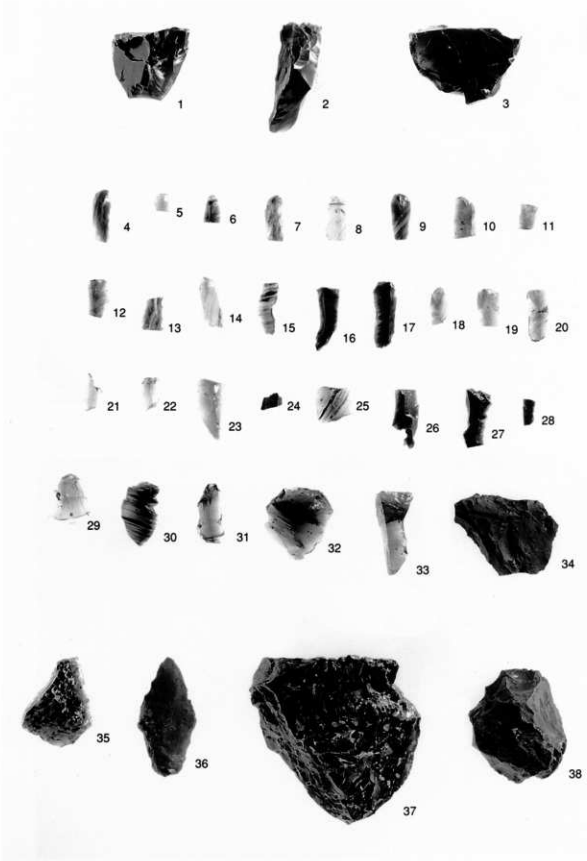
石皿集積

遺物出土状況（1）

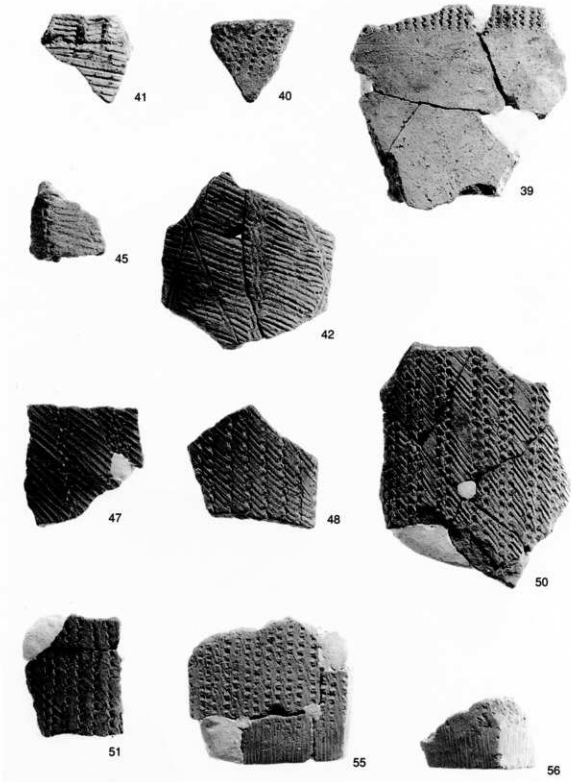
遺物出土状況（2）



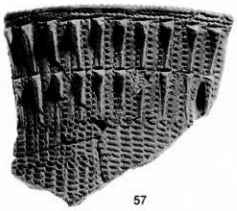
遺物出土状況（3）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38

旧石器



縄文土器（1）


57

58

68

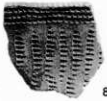
61

67

70

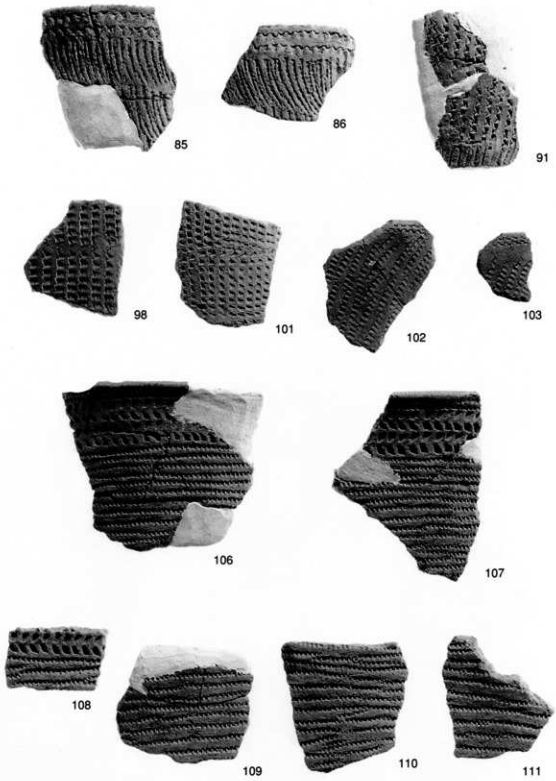
72

80


82

84

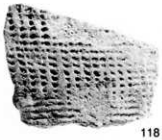
縄文土器（2）



縄文土器（3）

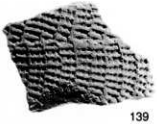
112

116


118

130

133


139

141

147

148

158

160

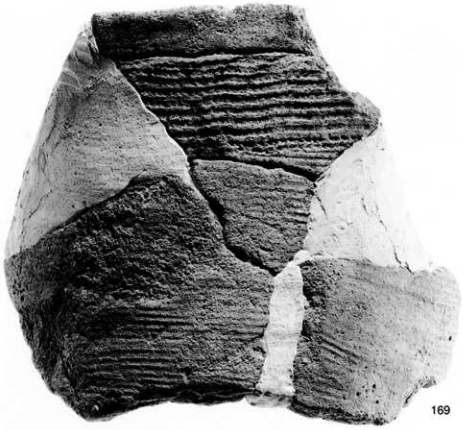
159

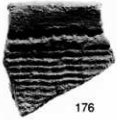
164

162

166

縄文土器（4）





縄文土器（5）

177

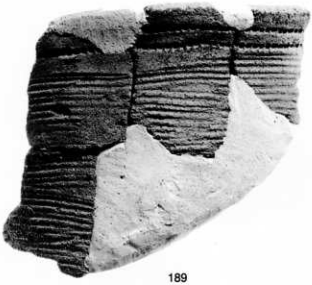
178

180

188

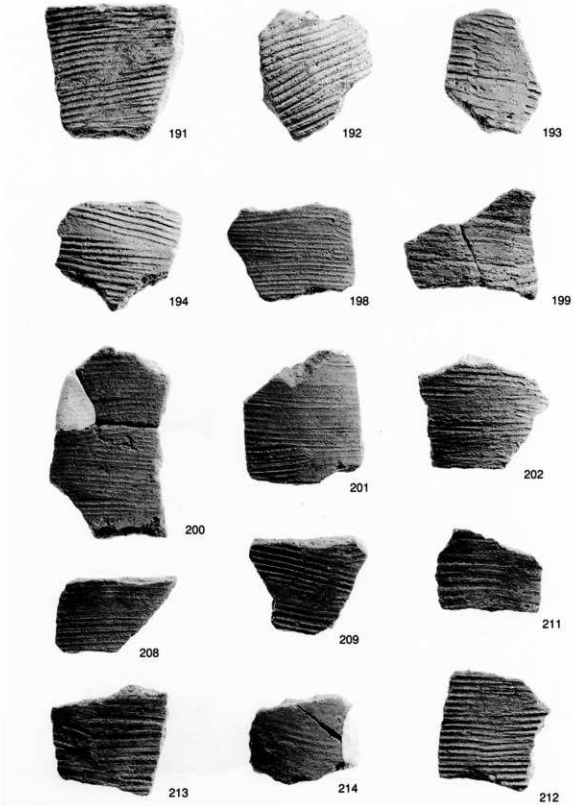
181

186

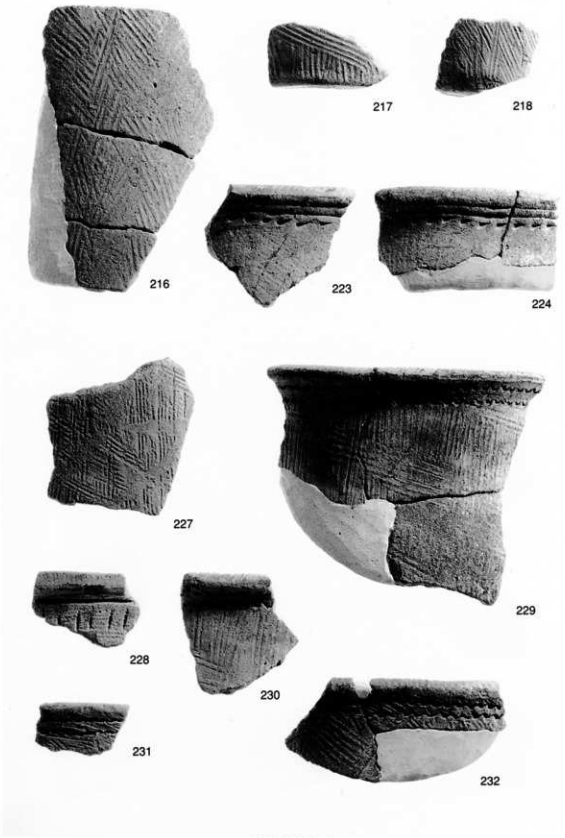

189

190

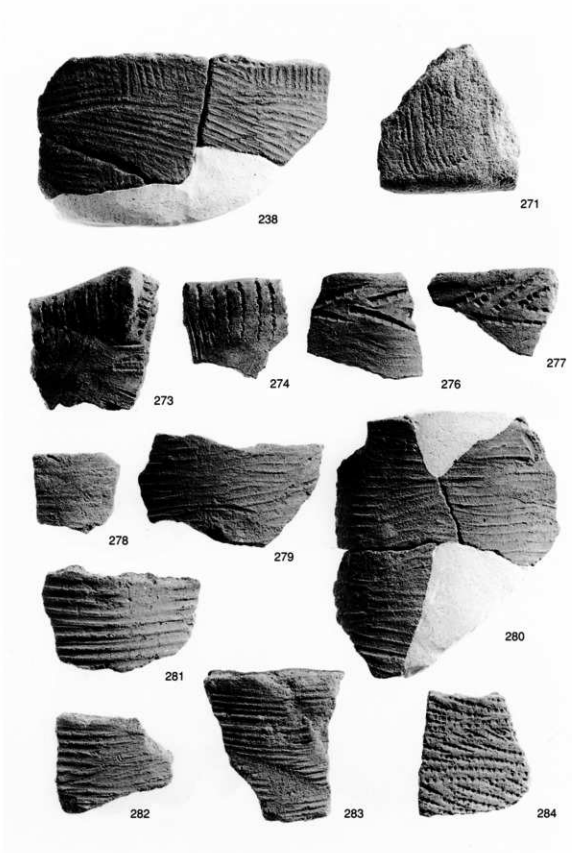
縄文土器（6）



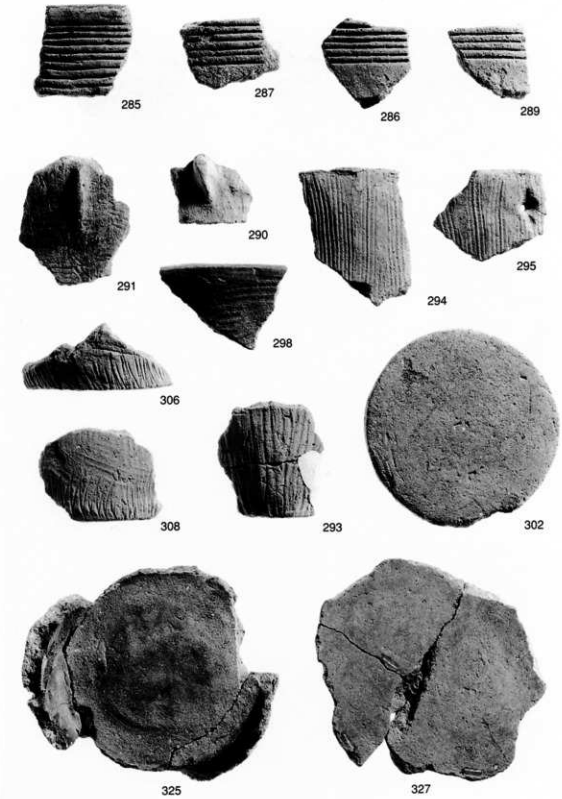
縄文土器（7）



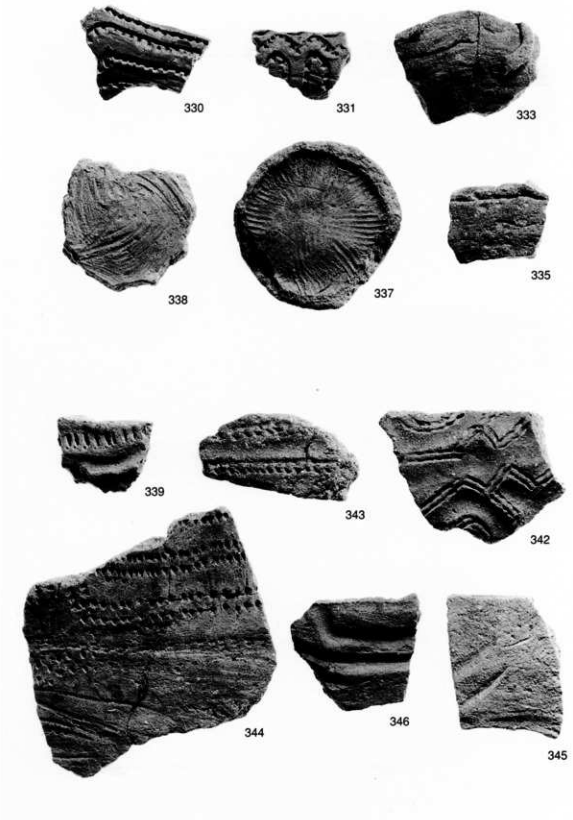
縄文土器（8）



縄文土器（9）



縄文土器（10）



縄文土器（11）

347

348

249

350

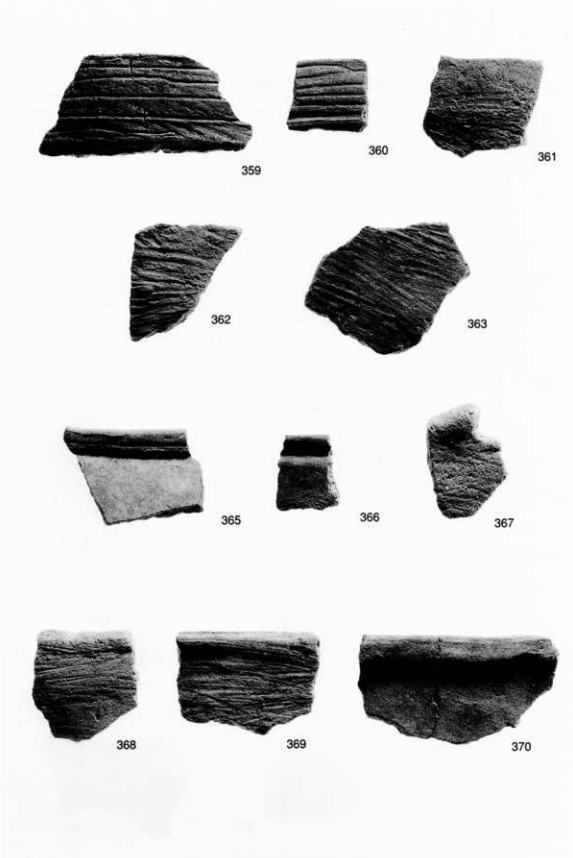
351

356

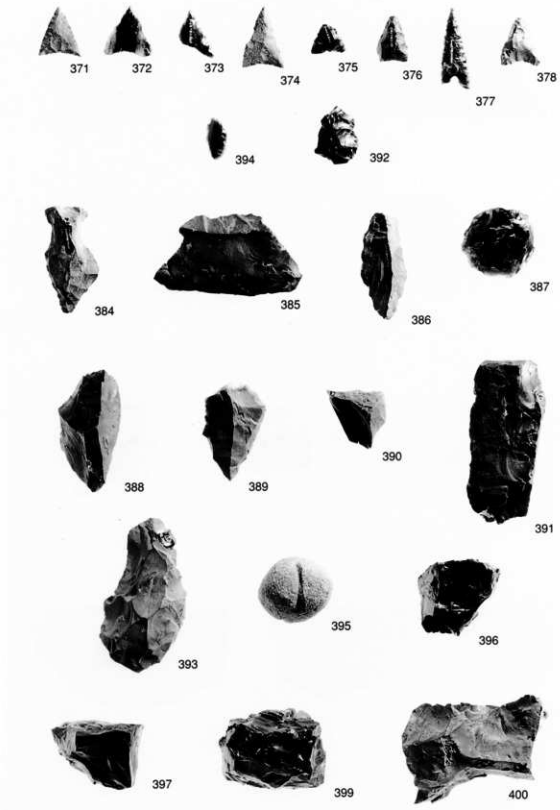
357

358

縄文土器（12）



縄文土器（13）


371
372
373
374
375
376
377
378
394
392
384
385
386
387
388
389
390
391
395
396
393
397
399
400

出土石器（1）

402

403

404

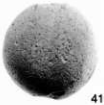
405

406

407

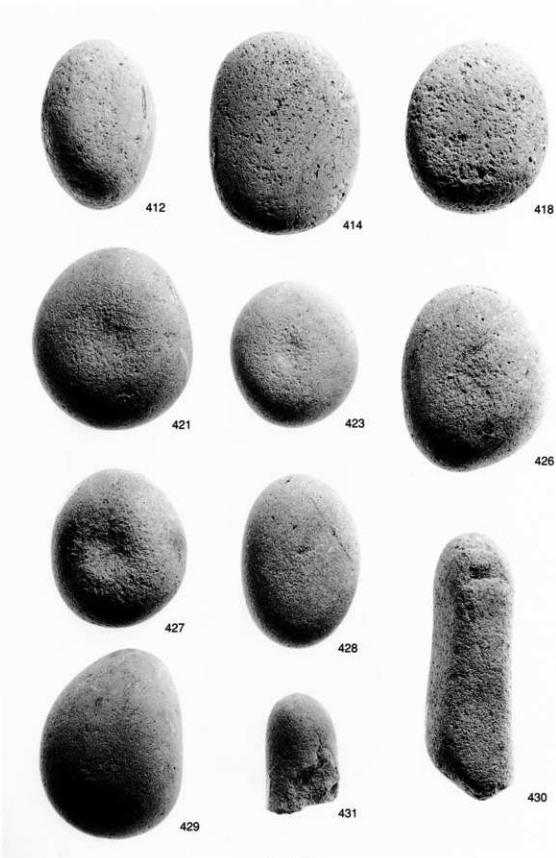
408

409


410

411

出土石器（2）



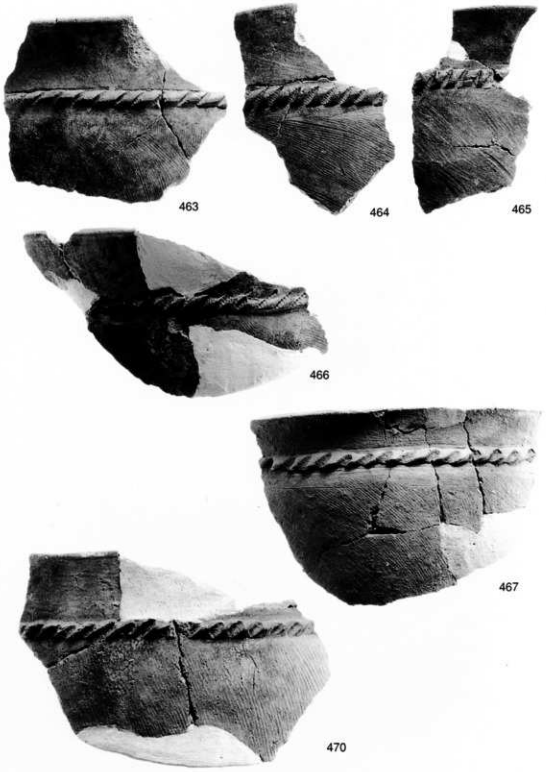
磨石・敲石

432

437

433

石皿



褻形土器（1）

448

459

485

490

甕形土器（2）

533

534

536

545

壺形土器

552

567

568

593

壺・鉢・高坏形土器

599

600

601

602

613

619

高坏脚部・坩形土器・手捏ね土器

出土石器（3）

あ と が き

今回発刊した池之頭遺跡は，旧石器時代・縄文時代・弥生時代～中世の遺物が多数出土している遺跡である。その発掘調査は，8月末～3月初に及ぶものであった。8月の炎天下また，冬場の寒風の中で，斜面という足場の悪い立地条件の下，伐採後の樹根の処理におわれた日々が，懐かしく想い起こされる。

ここにこうして発掘調査報告書を刊行するにあたり，発掘調査に便宜を図ってくださった東市来町教育委員会，発掘作業員として御協力いただいた地元の方々，さらに整理作業に従事していただいた鹿児島県立埋蔵文化財センターの方々に心より感謝申し上げ，あとがきとします。

発掘作業員

天野豊子，有川恵子，幾留ちよ子，今田スミ子，今村良子，岩崎久枝，上園誠行
上野幸子，内野イツ子，奥薗佐知子，椿畑恵美子，鍛冶屋節子，郷家由佳，
木場スミ子，重吉和子，下松　榮，末吉裕子，田渕次男，田渕洋子，茶屋道良子
津守　勉，東郷種二，中村久美，西トシエ，畠中　忠，原之園芙子，東　絹子
東峯タミ子，樋口末男，檜物四郎，廣濱タエコ，星川久美子，堀内朗子
マイケル・L・ジョセフ，増満みき子，松岡三郎，松岡ミチ子，松下フヂエ
元山健一，宮下マキ子

埋蔵文化財センター整理作業員

今村むつみ，福屋民江，有村明子，吉永睦子，菅原愛子，富田恵子

(敬称略)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（32）
南九州西回り自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

池之頭（いけのかしら）遺跡

発行日　２００２年３月１日
発　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-5652　鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地
☎0995－65－8787
印　刷　株式会社　朝日印刷
〒890-0055　鹿児島市上荒田町854－1
☎099－251－2191